
芦屋町コミュニティ活動状況調査 結果報告書

平成 27 年 3 月
福岡県 芦屋町

～ 目 次 ～

I 調査計画	1
II 回答者の属性	3
III 調査結果	7
【1】町の暮らしやすさについて	7
1. 芦屋町の住みやすさ	7
2. 芦屋町の居留意向	11
【2】町の取り組みに対する満足度・重要度について	14
1. 取り組みの満足度と重要度	14
2. 満足度と重要度の相関図による分析	22
【3】その他、まちの重点的な取り組みなどについて	25
1. 地域について	25
(1) 近所との付き合いの程度	25
(2) 自治区の加入状況	26
(3) 自治区の活動に今後必要と思うこと	27
2. 環境問題への取り組みについて	30
3. 防災について	32
4. 観光の活性化について	34
5. 教育について	37
(1) 町の小中学校の教育に対する評価	37
(2) 小中学生の教育向上のため力を入れるべきこと	39
6. 協働のまちづくりについて	42
(1) 町の計画や取り組みに対する関心	42
(2) まちづくりへの住民意見の反映について	43
(3) ボランティア活動への参加状況について	44
(4) 住民の意見を反映するため力を入れるべきこと	45
(5) 住民の意見を集めるため力を入れるべきこと	48
7. 芦屋町のまちづくりについての意見等	51
資料編	65
1. 満足度と重要度の相関図による分析（クロス集計）	65
2. 調査票	76

I 調査計画

【調査目的】

芦屋町の住民における、これまでの町の取り組みに対する評価や、今後のまちづくりに対する意向を把握するとともに、平成 24 年度に実施した同様の調査結果との比較・分析を行うことで、課題を抽出し、今後の取り組みに資することを目的として実施した。

【調査対象】

20 歳以上の町民（住民基本台帳による無作為抽出）

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

平成 27 年（2015 年）1 月～2 月

【回収結果】

発送数 ----- 2,000 件

回収数 ----- 900 件

回収率 ----- 45.0%

◆居住地区別回収状況（上段：件数、下段：構成比）◆ （問1回答結果）

合計	芦屋小学校区	芦屋東小学校区	山鹿小学校区	無回答
900	282	238	358	22
100.0%	31.3%	26.4%	39.8%	2.4%

【報告書の見方について】

1. 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
2. 2つ以上の回答が可能な複数回答質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
3. 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数^{注1}（標本数^{注2}）である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数^{注3}を「n」で表記している。
4. 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性^{注5}等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計^{注4}する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
5. 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
6. 設問によっては、平成24年度に実施した同様の調査（「前回調査」と表記）及び平成21年度に実施した同様の調査（「前々回調査」と表記）との比較を行っている。
7. この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。

注1【基数】構成比(%)算出の基となる数値

注2【標本数】回収数のこと

注3【該当数】例えば、問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数(標本数)、あるいはクロス集計における各属性(「男性」や「30歳代」...)など、限定された回答者数

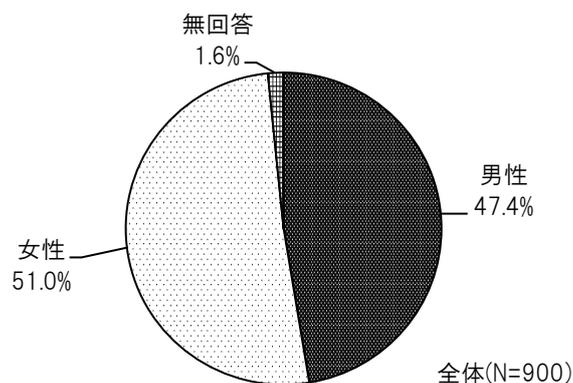
注4【クロス集計】性別や年齢別など、対象者の属性で調査票を分類し、その分類ごとに質問に対する回答結果を集計する方法

注5【属性】性別や年齢、職業や家族構成など、回答した対象者の特徴を把握する項目

Ⅱ 回答者の属性

1. 性別構成比（問2）

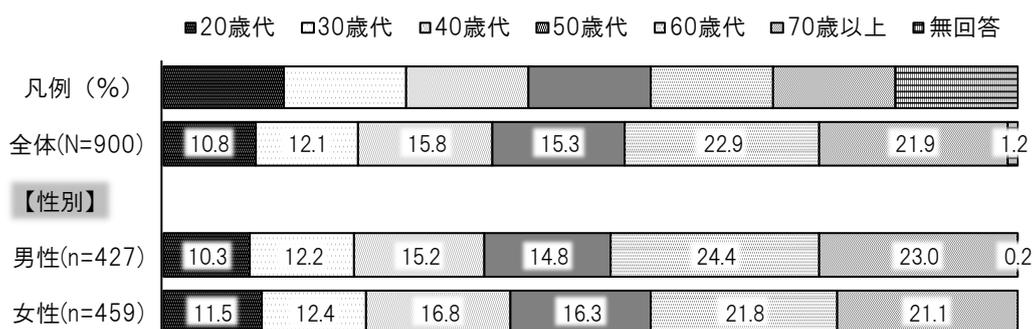
対象者の性別構成比は、男性が 47.4%、女性が 51.0%と、おおむね 2 分した構成となっている。



2. 年齢別構成比（問3）

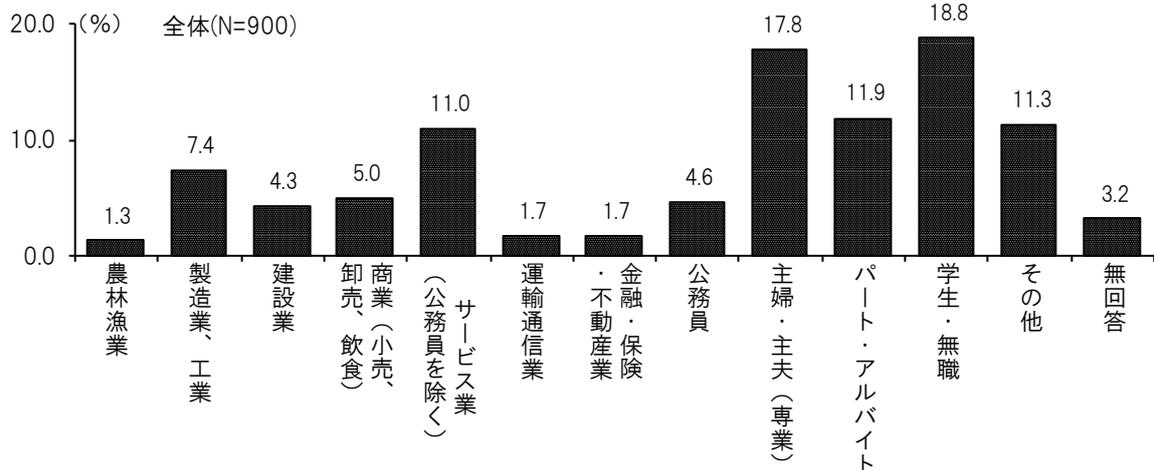
対象者の年齢別構成比は、「60 歳代」の割合が 22.9%と最も高く、ほぼ並んで「70 歳以上」が 21.9%で続き、次いで「40 歳代」（15.8%）、「50 歳代」（15.3%）の順となっている。『50 歳以上』の合計で、全体の 6 割（60.1%）を占めている。

性別でみると、男性は女性に比べ『50 歳以上（合計）』の割合がやや高いが、大きな差は目立たない。

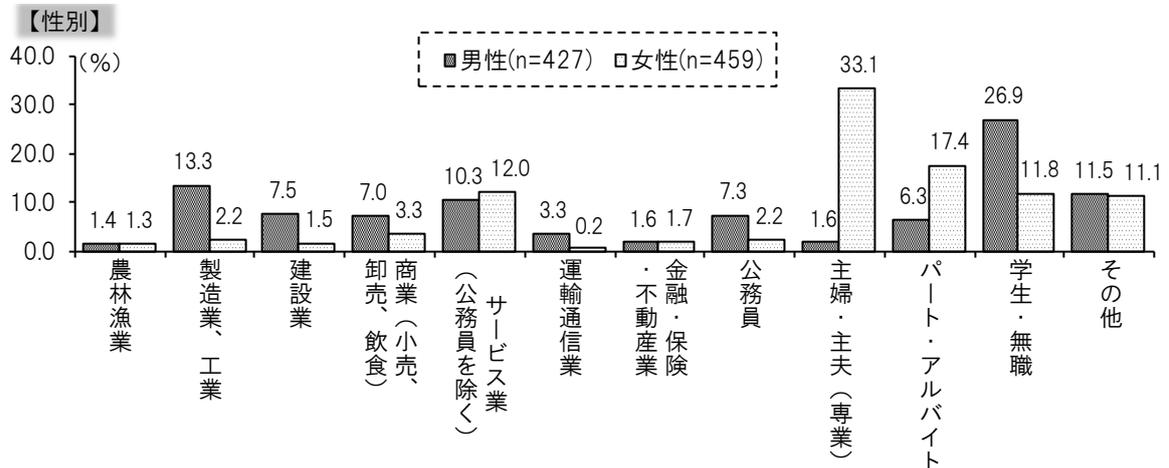


3. 職業別構成比（問4）

対象者の職業別構成比は、「学生・無職」の割合が18.8%と最も高く、ほぼ並んで「主婦・主夫（専業）」が17.8%で続いている。以下、「パート・アルバイト」（11.9%）、「サービス業（公務員を除く）」（11.0%）の順となっている。なお、「その他」の回答は11.3%となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「製造業・工業」や「学生・無職」の割合が高く、女性は「専業主婦」や「パート・アルバイト」の割合が男性を大きく上回っており、差がみられる。



注：性別の図では「無回答」を省略している。

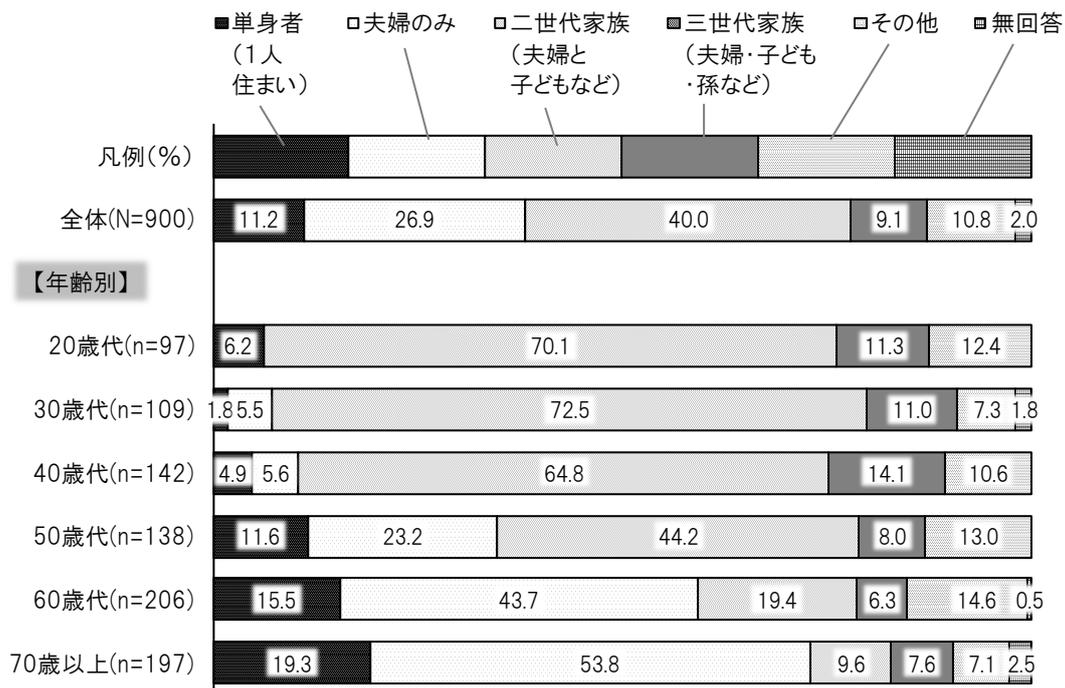
◆「その他」の内訳◆

・医療関係・病院	・教育機関	・再雇用
・年金受給者	・福祉職	・自営業
・介護職	・障害児施設	・電気工事業
・看護師	・自由業	・専門職
・非常勤・嘱託	・団体職員	・美容関係

4. 同居家族構成（問5）

同居の家族構成をみると、全体では「二世世代家族（夫婦と子どもなど）」の割合が40.0%を占め最も高く、次いで「夫婦のみ」（26.9%）、「単身者（1人住まい）」（11.2%）の順となっている。

年齢別では、20～40歳代では「二世世代家族（夫婦と子どもなど）」が中心となっているが、年齢が上がるほど「単身者（1人住まい）」や「夫婦のみ」の割合が高くなる傾向にある。



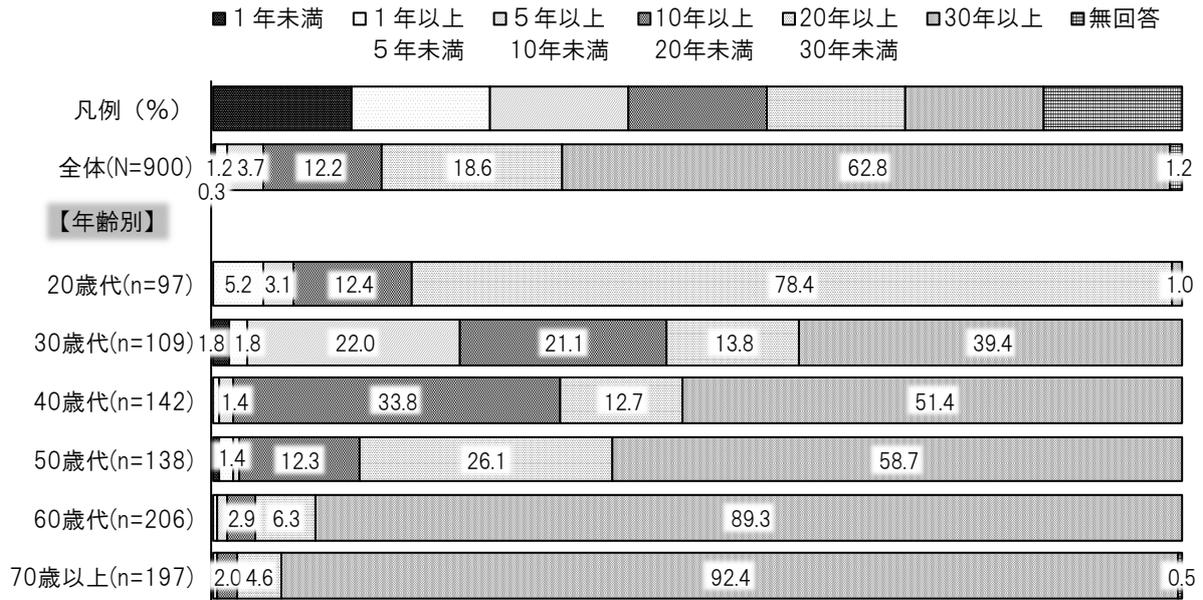
◆「その他」の内訳◆

- ・兄弟姉妹
- ・四世代
- ・施設入所
- ・夫婦、姑、夫の妹
- ・夫婦、孫
- ・夫婦と夫の姉
- ・夫婦と義姉
- ・父母、本人、妹、子

5. 芦屋町での居住年数（問6）

対象者の芦屋町での居住年数は、全体では「30年以上」の割合が6割以上を占め最も高く（62.8%）、次いで「20年以上30年未満」（18.6%）、「10年以上20年未満」（12.2%）の順となっている。

年齢別では、年齢が上がるほど居住年数も比例して長い傾向にある。



Ⅲ 調査結果

【1】町の暮らしやすさについて

1. 芦屋町の住みやすさ（問7）

（1）芦屋町の住みやすさ評価

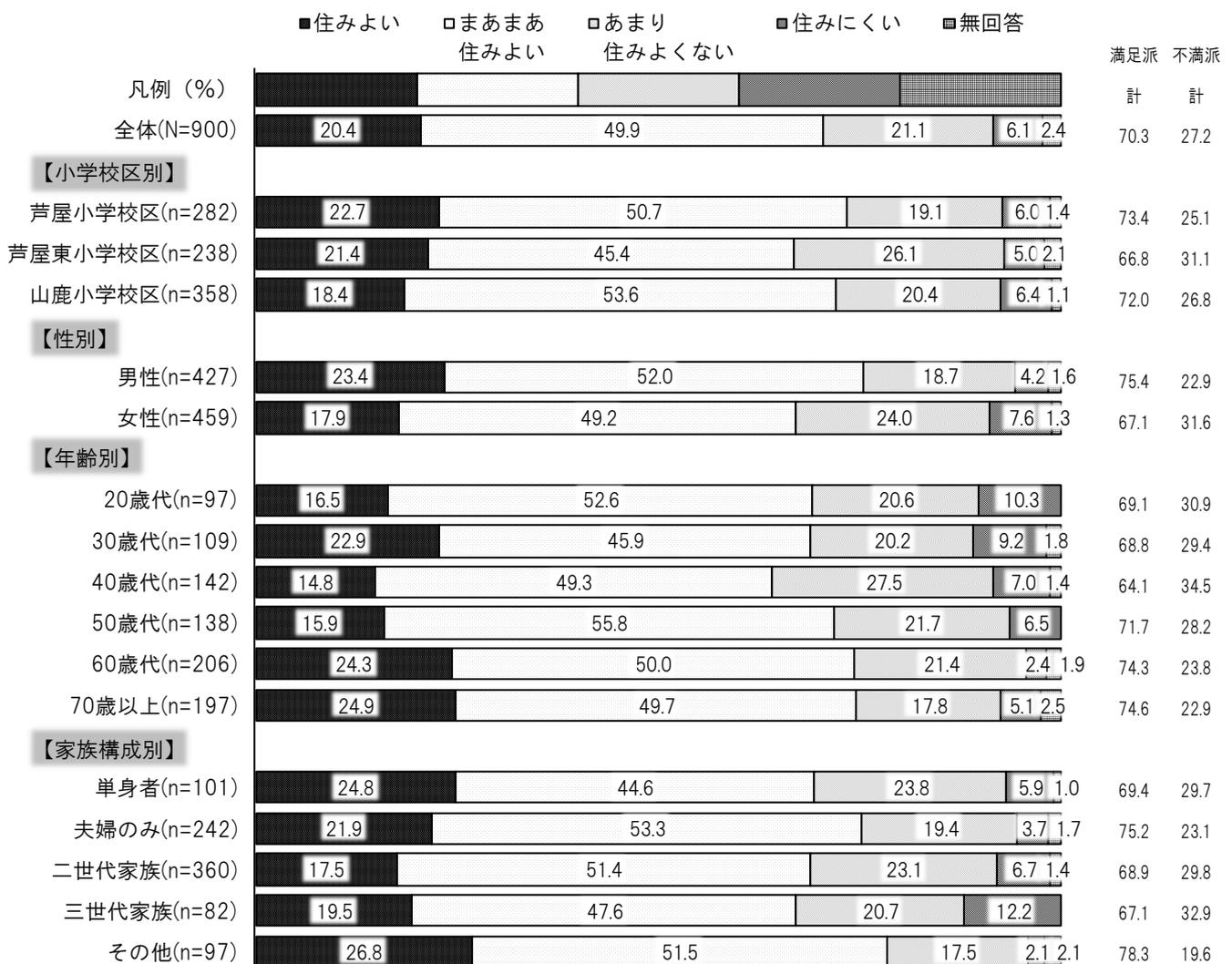
問7 芦屋町は住みよいと感じていますか。（1つに○）

芦屋町の住みやすさについては、全体では「住みよい」が20.4%、「まあまあ住みよい」が49.9%で、合計7割（70.3%）が『住みよい（以下「満足派」と表記。）』と回答している。「あまり住みよくない」（21.1%）と「住みにくい」（6.1%）を合計した『住みにくい（以下「不満派」と表記。）』割合は27.2%である。

小学校区別では、芦屋東小学校区で『不満派』の割合が、他の地区をやや上回るものの、いずれの地区も6割以上が満足派である。

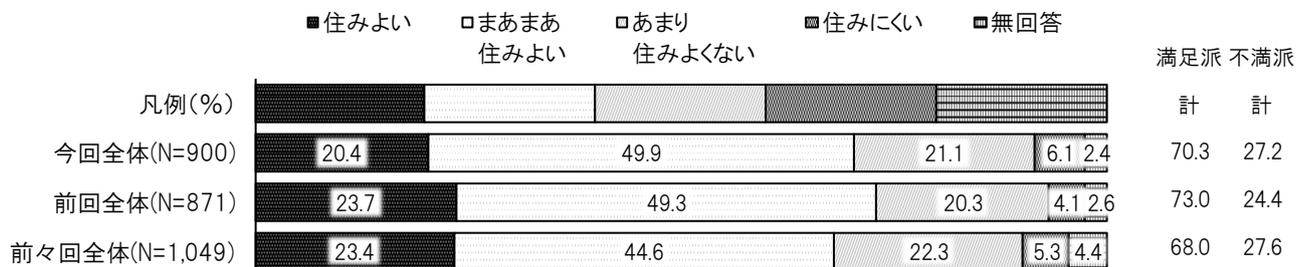
『満足派』の割合は、性別では男性、年齢別では50歳以上において高くなっている。

また、家族構成別では、夫婦のみやその他の家族構成において『満足派』の割合が高くなっている。



時系列推移をみると、『満足派』の割合は、前回調査の73.0%から、今回は70.3%とやや低下した。

◆時系列推移◆



(2) 住みやすさ評価の理由(抜粋^注)

1. 芦屋町は、住みよいと思う理由(120件)		件数
自然が豊か。		7
生まれ育った町だから。		5
住み慣れている。		4
自然環境に恵まれている。		4
環境がよい。		3
子どもの頃から住んでいるから。		3
他の町に住んだことがないから。		3
長年住んでいるから。		3
海・山があり、空気がきれい。		2
近所の方が優しい。		2
静かな所。		2
先祖代々住んでいる。		2
地元だから。		2
平和。		2
住民の人間性が好き。		2
友達がたくさんいるから。		2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

2. 芦屋町は、まあまあ住みよいと思う理由(326件)		件数
交通の便が悪い。		38
住み慣れた町だから。		9
静かなところ。		9
車を利用すれば便利。		9
生まれ育った町だから。		8
バスの本数が少ない。		8
今は車があるため不便さを感じていないが、老後は心配。		7
環境がよい。		5
自然が豊か。		5

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

2. 芦屋町は、まあまあ住みよいと思う理由(326件)続き	件数
自然環境がよい。	7
昔から住んでいるので。	5
不便を感じていないから。	5
特になし。	5
買物・交通が不便。	4
駅まで行くのが不便。	4
自然環境には恵まれているが、交通機関が不便である。	4
店が少なく買物が不便。	4
海に近くて静か。	4
環境は悪くないが交通の便が悪い。	3
車がないと移動しにくい。	2
芦屋以外の所を知らない。	2
今のところ、住みにくさを感じない。	2
災害が少ない。災害がない。	2
景色がよい。	2
静かだが交通の便が悪い。	2
静かで空気がきれい。	2
自然がたくさんある。	2
他の町村での居住経験がないので、比較できない。	2
のんびりしているから。	2
ほどよい田舎だが、交通の便が悪い。	2
高齢になり、車に乗れなくなると買物などに困る。	2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

3. 芦屋町は、あまり住みよくないと思う理由(216件)	件数
交通の便が悪い。	62
スーパー等の商業施設が少ない。	14
JR等交通機関が不便。	9
駅まで遠い。	7
買物や交通が不便。	7
買物が不便。	6
車がないと生活しづらい。	6
バスの本数が少ない。	5
大型スーパーがない。	3
便利が悪いから。	3
病院・買物が不便。	3
すべてにおいて便利が悪い。	2
何かにつけて不便さを感じる。	2
飛行機や車の騒音。	2
自衛隊の騒音。	2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

4. 芦屋町は、住みにくいと思う理由(66件)	件数
交通の便が悪い。公共交通機関のアクセスが悪い。	24
スーパーなど買い物をする場所が少ない。	4
交通機関や買物が不便。	3
交通の便が悪く、店が少ない。	3
買物が不便。	2
街灯が少ない。	2
駅まで遠い。	2
大きなスーパーがない。	2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

2. 芦屋町の居留意向（問8）

（1）芦屋町の居留意向

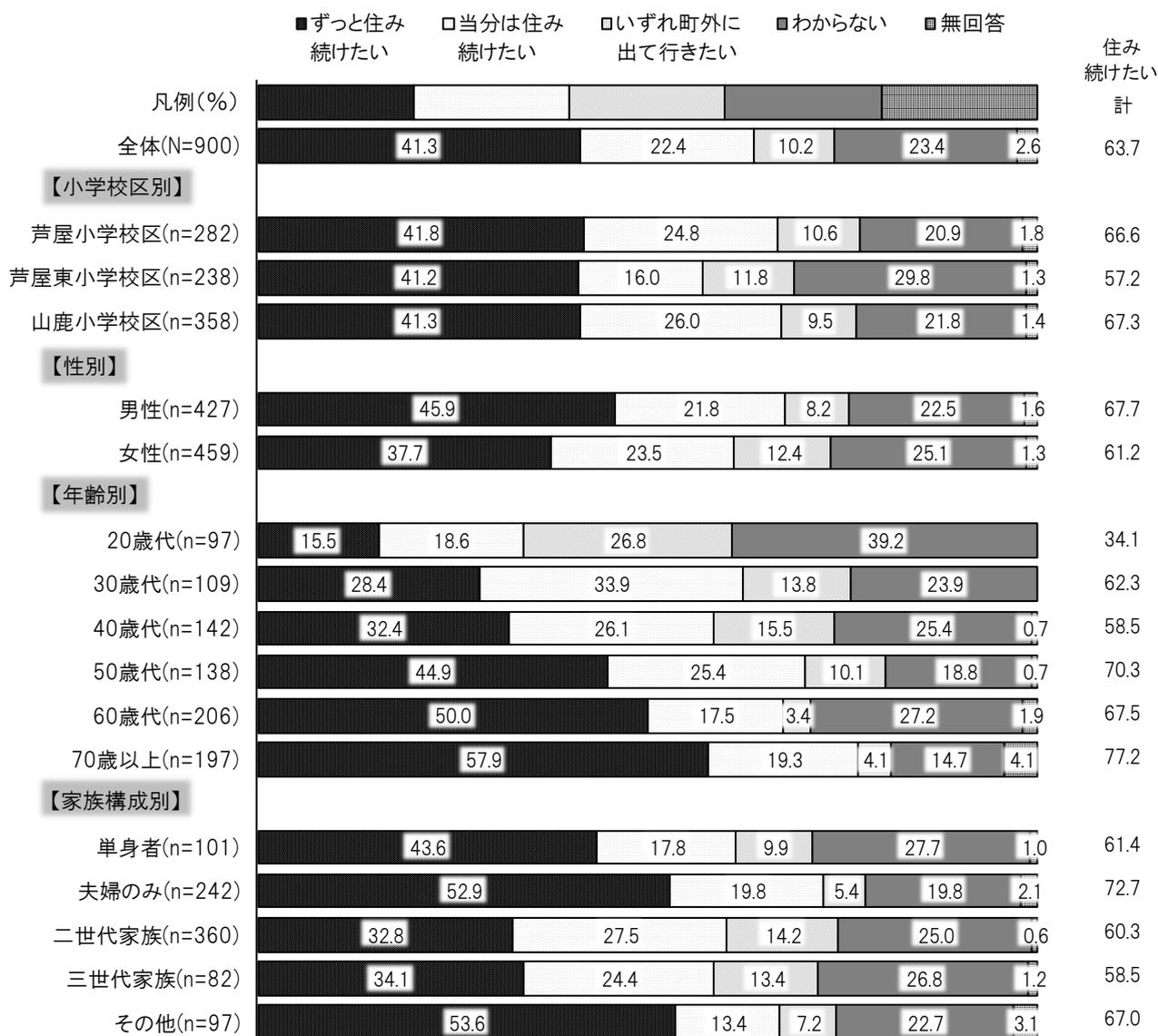
問8 今後も芦屋町に住み続けたいですか。（1つに○）

芦屋町の居留意向については、全体では「ずっと住み続けたい」が41.3%、「当分は住み続けたい」が22.4%で、合計6割以上（63.7%）が『住み続けたい』と回答している。「いずれ町外に出て行きたい」割合は10.2%であった。

小学校区別では、芦屋東小学校区で「当分は住み続けたい」割合がやや低く、「わからない」割合が高い。

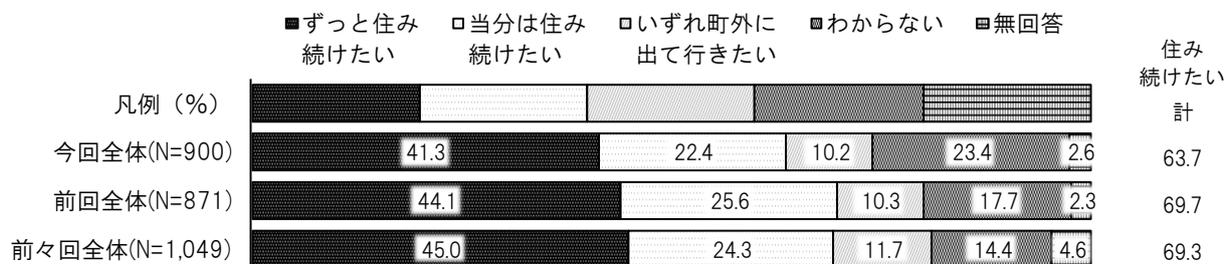
性別では、男性は女性に比べ「ずっと住み続けたい」割合が高く、年齢別では、年齢が上がるほど「ずっと住み続けたい」割合も高くなる傾向にある。

家族構成別では、夫婦のみやその他の世帯で「ずっと住み続けたい」割合が他の層を上回っている。



時系列推移をみると、『住み続けたい』の割合は、前回調査の 69.7%から、今回は 63.7%とやや低下し、「わからない」の割合が増加している。

◆時系列推移◆



(2) 居住意向の回答理由(抜粋^注)

1. ずっと住み続けたい理由(272件)	件数
持家だから。	59
生まれ育った町だから。	25
住み慣れた所だから。	9
今さら他の地域に移ることは考えられない。	9
ふるさとだから。	6
家を建てたから。	6
住みよいかから。	6
ずっと住んでいるので。	6
芦屋町が好きだから。	5
自然に恵まれている。	4
高齢者だから。	3
環境がよい。	2
子ども達が近くにいる。	2
自然が豊か。	2
元気である間は住み続けたい。	2
先祖代々住んでいるので。	2
町外に出る理由がない。	2
年齢からして移住できない。	2
育った町だから。	2
祖父母の代からずっと住んでいるから。	2
生まれ育った土地で深い愛着がある。	2
他に行く所がない。	2
特になし。	2
長く住んでいるので愛着がある。	2
引っ越す理由がない。	2
町外に出て行く力がない。	2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

2. 当分は住み続けたい理由(147件)	件数
持家があるから。	31
子どもが卒業するまで。	5
仕事の状況次第。	5
他に行く理由がない。	5
先のことはわからない。	4
親も芦屋町に住んでいるので。	4
他に行く所がない。	4
住み慣れているから。	4
高齢のため他への移住は考えられない。	4
家を建てたから。	3
他町に移ろうにも、金銭的に余裕がない。	3
引っ越す予定はない。	3
老後の生活環境が心配。	3
現在は不便を感じていない。	2
仕方がないから。	2
自然が豊か。	2
住環境はよい。	2
歳をとった時にどうなるかは不明。	2
当分は住み続けるつもりだが先のことはわからない。	2
特になし。	3

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

3. いずれ町外に出て行きたい理由(86件)	件数
交通の便が悪い。	7
就職先がない。	4
買物が不便。	3
北九州に引っ越したい。	3
車がなくても生活できる所へ移りたい。	3
高齢になると不便そうだから。	3
飛行機や車の騒音。	2
実家近郊に住む計画がある。	2
住みよいと思えないから。	2

注：表では2件以上の回答を抜粋している。

【2】町の取り組みに対する満足度・重要度について

1. 取り組みの満足度と重要度（問9）

問9 芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」から1つずつに○）

本町の施策への取り組みについて、39の項目を掲げ、それぞれの「満足度」「重要度」を4段階評価で回答を得た。各施策の満足度と重要度については、次のようなステップで回答結果を整理し、分析した。

①満足度、重要度の平均評定値による分析

満足度と重要度は以下に示す平均評定値（加重平均値）を算出する方法で点数化している。

- 「満足度」については「満足」「やや満足」への回答とともに、「やや不満」「不満」という選択肢もある。そのため、この「満足度」をよりの確に分析するために、平均評定値（加重平均値）による指標化を行った。
- 平均評定値（加重平均値）は、「満足」に4点、「やや満足」に3点、「やや不満」に2点、「不満」に1点の係数（ウエイト）を設定し、
【「満足」の回答件数×4点+「やや満足」の回答件数×3点+「やや不満」の回答件数×2点+「不満」の回答件数×1点】÷【回答者件数－無回答件数】
の計算によって算出し、指標としている。
- この指標によって、「満足度」の強弱を、より明確に分析することができる。
- 「重要度」についても、同様な算出方法で平均評定値を算出している。

②満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度それぞれの平均評定値をもとに、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、39の施策を散布図上に相関図として示した。

39の行政施策分析項目は次表のとおりである。

◆町の取り組み◆

	項目	代表的な事業など
1	公共交通機関の利便性	・ 町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など
2	道路網の利便性や生活道路の整備	・ 幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など
3	交通安全の推進	・ 交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況
4	上水道の安定供給	・ 北九州市による水道事業の経営
5	下水道	・ 浄化センターなどの施設維持、下水道管の維持
6	地震や風水害などの防災対策	・ 自主防災組織への支援、防災地図や防災訓練の実施、防災無線の整備や避難所の設置状況など
7	火事などの消防対策	・ 消防車などの消防機材の整備、消防団活動の支援
8	犯罪などの防犯対策	・ 自治防犯組合の町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯の設置
9	町並み、景観の向上	・ 誘導看板や総合案内板などの整備状況、屋外看板などの許可制度
10	公園や緑地の充実	・ 中央公園や各自治区の公園、夏井ヶ浜はまゆう公園や海浜公園、魚見公園などの維持や整備
11	ごみの資源化や減量化	・ コンポスト助成制度や、ダンボールコンポストの普及、子ども会などによる資源物の集団回収奨励制度
12	海や川などの自然環境の保全	・ ラブアース活動（海岸線や河川の一斉清掃）など
13	生活環境の向上	・ 不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など
14	農業の振興	・ 農業用道路や用水路、ため池などの維持や整備
15	漁業の振興	・ 漁港や漁業施設の維持や整備
16	商業の振興	・ にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など
17	商店街などの中心市街地の整備	・ 空き店舗活用の補助制度、商工会事業への支援など
18	観光の振興	・ 国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信
19	イベントの開催	・ あしや砂像展実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援
20	地域医療の充実	・ 中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携

	項目	代表的な事業など
21	健康づくり事業の充実	・ 特定健診・がん検診の実施、健康・運動教室の実施
22	高齢者福祉の充実	・ 介護予防事業、老人憩いの家の運営、敬老祝金、給食サービスの実施など
23	障がい者福祉の充実	・ 放課後等の障がい児デイサービス、福祉タクシーチケット給付、紙おむつ給付の実施など
24	児童福祉、子育て支援の充実	・ 乳幼児子ども医療費の拡充、学童クラブの運営、子育て支援センターの運営や育児教室の実施など
25	学校教育と就学前の教育の充実	・ 小学校4年生までの35人学級の実施や中学校3年生への放課後特別授業の実施 ・ さわやかプロジェクト（確かな学力・豊かな心・特別支援教育・たくましいからだ）の推進 ・ 保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携
26	生涯学習の充実	・ 各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援
27	公民館などの社会教育施設の充実	・ 中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営
28	人権教育の推進	・ 人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など
29	地域などのコミュニティの活性化	・ 自治区活動への支援、自治区担当職員制度（職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動）の推進、町民体育祭の実施
30	レクリエーション、スポーツの振興	・ 総合体育館・武道館などの運営、スポーツ教室の開催、スポーツ大会や体育協会への支援
31	歴史・文化の振興	・ 芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営
32	国際交流の推進	・ 国際交流協会への支援、中学生のホームステイ事業
33	男女共同参画の推進	・ 男女平等や相互理解についての講演会や啓発などの実施
34	雇用対策や就業環境の向上	・ 企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など
35	町内情報通信基盤の整備	・ 公共施設間の光ファイバー網の整備、インターネットを利用した住民サービスの提供
36	町の情報の積極的な公表	・ 広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ運営
37	まちづくりへの住民参画・協働	・ 住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映
38	競艇事業の振興	・ 売上向上に向けた取り組み（発売日数の増、グレードレース誘致、モーニングレース実施など）、ボートピアの設置、施設の整備改善、多目的利用
39	行財政改革の推進	・ 歳出の抑制、自主財源の確保、各種事務事業の見直しなど

(1) 満足度

満足度が最も高い取り組みは、「下水道」(平均評定値 3.23)であった。次いで「上水道の安定供給」(3.22)、「火事などの消防対策」(3.06)が続き、以下「健康づくり事業の充実」(2.98)、「ごみの資源化や減量化」(2.93)の順となっている。

最も満足度が低い取り組みは「公共交通機関の利便性」(1.99)で、次いで「商店街などの中心市街地の整備」(2.08)、「地域医療の充実」(2.22)、「生活環境の向上」(2.32)、「雇用対策や就業環境の向上」(2.40)などがあげられる。

前回調査と比較して、満足度が相対的に向上した取り組みは「公園や緑地の充実」「競艇事業の振興」「雇用対策や就業環境の向上」「町並み、景観の向上」「海や川などの自然環境の保全」などがあげられる。

一方で、満足度が相対的に低下した取り組みは「地域医療の充実」「商店街などの中心市街地の整備」「イベントの開催」「公共交通機関の利便性」「交通安全の推進」などがあげられる。

(2) 重要度

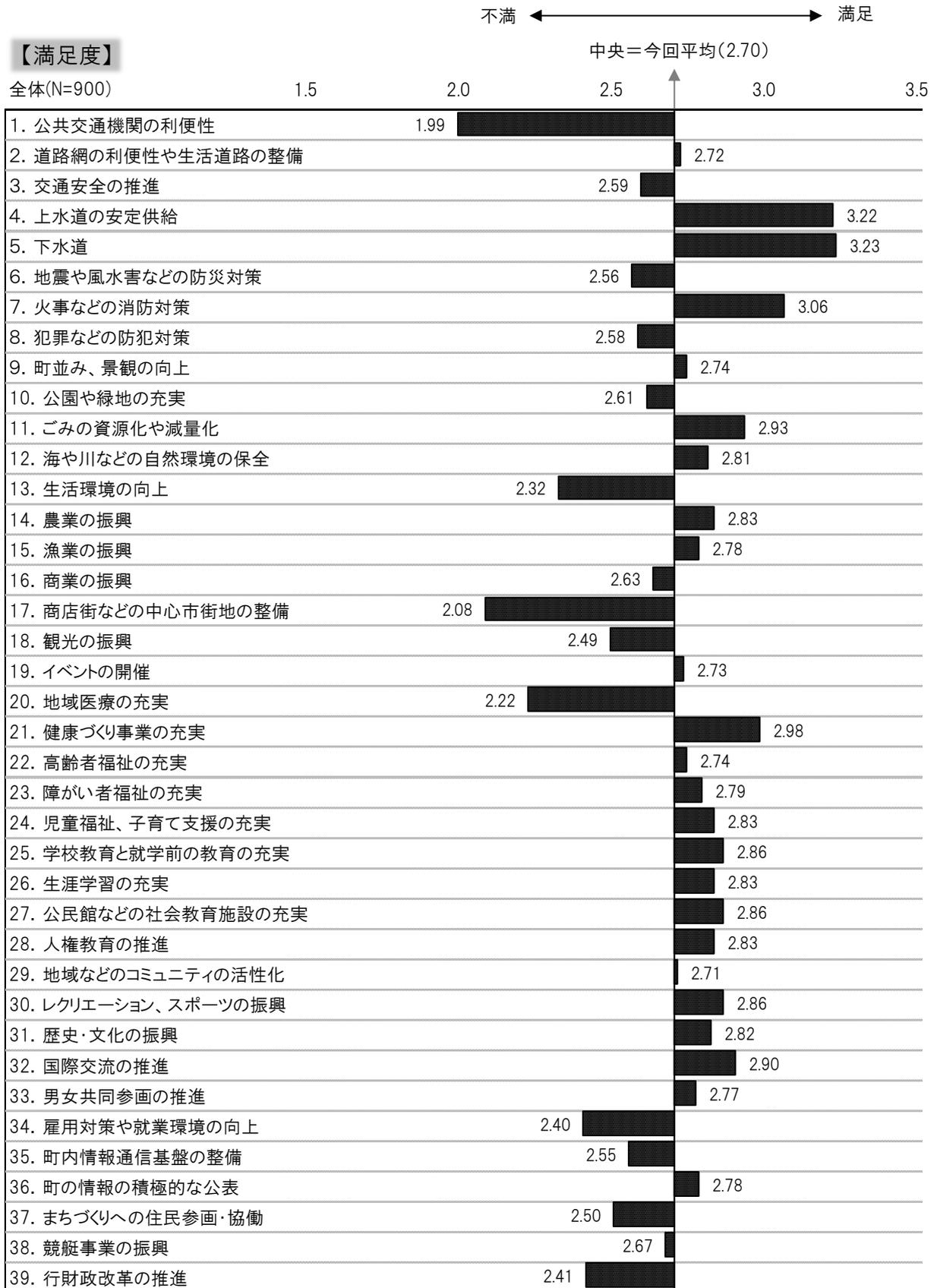
重要度が最も高い取り組みは、「地震や風水害などの防災対策」及び「地域医療の充実」(各 3.38)であった。次いで「火事などの消防対策」(3.34)、「犯罪などの防犯対策」(3.32)、「下水道」(3.27)の順となっている。

一方、最も重要度が低い取り組みは、「男女共同参画の推進」(2.58)で、次いで「人権教育の推進」(2.60)、「国際交流の推進」(2.64)、「歴史・文化の振興」(2.66)、「地域などのコミュニティの活性化」(2.72)などがあげられる。

前回調査と比較して、重要度が相対的に向上した取り組みは「地域などのコミュニティの活性化」「レクリエーション、スポーツの振興」「商店街などの中心市街地の整備」「イベントの開催」「児童福祉、子育て支援の充実」などがあげられる。

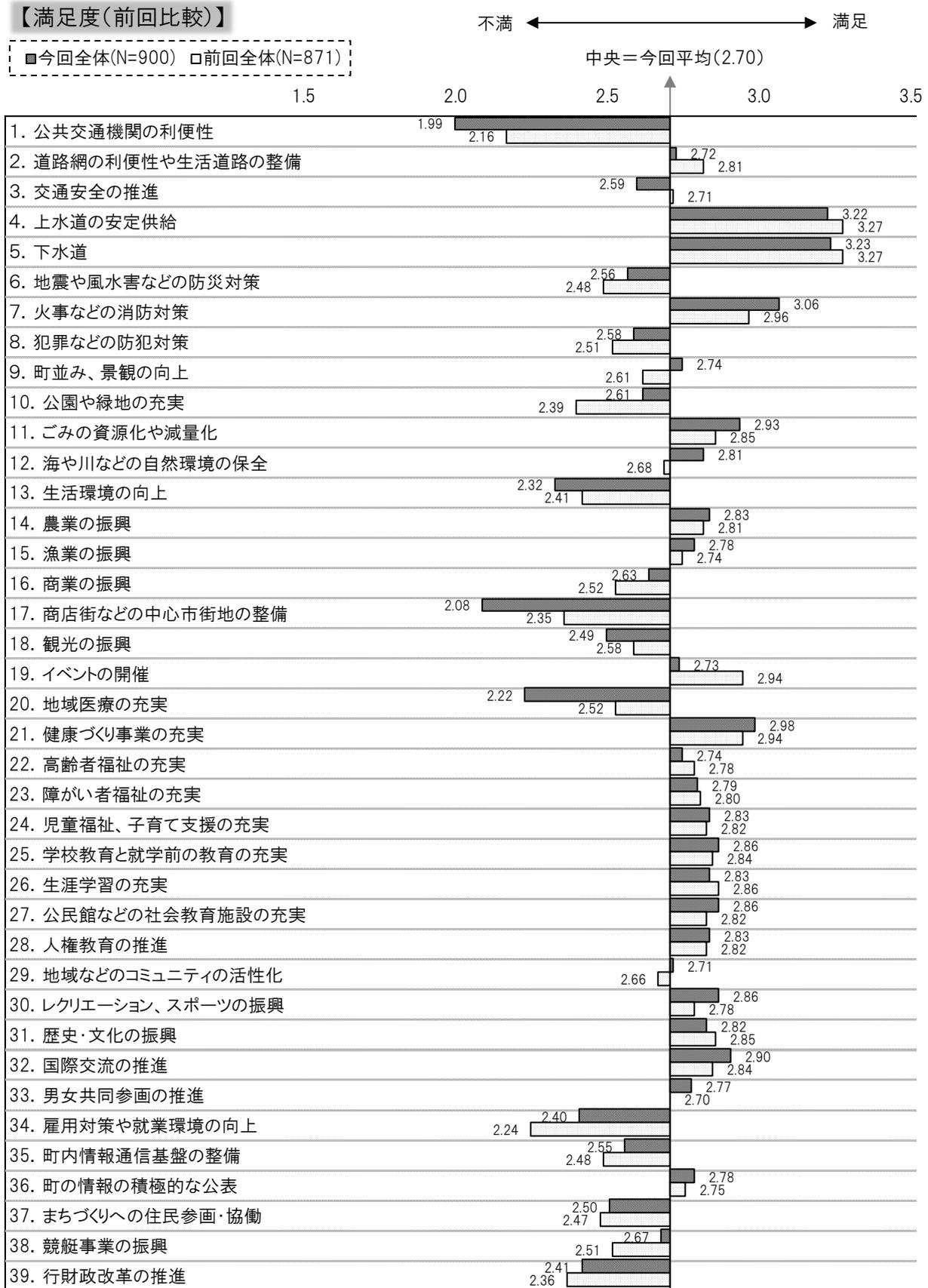
一方で、重要度が相対的に低下した取り組みは「ごみの資源化や減量化」「商業の振興」「まちづくりへの住民参画・協働」「農業の振興」などがあげられる。

◆満足度◆



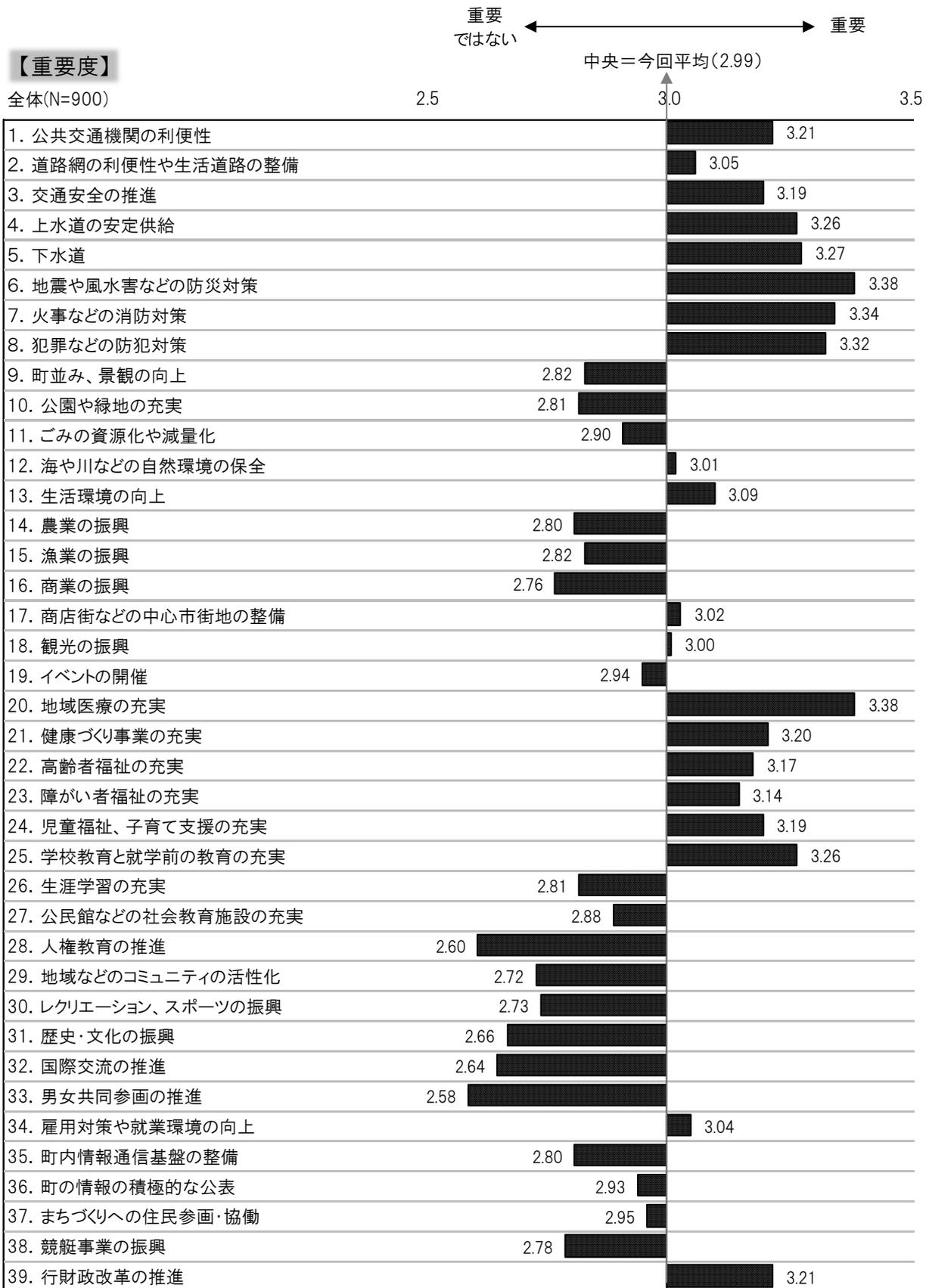
※数値は平均評定値

◆満足度(前回調査結果との比較)◆



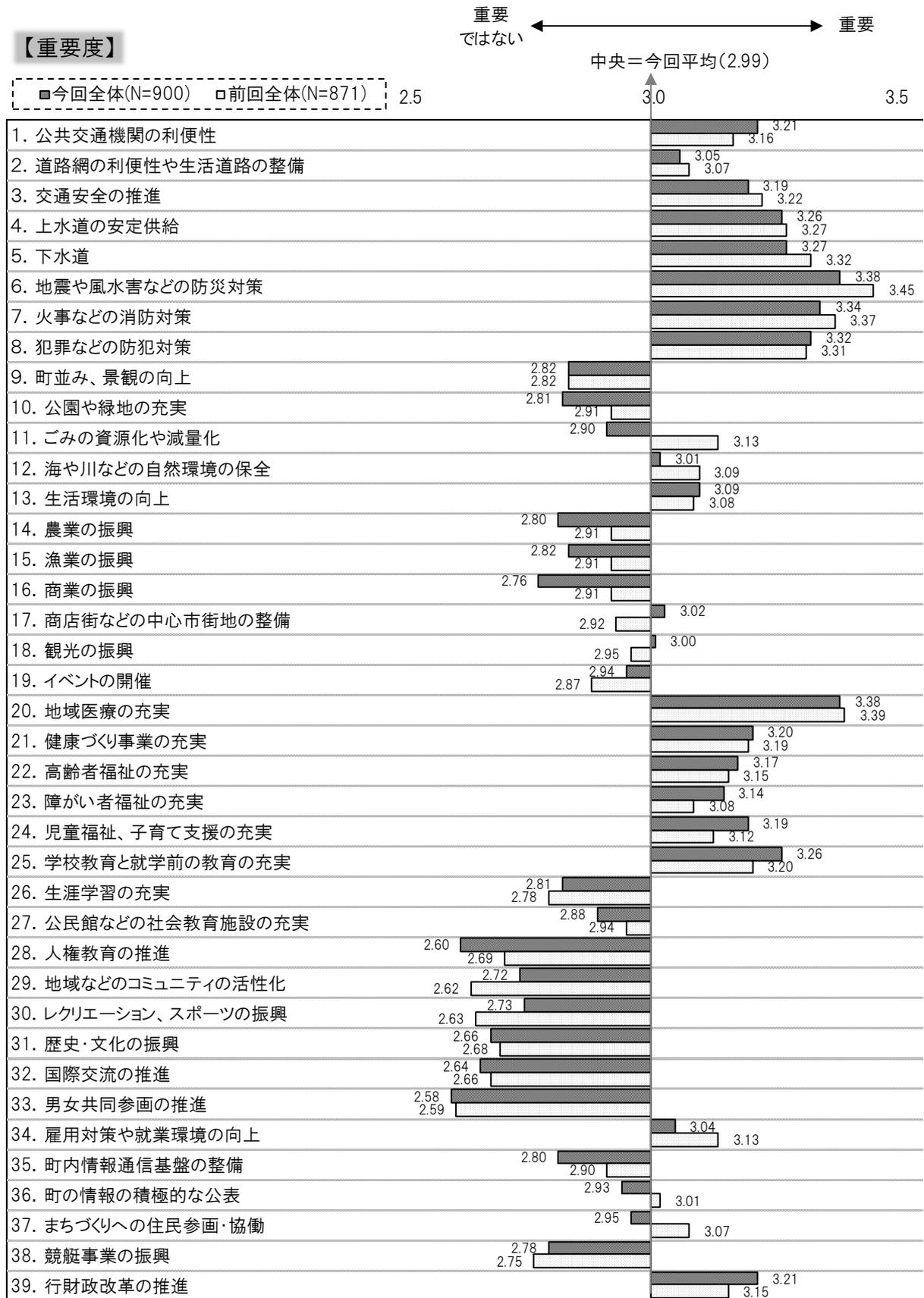
※数値は平均評定値

◆重要度◆



※数値は平均評定値

◆重要度(前回調査結果との比較)◆

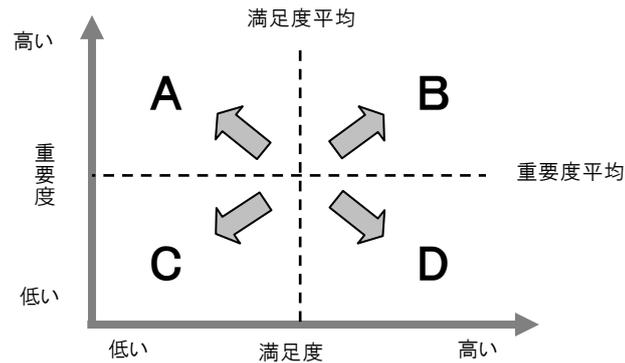


※数値は平均評定値

2. 満足度と重要度の相関図による分析

満足度と重要度それぞれの平均評定値に基づき、縦軸に重要度、横軸に満足度を設定し、39の施策を散布図上に示したものが相関図である。

縦軸に重要度、横軸に満足度をとった相関図では、満足度と重要度を4つの区画上に示すことで、各施策の位置付けを整理する。満足度と重要度の各々の平均を示す点から左上（A）、右上（B）、左下（C）、右下（D）の4方向に進むに従い、以下の傾向を示している。



A. 重要度が高く、満足度が低い（重点化・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度が高いが、満足度が相対的に低く、施策の重点化や抜本的な見直しなども含め満足度を高める必要のある領域。

「地震や風水害などの防災対策」「地域医療の充実」「犯罪などの防犯対策」「行財政改革の推進」「公共交通機関の利便性」などが該当する。

B. 重要度、満足度ともに高い（現状維持領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も高く、現時点での満足度の水準を維持していくことが必要な領域。

「火事などの消防対策」「学校教育と就学前の教育の充実」「下水道」「上水道の安定供給」「健康づくり事業の充実」など該当する。

C. 重要度、満足度ともに低い（改善・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度も満足度も低く、施策の目的やニーズを再確認するとともに、施策のあり方や進め方そのものをあらためて見直す必要のある領域。

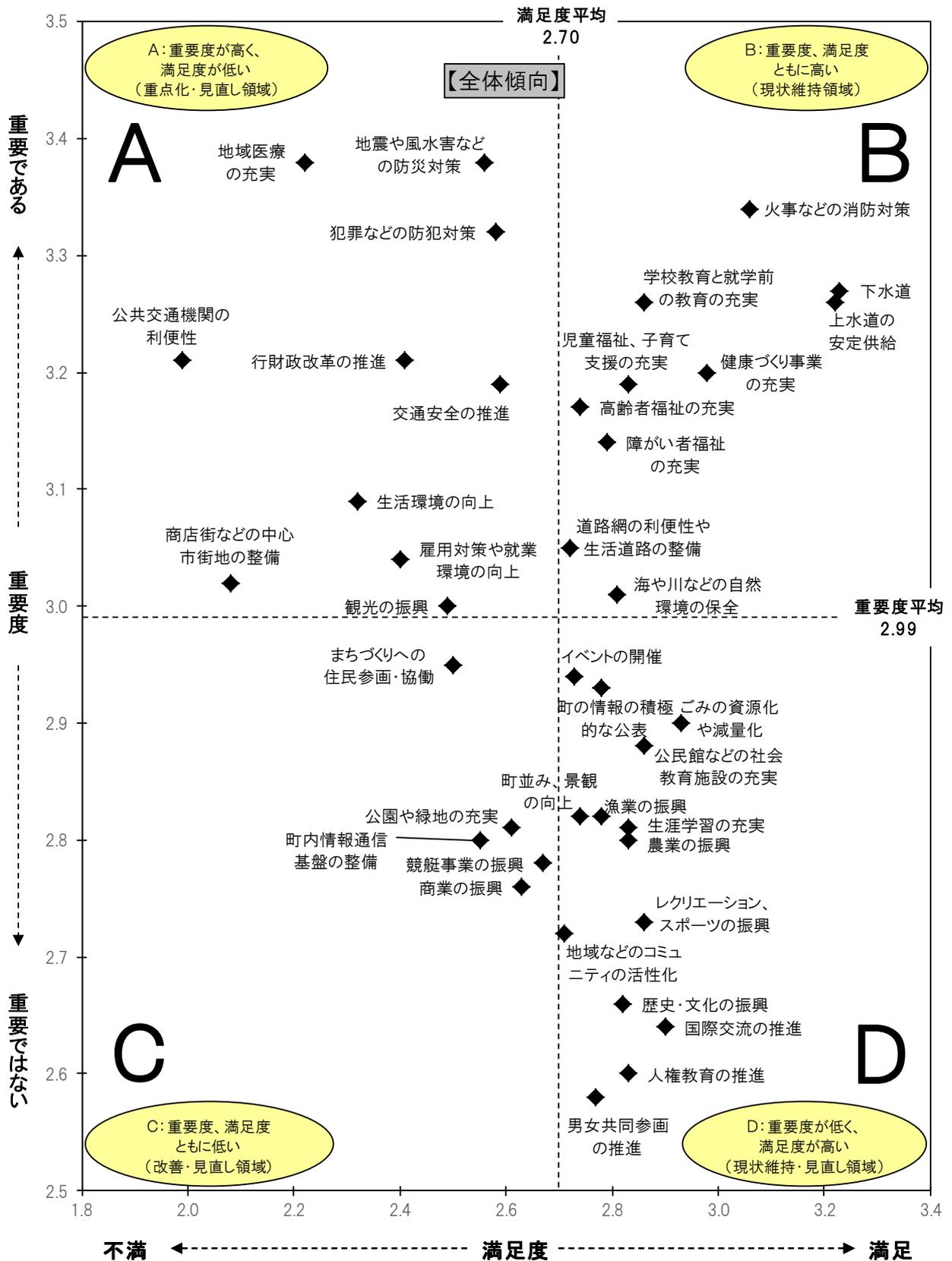
「商業の振興」「町内情報通信基盤の整備」「競艇事業の振興」などが該当する。

D. 重要度が低く、満足度が高い（現状維持・見直し領域）

今後のまちづくりにおける重要度は低いものの満足度が高く、満足度の水準を維持していくか、あるいは施策のあり方を含めて見直すべき必要のある領域。

「男女共同参画の推進」「人権教育の推進」「国際交流の推進」「歴史・文化の振興」などが該当する。

◆満足度と重要度の相関図による分析◆



◆満足度と重要度(前回調査結果との比較)◆

	満足度		重要度	
	今回調査	前回調査	今回調査	前回調査
1.公共交通機関の利便性	1.99	2.16	3.21	3.16
2.道路網の利便性や生活道路の整備	2.72	2.81	3.05	3.07
3.交通安全の推進	2.59	2.71	3.19	3.22
4.上水道の安定供給	3.22	3.27	3.26	3.27
5.下水道	3.23	3.27	3.27	3.32
6.地震や風水害などの防災対策	2.56	2.48	3.38	3.45
7.火事などの消防対策	3.06	2.96	3.34	3.37
8.犯罪などの防犯対策	2.58	2.51	3.32	3.31
9.町並み、景観の向上	2.74	2.61	2.82	2.82
10.公園や緑地の充実	2.61	2.39	2.81	2.91
11.ごみの資源化や減量化	2.93	2.85	2.90	3.13
12.海や川などの自然環境の保全	2.81	2.68	3.01	3.09
13.生活環境の向上	2.32	2.41	3.09	3.08
14.農業の振興	2.83	2.81	2.80	2.91
15.漁業の振興	2.78	2.74	2.82	2.91
16.商業の振興	2.63	2.52	2.76	2.91
17.商店街などの中心市街地の整備	2.08	2.35	3.02	2.92
18.観光の振興	2.49	2.58	3.00	2.95
19.イベントの開催	2.73	2.94	2.94	2.87
20.地域医療の充実	2.22	2.52	3.38	3.39
21.健康づくり事業の充実	2.98	2.94	3.20	3.19
22.高齢者福祉の充実	2.74	2.78	3.17	3.15
23.障がい者福祉の充実	2.79	2.80	3.14	3.08
24.児童福祉、子育て支援の充実	2.83	2.82	3.19	3.12
25.学校教育と就学前の教育の充実	2.86	2.84	3.26	3.20
26.生涯学習の充実	2.83	2.86	2.81	2.78
27.公民館などの社会教育施設の充実	2.86	2.82	2.88	2.94
28.人権教育の推進	2.83	2.82	2.60	2.69
29.地域などのコミュニティの活性化	2.71	2.66	2.72	2.62
30.レクリエーション、スポーツの振興	2.86	2.78	2.73	2.63
31.歴史・文化の振興	2.82	2.85	2.66	2.68
32.国際交流の推進	2.90	2.84	2.64	2.66
33.男女共同参画の推進	2.77	2.70	2.58	2.59
34.雇用対策や就業環境の向上	2.40	2.24	3.04	3.13
35.町内情報通信基盤の整備	2.55	2.48	2.80	2.90
36.町の情報の積極的な公表	2.78	2.75	2.93	3.01
37.まちづくりへの住民参画・協働	2.50	2.47	2.95	3.07
38.競艇事業の振興	2.67	2.51	2.78	2.75
39.行財政改革の推進	2.41	2.36	3.21	3.15

※数値は平均評定値

【3】 その他、まちの重点的な取り組みなどについて

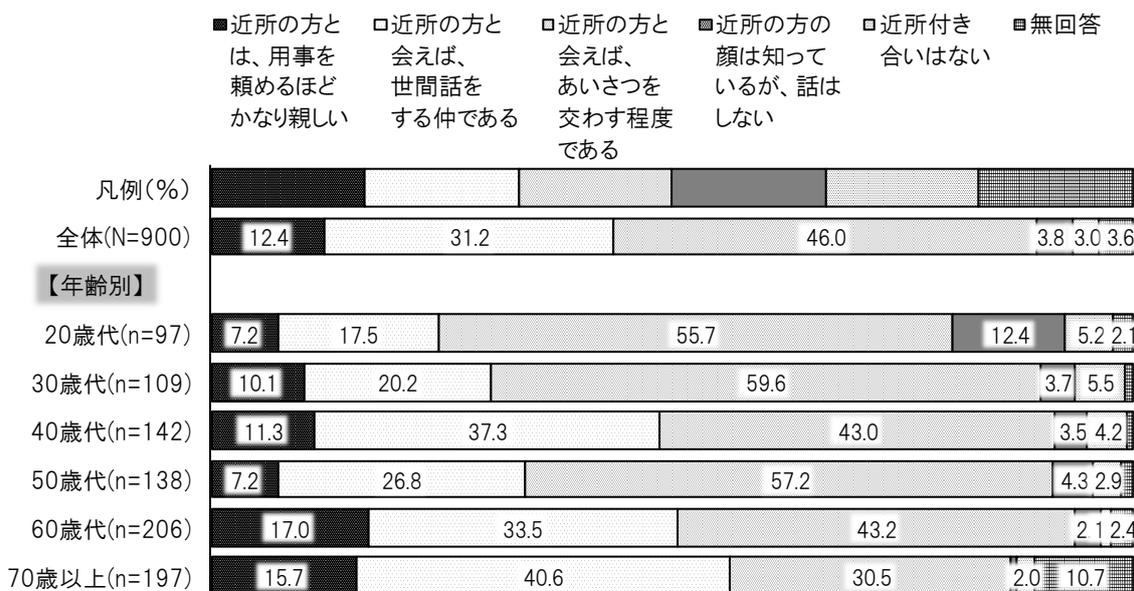
1. 地域について

(1) 近所との付き合いの程度（問10）

問10 あなたは、ふだん近所の方とどの程度の付き合いをされていますか。
(1つに○)

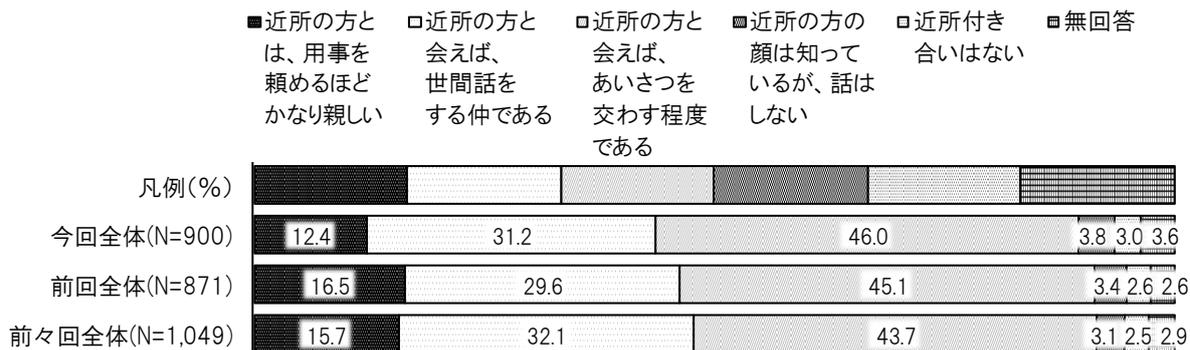
近所との付き合いの程度については、全体では「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」の割合が46.0%と最も高く、次いで「近所の方と会えば、世間話をする仲である」(31.2%)、「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」(12.4%)の順となっている。

年齢別では、特に60歳以上において「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」が他の年齢層を上回っている。また、20～30歳代及び50歳代では「近所の方と会えば、あいさつを交わす程度である」がそれぞれ半数を超えて高くなっている。おおむね、年齢が上がるほど近隣とのつきあい程度も深い傾向にある。



時系列推移をみると、前回調査に比べ「近所の方とは、用事を頼めるほどかなり親しい」の割合がやや低下した。

◆時系列推移◆



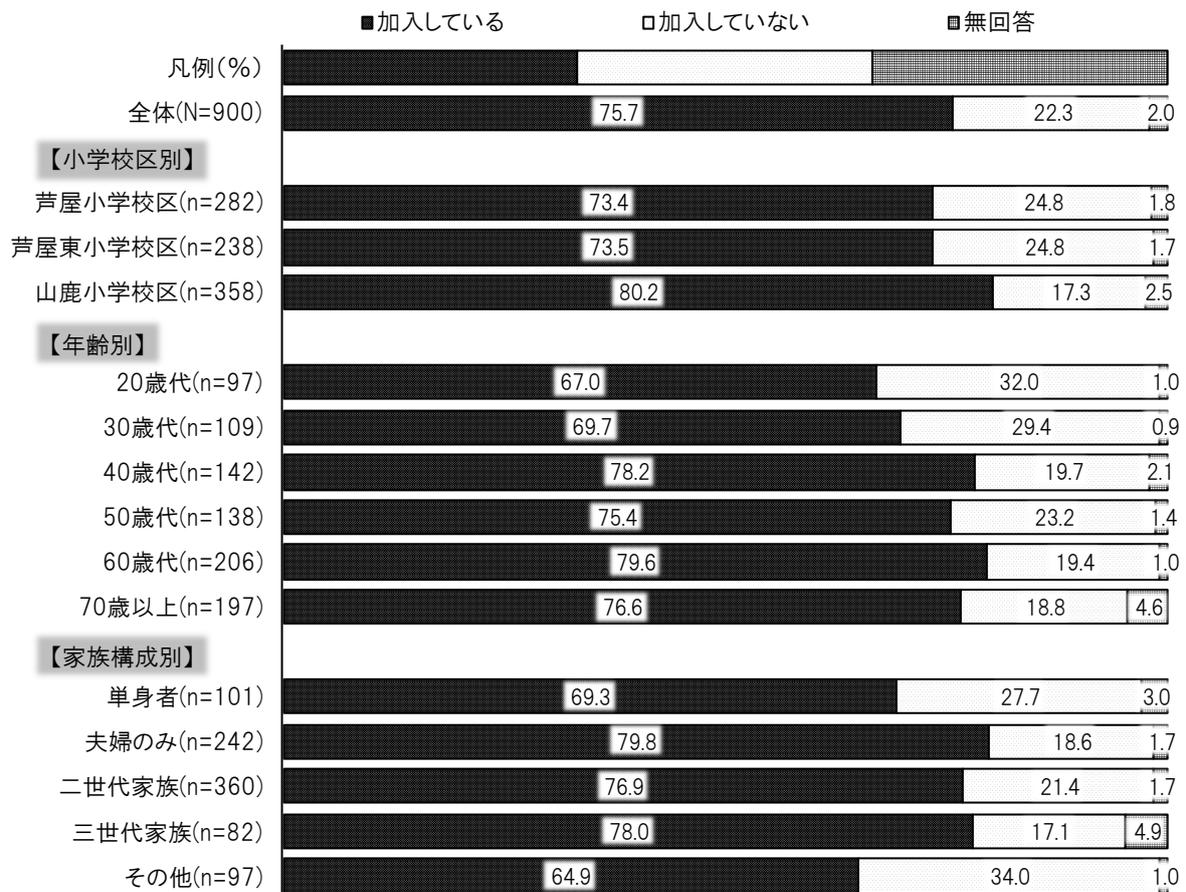
(2) 自治区の加入状況（問11）

問11 あなたは、自治区に加入していますか。（1つに○）

自治区の加入状況は、全体では75.7%が「加入している」（以下「加入率」と表記）と回答している。

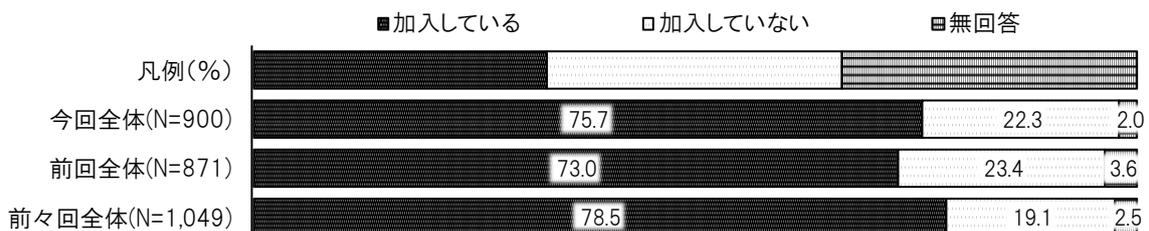
加入率は、小学校区別では山鹿小学校区で高く、年齢別では、おおむね年齢が上がるほど高くなる傾向にある。

家族構成別では、加入率は、夫婦のみや二世世代家族、三世世代家族で7割以上となっている。



時系列推移をみると、前回調査に比べ加入率はやや増加したが、大きな変化は目立たない。

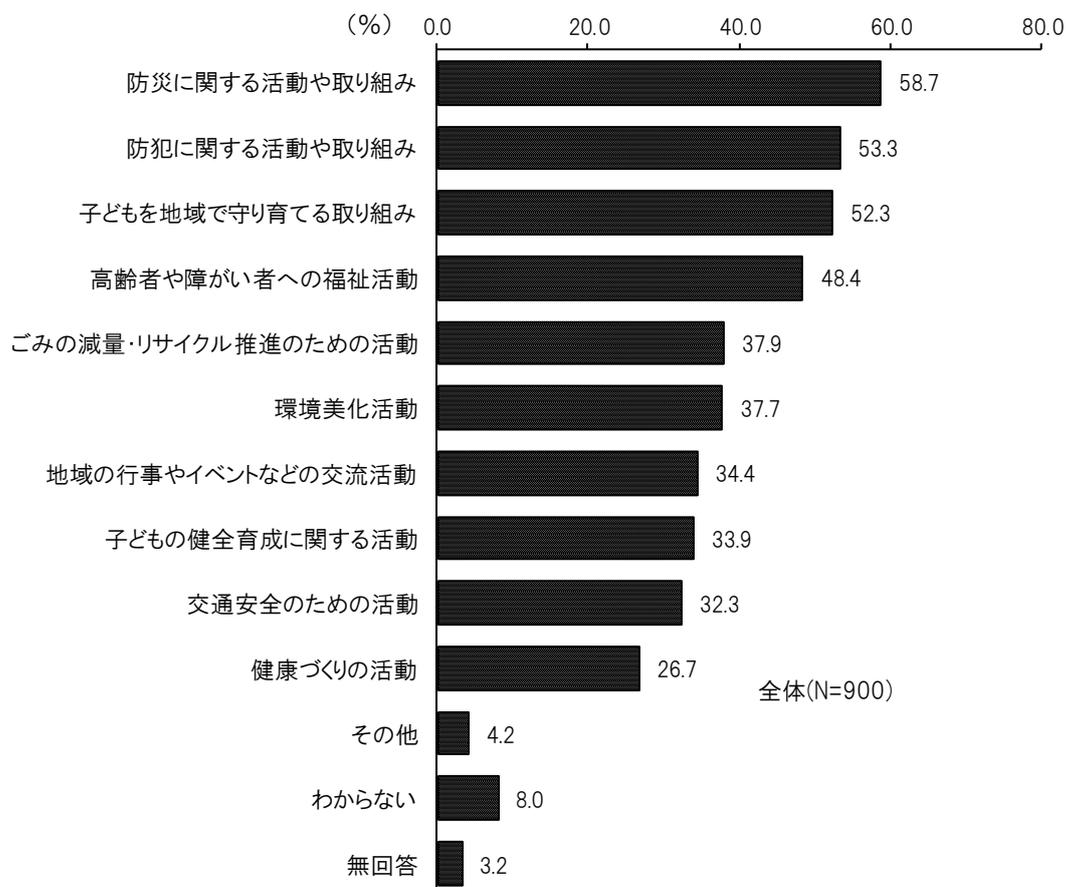
◆時系列推移◆



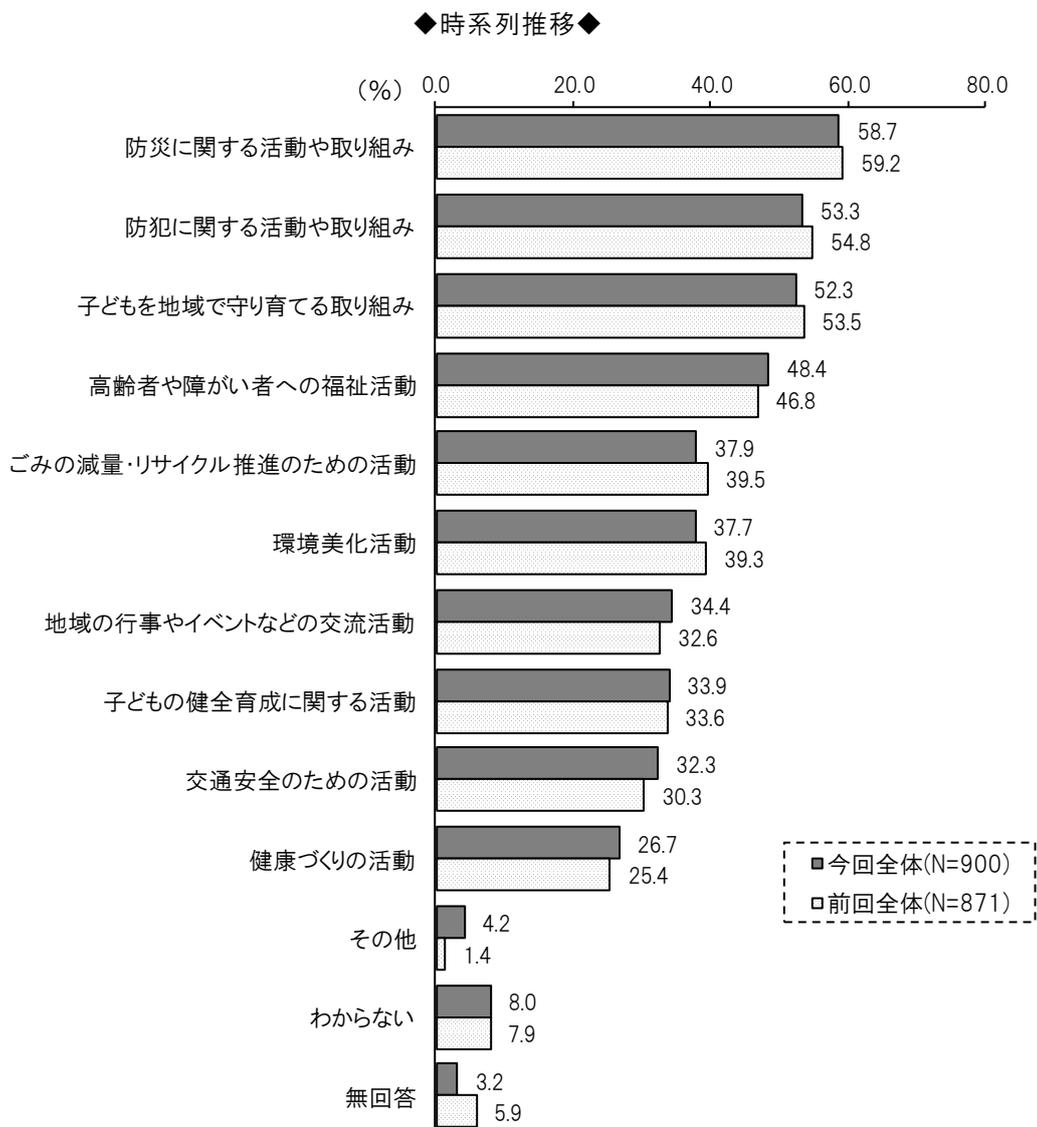
(3) 自治区の活動に今後必要と思うこと (問 12)

問 12 自治区の活動に今後どのような活動が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

自治区の活動に今後必要と思うことは、全体では「防災に関する活動や取り組み」が58.7%と最も高く、次いで「防犯に関する活動や取り組み」(53.3%)、ほぼ並んで「子どもを地域で守り育てる取り組み」(52.3%)と続く。以下「高齢者や障がい者への福祉活動」(48.4%)、「ごみの減量・リサイクル推進のための活動」(37.9%)、「環境美化活動」(37.7%)の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から大きな変化は目立たない。



※前々回は質問を設けていない

◆「その他」の内訳(抜粋)◆

<ul style="list-style-type: none"> ・自治区の再編、見直し。 ・自治区公民館を使ったコミュニティ活動。 ・未加入者や脱退者の加入促進。 ・自治区参加への啓発活動。 ・子どもと高齢者との交流。 ・子ども会・婦人会・老人会などの組織化が大切だと思う。 ・個人情報侵害などについての規制及び監視体制を整備した上でのインターネット活用による情報共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災については、自治区に加入していない人との連絡等を考えなくてはいけないと思います。 ・ゴミ集積所の撤廃。 ・役員をやる人がいないが、この対策は？ ・80歳を過ぎ何もできません。 ・協力する心構えがない人が多い。 ・町外からの移住者のマナーが非常に悪い。
---	---

小学校区別や性別では、大きな差は目立たない。

年齢別では、特に30歳代において「防犯に関する活動や取り組み」「子どもを地域で守り育てる取り組み」の割合が他の年齢層を上回っている。また、70歳以上では「ごみの減量・リサイクル推進のための活動」「環境美化活動」などの割合が高く、年齢による意識差がみられる。

	防災に関する活動や取り組み	防犯に関する活動や取り組み	子どもを地域で守り育てる取り組み	高齢者や障がい者への福祉活動	ごみの減量・リサイクル推進	環境美化活動	地域の行事やイベントなどの交流活動	子どもの健全育成に関する活動	交通安全のための活動	健康づくりの活動	その他	わからない
全体(N=900)	58.7	53.3	52.3	48.4	37.9	37.7	34.4	33.9	32.3	26.7	4.2	8.0
小学校区別	芦屋小学校区(n=282)	61.0	53.9	55.0	48.6	39.0	37.6	37.2	35.8	26.2	4.3	7.8
	芦屋東小学校区(n=238)	56.7	58.8	51.3	49.6	40.3	39.1	34.9	37.8	28.6	4.2	9.7
	山鹿小学校区(n=358)	59.5	50.8	50.8	47.5	36.3	37.2	31.8	28.5	33.2	4.5	7.3
性別	男性(n=427)	57.1	52.0	51.8	46.1	38.4	35.6	33.5	34.9	34.2	4.2	8.7
	女性(n=459)	60.6	55.1	52.5	50.5	37.7	39.2	35.5	32.9	31.2	4.4	7.4
年齢別	20歳代(n=97)	53.6	47.4	39.2	37.1	22.7	32.0	30.9	26.8	29.9	7.2	14.4
	30歳代(n=109)	52.3	61.5	66.1	42.2	30.3	36.7	39.4	38.5	42.2	2.8	9.2
	40歳代(n=142)	61.3	55.6	55.6	41.5	29.6	40.8	36.6	33.1	31.7	4.2	11.3
	50歳代(n=138)	65.9	55.1	51.4	59.4	42.8	31.2	34.1	34.1	31.9	4.3	5.8
	60歳代(n=206)	58.7	52.9	50.0	51.5	41.7	35.9	32.0	31.6	30.1	3.4	6.8
	70歳以上(n=197)	57.9	50.8	50.8	51.3	48.2	44.2	34.0	37.1	32.5	36.5	4.6

注1:表中数値の単位は%(パーセント)。

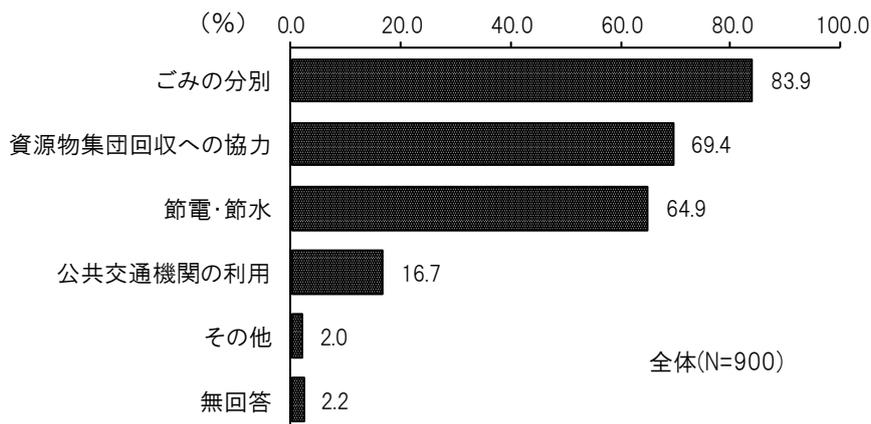
注2:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

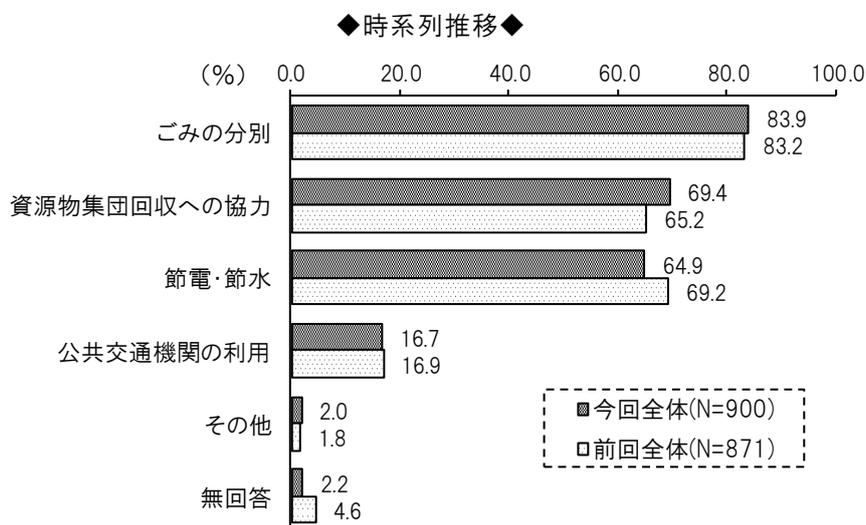
2. 環境問題への取り組みについて（問13）

問13 あなたは、日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。（あてはまるものすべてに○）

環境問題への取り組みについては、全体では「ごみの分別」の割合が83.9%と最も高く、次いで「資源物集団回収への協力」（69.4%）、「節電・節水」（64.9%）の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から「資源物集団回収への協力」がやや増加し、「節電・節水」がやや低下したものの、大きな変化は目立たない。



※前々回は質問を設けていない

小学校区別でみると、芦屋小学校区では「資源物集団回収への協力」、芦屋東小学校区では「公共交通機関の利用」がそれぞれ他の地区に比べ高くなっている。

性別では、ほとんどの項目で女性の割合が男性を上回っている。

年齢別では、特に60歳以上において「節電・節水」、70歳以上で「公共交通機関の利用」が他の年齢層を上回っているのが目立っている。一方、20～30歳代では、他の年齢層に比べ「資源物集団回収への協力」の割合が低い。

		ごみの分別	力資源物集団回収への協	節電・節水	公共交通機関の利用	その他
全体(N=900)		83.9	69.4	64.9	16.7	2.0
小学校区別	芦屋小学校区(n=282)	83.7	73.8	62.4	16.3	0.7
	芦屋東小学校区(n=238)	84.5	64.3	65.5	20.6	1.7
	山鹿小学校区(n=358)	84.6	70.7	65.9	14.2	3.1
性別	男性(n=427)	78.5	63.0	59.3	14.1	2.8
	女性(n=459)	89.1	75.4	69.3	19.0	1.3
年齢別	20歳代(n=97)	85.6	43.3	58.8	17.5	3.1
	30歳代(n=109)	78.9	59.6	48.6	18.3	1.8
	40歳代(n=142)	86.6	71.1	64.8	10.6	1.4
	50歳代(n=138)	82.6	78.3	63.0	10.9	2.2
	60歳代(n=206)	88.3	74.3	70.4	14.1	2.4
	70歳以上(n=197)	80.2	74.6	71.1	26.4	1.5

注1:表中数値の単位は%(パーセント)。

注2:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

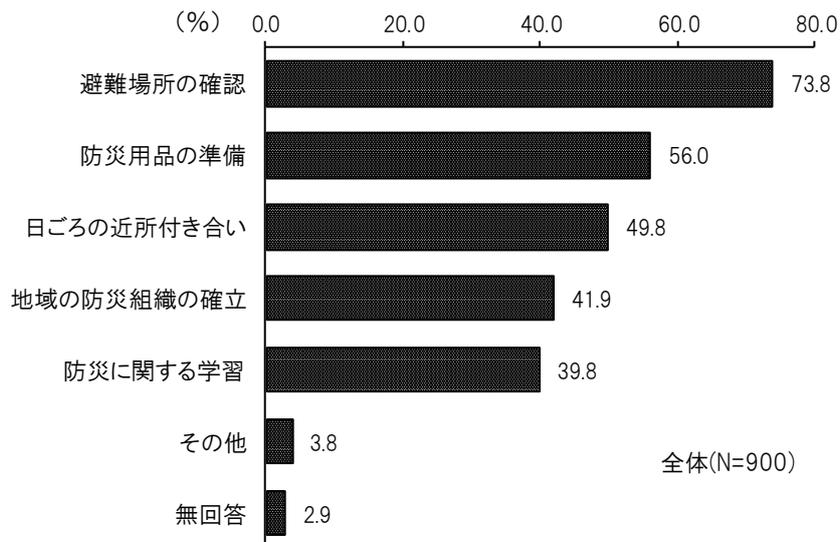
◆「その他」の内訳◆

<ul style="list-style-type: none"> ・草取り作業参加。 ・ゴミを見かけたら拾っている。 ・清掃活動。 ・段ボールコンポスト。 ・生ゴミの再利用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電。 ・花いっぱい運動の参加。 ・ポイ捨てをしない。 ・リサイクル品回収に参加。
--	---

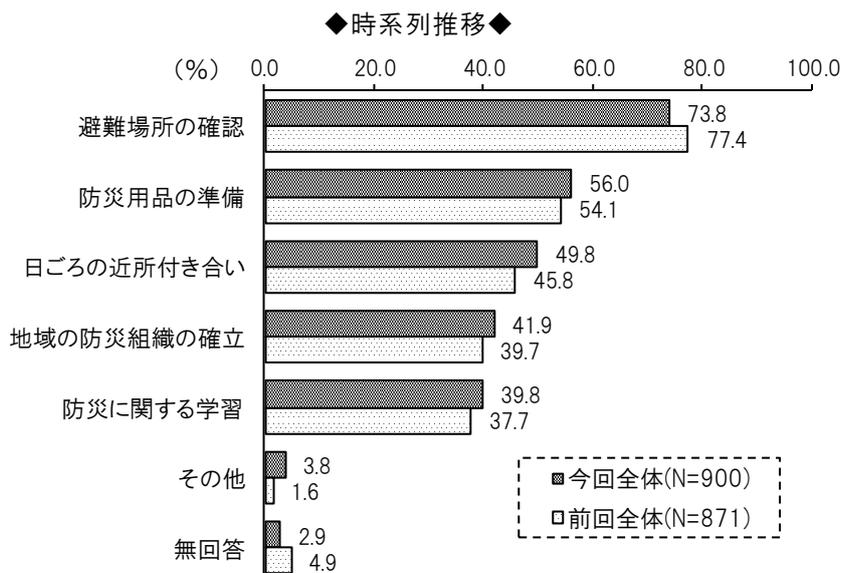
3. 防災について（問 14）

問 14 あなたは、地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。
（あてはまるものすべてに○）

防災については、全体では「避難場所の確認」の割合が 73.8%と最も高く、次いで「防災用品の準備」(56.0%)、「日ごろの近所付き合い」(49.8%)、「地域の防災組織の確立」(41.9%)の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から「避難場所の確認」がやや低下し、「日ごろの近所付き合い」がやや増加したものの、大きな変化は目立たない。



※前々回は質問を設けていない

小学校区別では、芦屋東小学校区において「日ごろの近所付き合い」が、他の地区に比べ高くなっている。

性別では女性で「防災用品の準備」や「日ごろの近所付き合い」、年齢別では70歳以上で「日ごろの近所付き合い」が他の層を上回っているのが目立っている。

		避難場所の 確認	防災用品の 準備	日ごろの 近所付き 合い	地域 の防災 組織の 確立	防災に 関する 学習	その他
	全体(N=900)	73.8	56.0	49.8	41.9	39.8	3.8
小学校 区別	芦屋小学校区(n=282)	77.0	52.5	47.2	45.4	38.3	3.5
	芦屋東小学校区(n=238)	70.2	58.8	56.3	42.4	40.8	3.4
	山鹿小学校区(n=358)	73.2	57.3	46.9	39.4	40.8	4.5
性別	男性(n=427)	71.0	51.3	45.4	43.1	39.6	5.2
	女性(n=459)	76.0	60.6	53.6	40.5	40.1	2.6
年齢 別	20歳代(n=97)	75.3	58.8	33.0	39.2	43.3	6.2
	30歳代(n=109)	73.4	62.4	42.2	41.3	48.6	1.8
	40歳代(n=142)	78.9	61.3	47.9	39.4	43.0	2.8
	50歳代(n=138)	76.8	47.1	37.7	46.4	47.8	5.1
	60歳代(n=206)	68.0	53.9	56.3	40.3	28.2	3.9
	70歳以上(n=197)	72.6	55.3	64.0	43.1	37.6	3.6

注1:表中数値の単位は%(パーセント)。

注2:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

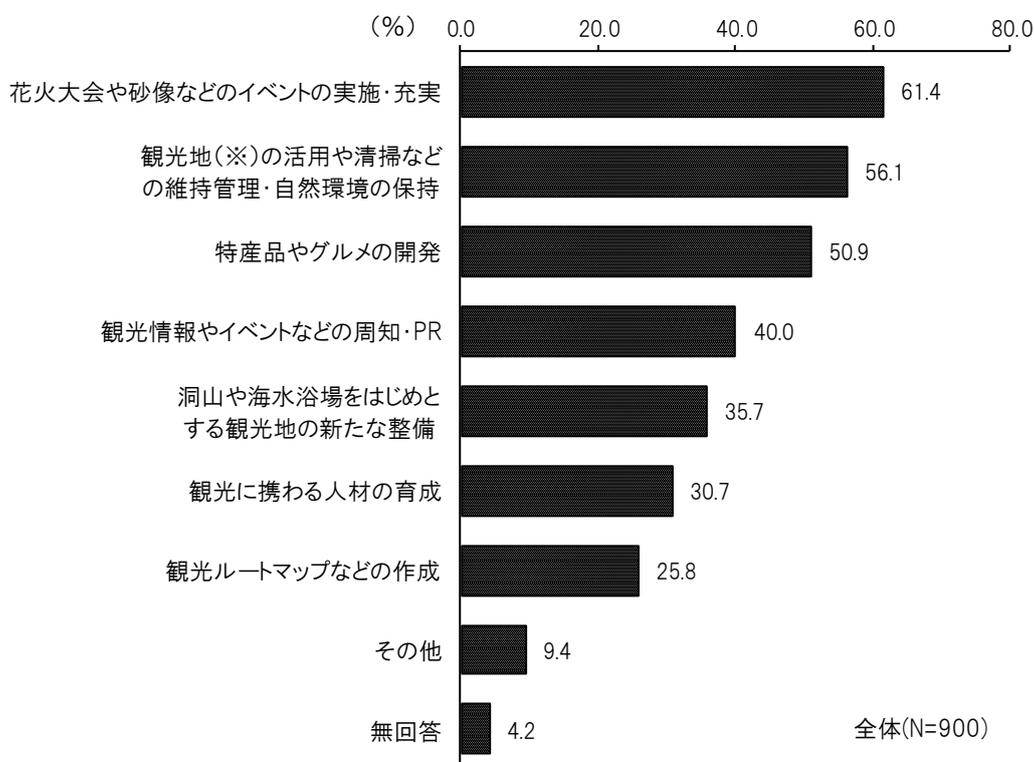
◆「その他」の内訳(抜粋)◆

<ul style="list-style-type: none"> ・自治会単位のシミュレーション。 ・情報伝達手段の工夫(役場のマイクは何を言っているのかわからない)。 ・情報収集。 ・サイレン音の区別。 ・インターネット掲示板の設置。 ・家族との話し合い、連絡方法。 ・町職員のタイムライン(どのような注意報・勧告が出たら誰が何をするのか)の策定と具体的な避難勧告基準の策定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力発電の確保。 ・水準点表示を大きく多くする。 ・水道管の整備。 ・年寄りやベットなどのことも考えてほしい。 ・自治区未加入者への対応。 ・火災の時の消火器設備。 ・来たら仕方がないので、保険だけには入っている。 ・何もしていない。 ・わからない。
--	--

4. 観光の活性化について（問15）

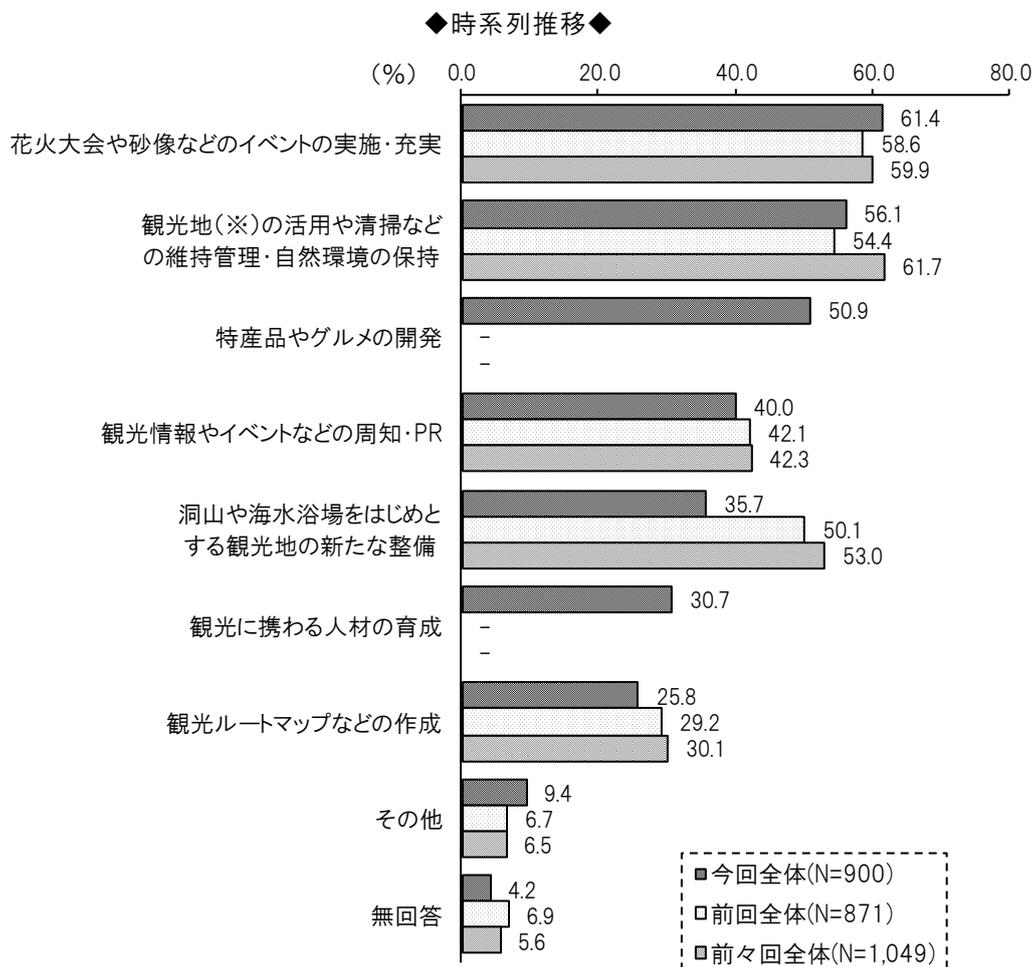
問15 あなたは、町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

観光の活性化については、全体では「花火大会や砂像などのイベントの実施・充実」の割合が61.4%と最も高く、次いで「観光地(※)の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」(56.1%)、「特産品やグルメの開発」(50.9%)が続いている。以下「観光情報やイベントなどの周知・PR」(40.0%)、「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の新たな整備」(35.7%)の順となっている。



※夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など

時系列推移をみると、前回調査から「洞山や海水浴場をはじめとする観光地の新たな整備」が低下した。ただし、前回調査では設定の無かった「特産品やグルメの開発」「観光に携わる人材の育成」が、今回は比較的高い割合で回答された。



※夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など
 注:「特産品やグルメの開発」「観光に携わる人材の育成」は前回調査では設定無し。
 この他、前回調査と多少表現が異なる選択肢もあり。

小学校区別でみると、芦屋小学校区で「観光情報やイベントなどの周知・PR」、芦屋東小学校区で「花火大会や砂像などのイベントの実施・充実」などが、他の地区に比べ比較的高くなっている。

性別では、男性の場合「観光に携わる人材の育成」などが女性に比べ高く、女性は「観光情報やイベントなどの周知・PR」などで男性を上回っている。

年齢別では、若い年齢層ほど「花火大会や砂像などのイベントの実施・充実」が高く、年齢が上がるほど「観光ルートマップなどの作成」が高い傾向にある。また、30歳代では、特に「観光地の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持」が他の年齢層を大きく上回っている。

	花火大会の実施や砂像などのイベント	観光地の活用や清掃などの維持管理	特産品やグルメの開発	観光情報やイベントなどの周知・PR	洞山や海水浴場の新たな整備	観光に携わる人材の育成	観光ルートマップなどの作成	その他	
全体(N=900)	61.4	56.1	50.9	40.0	35.7	30.7	25.8	9.4	
小学校区別	芦屋小学校区(n=282)	59.2	58.2	50.0	43.6	36.2	26.6	8.5	
	芦屋東小学校区(n=238)	66.4	56.7	52.5	41.2	34.5	27.7	9.7	
	山鹿小学校区(n=358)	60.3	54.7	51.7	38.0	36.9	30.4	24.3	10.6
性別	男性(n=427)	60.2	53.6	49.2	37.2	38.4	26.0	11.2	
	女性(n=459)	63.0	58.0	53.4	43.1	33.1	25.5	8.1	
年齢別	20歳代(n=97)	73.2	51.5	53.6	46.4	36.1	19.6	10.3	
	30歳代(n=109)	78.9	63.3	49.5	43.1	35.8	25.7	9.2	
	40歳代(n=142)	64.1	57.0	45.8	32.4	31.0	23.2	11.3	
	50歳代(n=138)	62.3	57.2	55.1	46.4	33.3	42.0	26.8	7.2
	60歳代(n=206)	52.4	53.4	56.8	35.0	38.8	32.0	28.6	10.2
	70歳以上(n=197)	53.3	54.3	45.7	42.6	37.1	32.0	29.9	9.1

注1:表中数値の単位は%(パーセント)。

注2:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

◆「その他」の内訳(抜粋)◆

<ul style="list-style-type: none"> ・城山の手入れをしてほしい。 ・道の駅の充実。 ・PRの徹底。 ・空き店舗の再利用で活性化をはかる。 ・交通アクセスの充実。 ・芦屋釜など素晴らしいものがあるので、もっとPRをしていく。 ・韓国語や中国語の看板を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋町は観光資源に恵まれている。インターネット等を通じて宣伝していくべき。 ・芦屋の歴史を活用した経費のかからない年中イベントをする。 ・企業誘致やシャッター商店街の撤廃。 ・ご当地キャラのアピール活動と商品開発。長期滞在者向け施設の充実。
--	--

5. 教育について

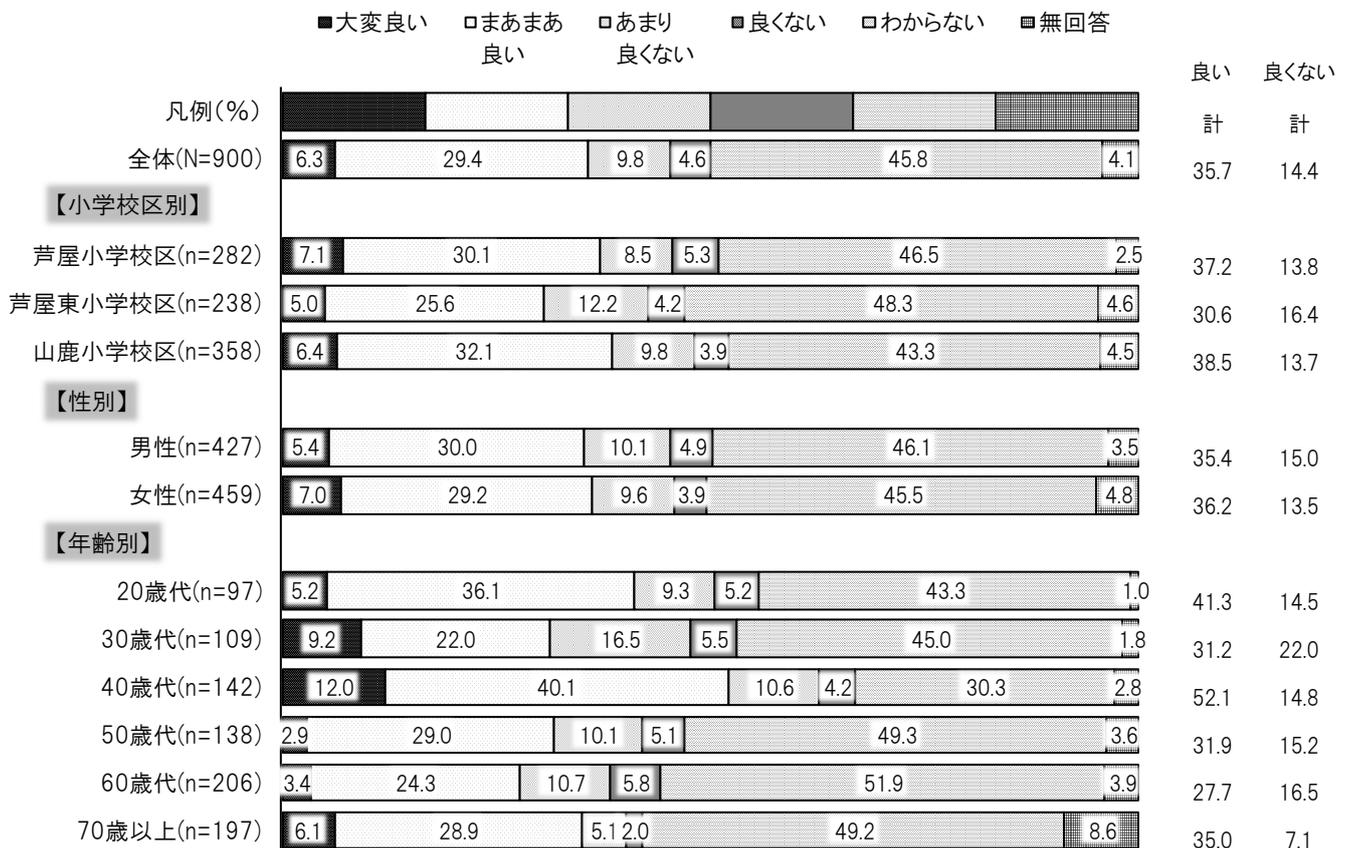
(1) 町の小中学校の教育に対する評価（問16）

問16 あなたは、町の小中学校の教育についてどう評価しますか。（1つに○）

町の小中学校の教育に対する評価については、「大変良い」が6.3%、「まあまあ良い」が29.4%で、合計35.7%が『良い』と評価している。一方、「あまり良くない」は9.8%、「良くない」は4.6%で、合計14.4%が『良くない』と評価し、半数近くの45.8%が「わからない」と回答した。

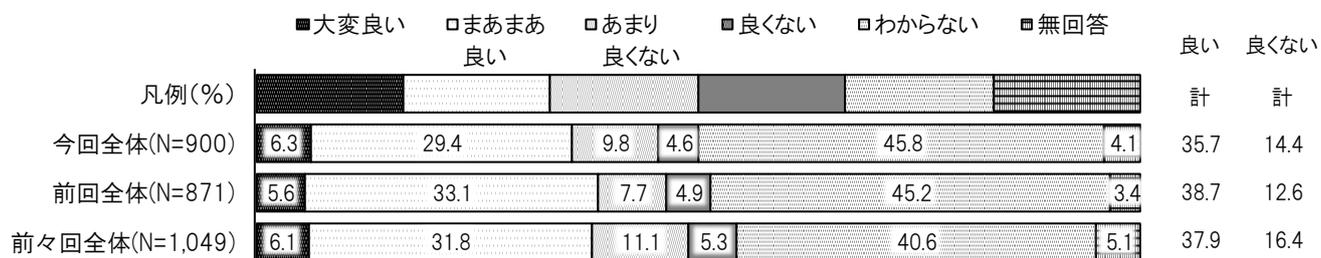
『良い』の割合は、小学校区別では山鹿小学校区で最も高く、芦屋東小学校区で最も低い。

また、『良い』の割合は、性別では大きな差は目立たないが、年齢別では40歳代で最も高く、特に「大変良い」は他の年齢層を大きく上回っている。



時系列推移をみると、前回調査から「まあまあ良い」がやや低下し、「あまり良くない」がやや増加したが、大きな変化は目立たない。

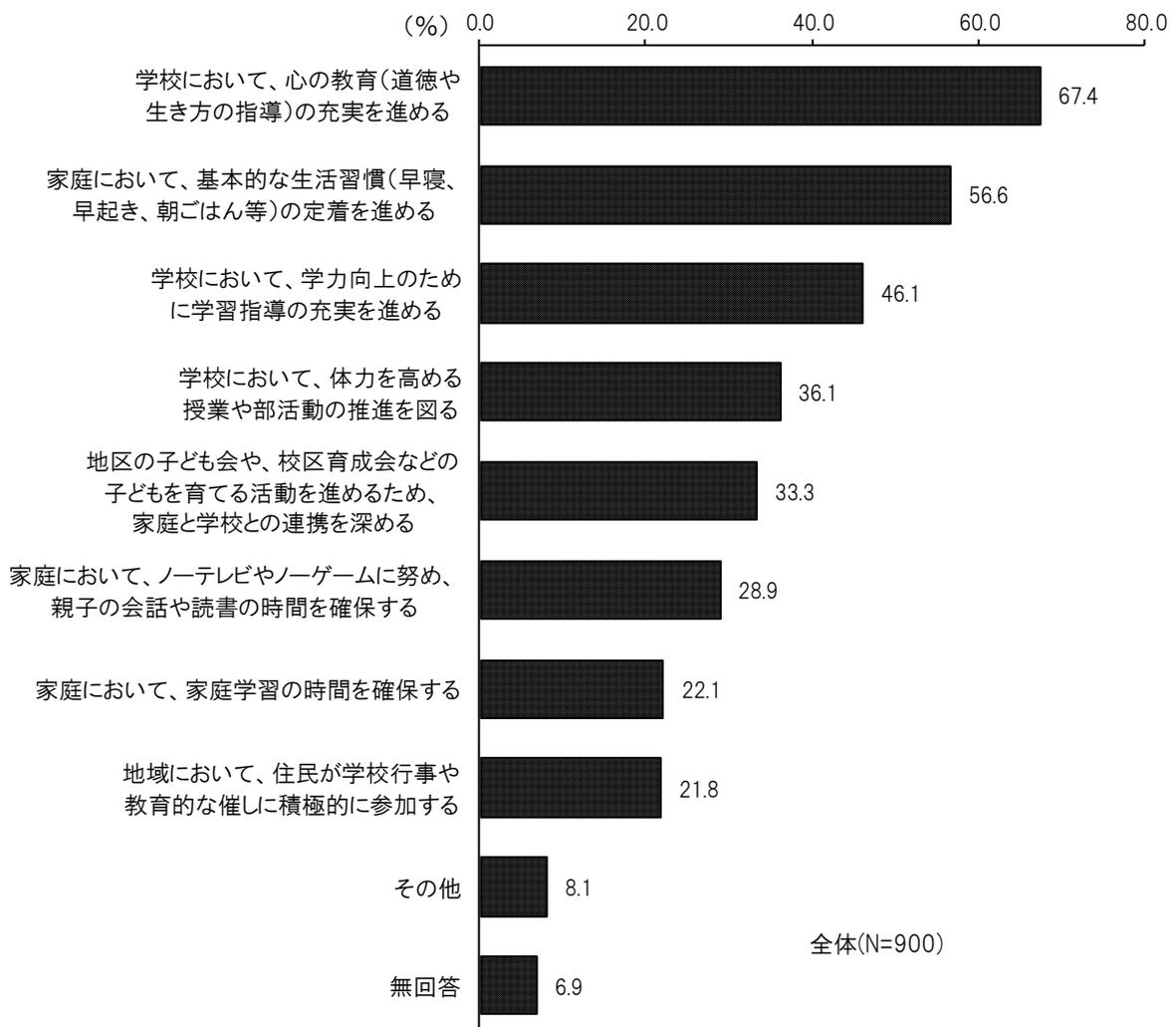
◆時系列推移◆



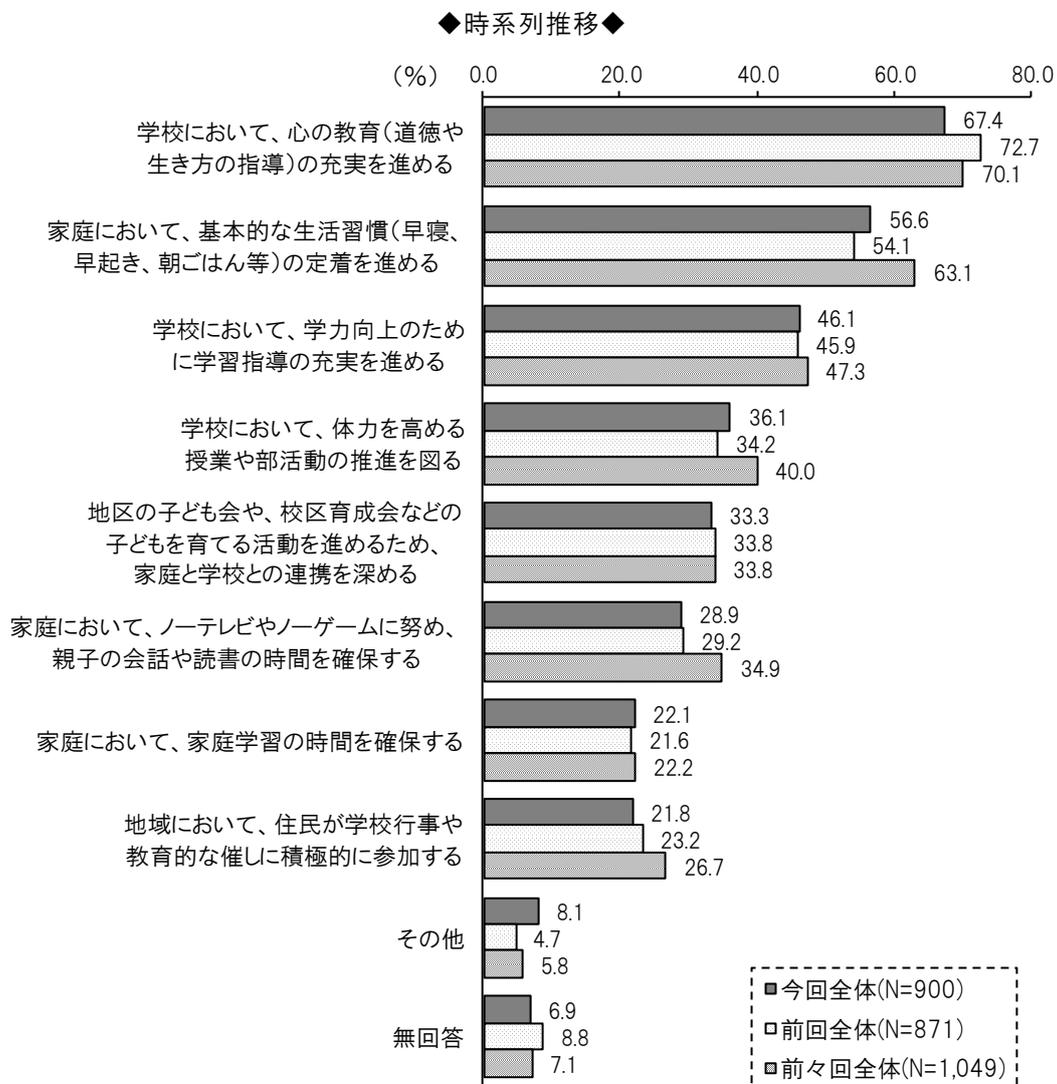
(2) 小中学生の教育向上のため力を入れるべきこと（問17）

問17 あなたは、町の小中学生等に対する教育を向上するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

小中学生の教育向上のため力を入れるべきことについては、「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」の割合が67.4%と最も高く、次いで「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」（56.6%）、「学校において、学力向上のために学習指導の充実を進める」（46.1%）が続いている。以下「学校において、体力を高める授業や部活動の推進を図る」（36.1%）、「地区の子ども会や、校区育成会などの子どもを育てる活動を進めるため、家庭と学校との連携を深める」（33.3%）の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」がやや低下し、「家庭において、基本的な生活習慣（早寝、早起き、朝ごはん等）の定着を進める」などがやや増加したが、大きな変化は目立たない。



小学校区別及び性別では大きな差は目立たないが、年齢別では、特に 50 歳代で「学校において、心の教育（道徳や生き方の指導）の充実を進める」、70 歳以上で「家庭において、ノーテレビやノーゲームに努め、親子の会話や読書の時間を確保する」などが、それぞれ他の年齢層を上回っている。

	学校の方針に おいての、 心の教育 （道徳や生 活習慣の指 導）の充実 を進める	家庭におい て、早起き 、基本的な 生活習慣の 定着を進め る	学校におい て、学力向 上のために 学習指導の 充実を進め る	学校におい て、体力を 高める授業 や部活動の 推進を図る	地域の子ども や、校区育 成会などの 活動を進め る	ゲームにお いて、ノー テレビやノ ーゲームの 時間を確保 する	家庭におい て、家庭学 習の時間を 確保する	地域におい て、住民が 学校行事や 教育活動に 積極的に参 加する	その他	
全体(N=900)	67.4	56.6	46.1	36.1	33.3	28.9	22.1	21.8	8.1	
小学校区別	芦屋小学校区(n=282)	70.6	53.9	46.5	35.1	33.7	29.8	19.1	22.0	6.7
	芦屋東小学校区(n=238)	69.7	62.2	45.8	34.5	35.7	26.1	23.1	22.7	7.1
	山鹿小学校区(n=358)	64.5	56.1	46.6	38.5	32.1	30.2	24.6	20.9	10.1
性別	男性(n=427)	65.8	53.4	45.4	36.8	33.3	27.9	23.4	21.8	8.7
	女性(n=459)	69.3	59.3	46.4	35.3	33.6	29.2	21.1	21.8	7.6
年齢別	20歳代(n=97)	59.8	56.7	40.2	35.1	30.9	24.7	15.5	20.6	13.4
	30歳代(n=109)	67.9	43.1	54.1	41.3	39.4	25.7	24.8	25.7	11.0
	40歳代(n=142)	64.8	51.4	51.4	38.7	23.9	26.8	25.4	21.1	8.5
	50歳代(n=138)	71.7	60.1	41.3	34.1	36.2	31.9	18.8	14.5	8.0
	60歳代(n=206)	68.0	64.6	43.2	33.0	32.0	25.2	18.4	18.0	5.3
	70歳以上(n=197)	69.5	56.3	46.7	36.0	37.1	34.5	28.4	28.9	6.6

注1:表中数値の単位は%(パーセント)。

注2:表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

◆「その他」の内訳(抜粋)◆

<ul style="list-style-type: none"> ・親への教育。 ・ICT(情報通信技術)を利用した教育の実施。 ・挨拶ができる子どもの教育。 ・いじめがなく、楽しい学校生活を送れるようにする。 ・命の大切さを教える。 ・インターネットを活用しての英語学習に力を入れる。 ・海が近いので、海を活かした授業。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から専門の先生を呼んで授業をする。 ・教師の質を向上させる。 ・強制ではなく、自主的に取り組むように促すこと。 ・高齢者理解につながる交流を図る。 ・社会貢献している人達の体験談を聞かせる催し。 ・早朝の学習教室の開放。 ・他地域の子どもたちとの交流を深める。
--	---

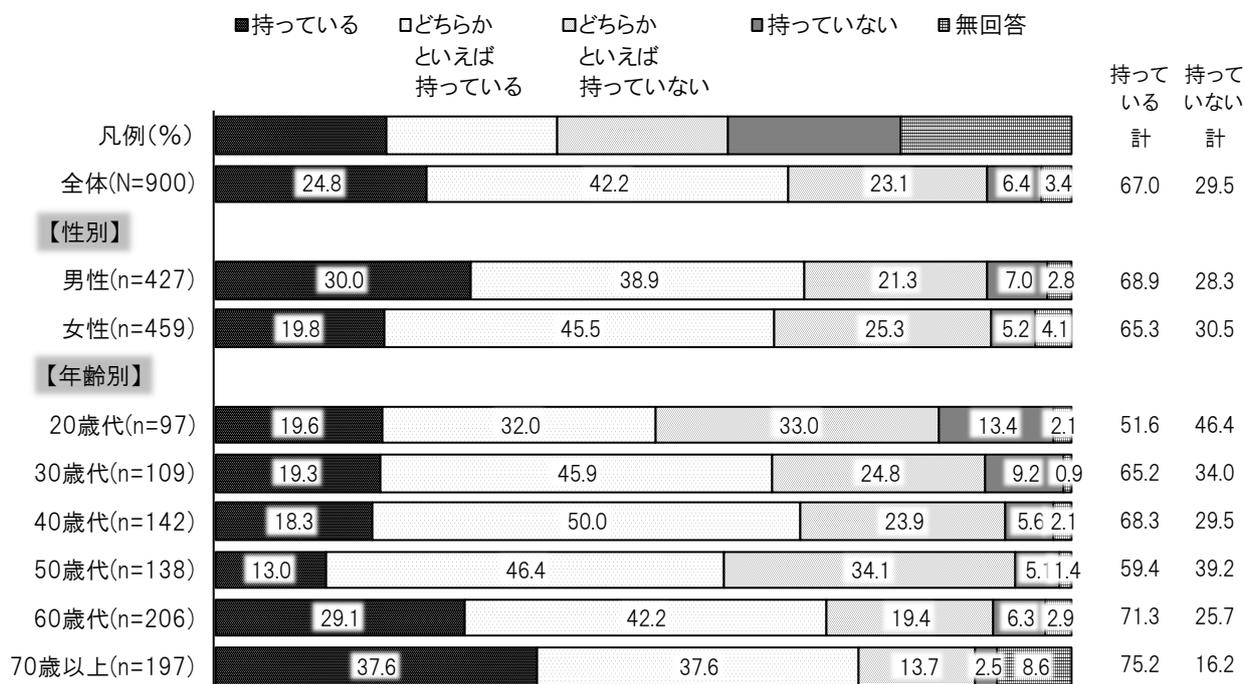
6. 協働のまちづくりについて

(1) 町の計画や取り組みに対する関心 (問18)

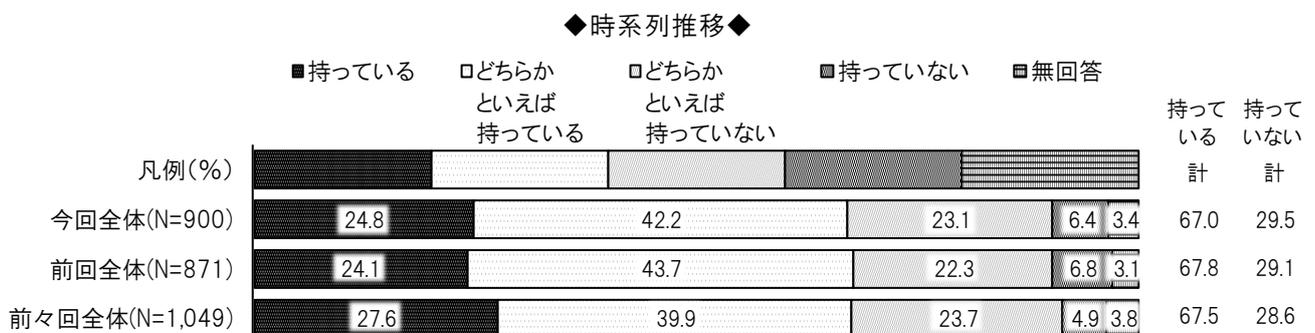
問18 あなたは、町の計画や取り組みについて関心を持っていますか。(1つに○)

町の計画や取り組みに対する関心については、「持っている」が24.8%、「どちらかといえば持っている」が42.2%で、合計67.0%が『持っている』と回答している。一方、「どちらかといえば持っていない」は23.1%、「持っていない」は6.4%で、合計29.5%が『持っていない』と回答した。

「持っている」の割合は、性別では男性において高く、女性を大きく上回っており、年齢別では、60歳以上において高くなっている。



時系列推移をみると、前回調査から大きな変化は目立たない。

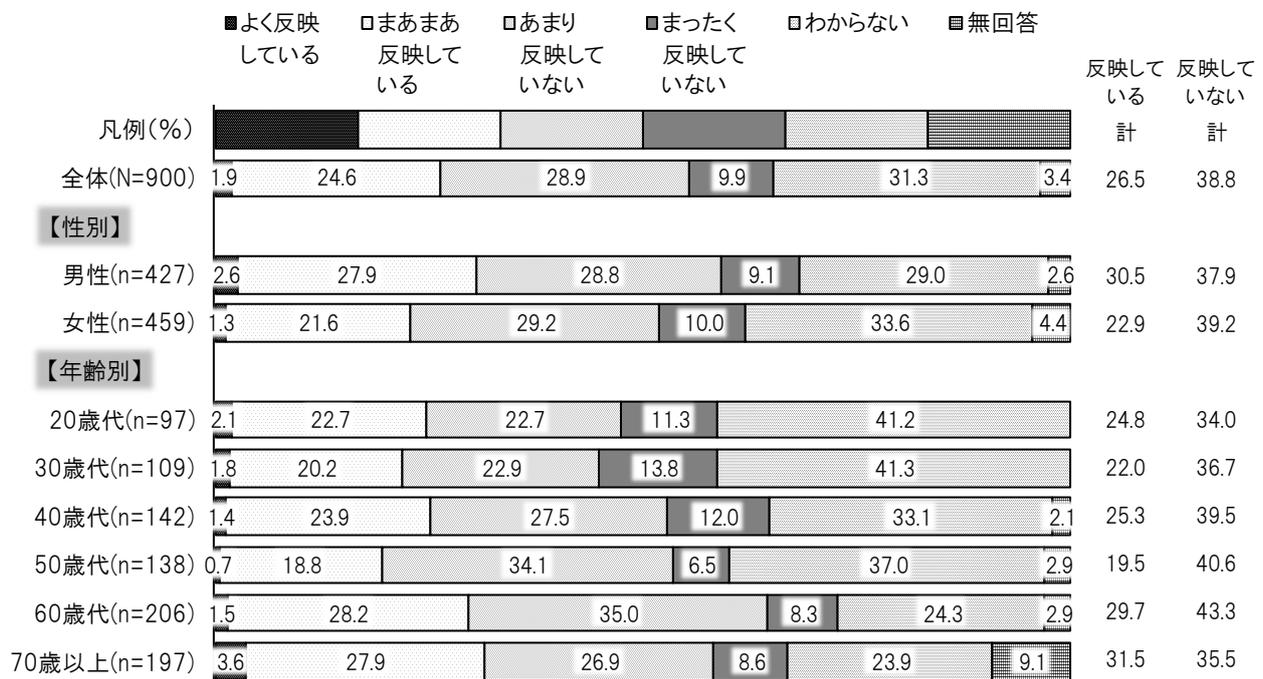


(2) まちづくりへの住民意見の反映について (問 19)

問 19 町は、住民の意見をまちづくりに反映していると思いますか。(1つに○)

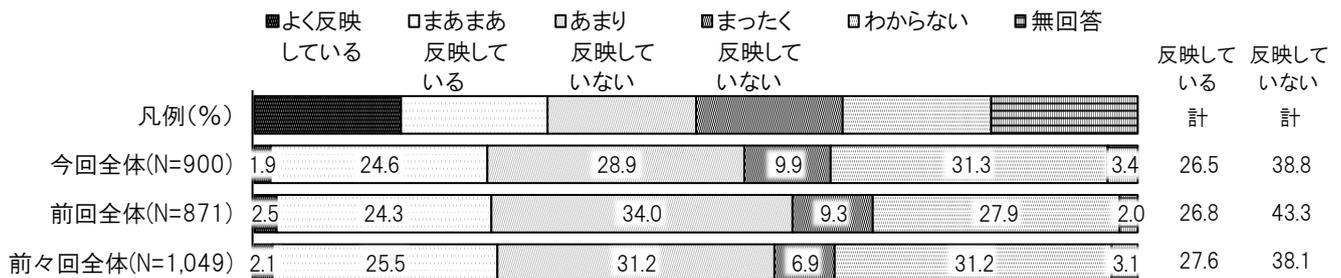
まちづくりへの住民意見の反映については、「よく反映している」が 1.9%、「まあまあ反映している」が 24.6%で、合計 26.5%が『反映している』と回答している。一方、「あまり反映していない」は 28.9%、「まったく反映していない」は 9.9%で、合計 38.8%が『反映しない』と回答し、『反映している』割合を上回っている。

『反映している』の割合は、性別では男性が女性を上回っており、年齢別では 70 歳以上で最も高くなっている。



時系列推移をみると、前回調査から「あまり反映していない」がやや低下し、「わからない」がやや増加したが、大きな変化は目立たない。

◆時系列推移◆

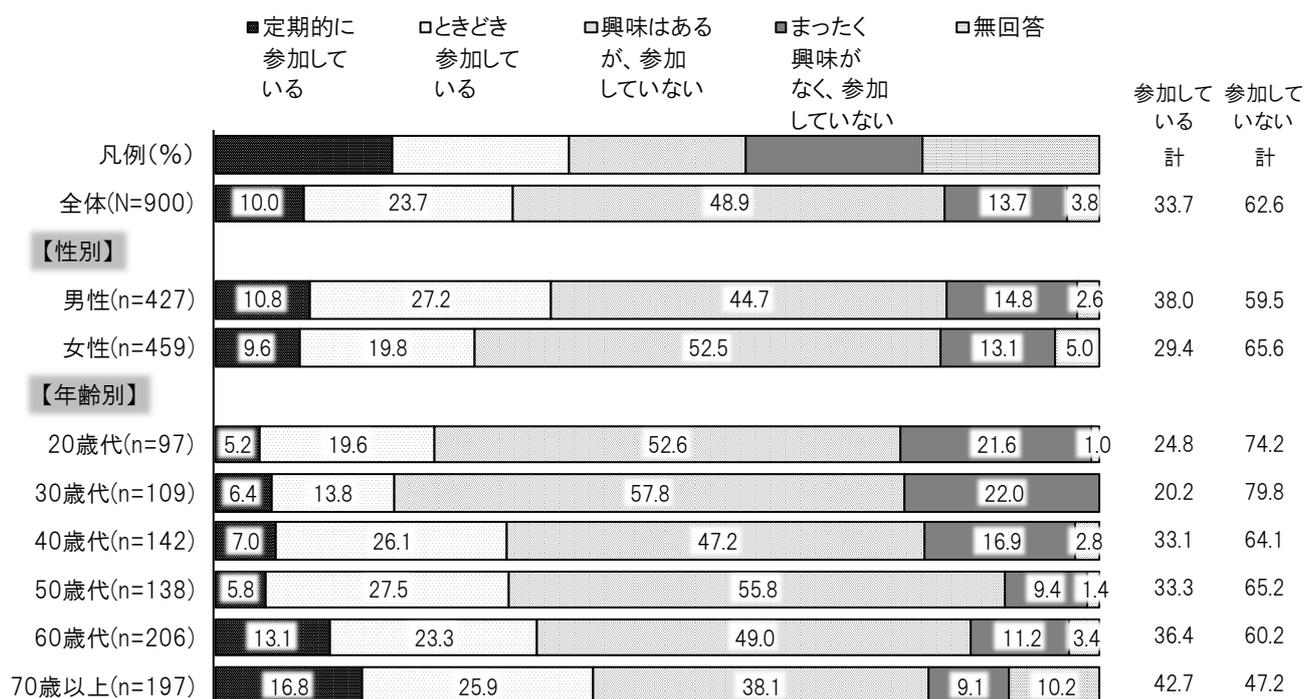


(3) ボランティア活動への参加状況について (問 20)

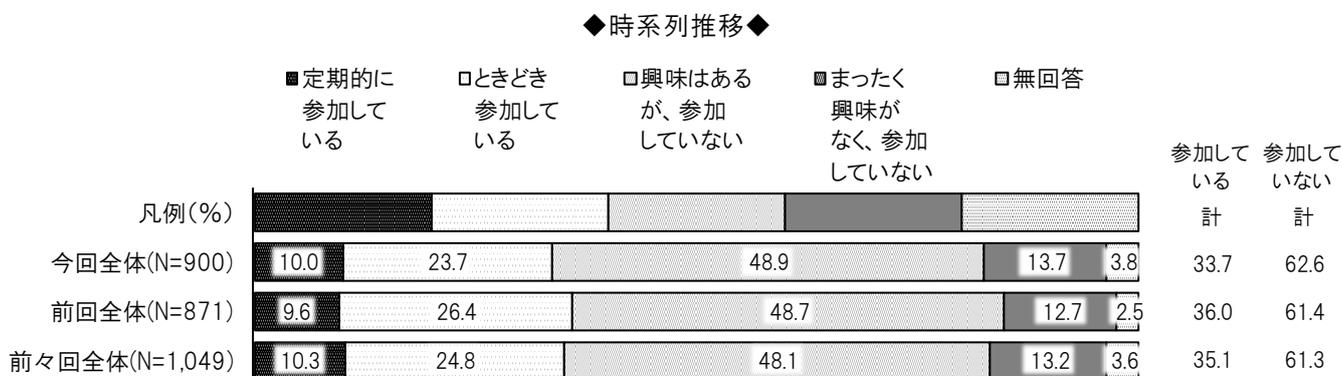
問 20 あなたは、ボランティア活動に参加していますか。(1つに○)

ボランティア活動への参加状況については、「定期的に参加している」が10.0%、「ときどき参加している」が23.7%で、合計33.7%が『参加している』と回答している。一方、「興味はあるが、参加していない」割合は48.9%と半数近くを占め最も高く、「まったく興味がなく、参加していない」は13.7%で、合計62.6%が『参加していない』と回答している。

参加率は、性別では男性、年齢別ではおおむね年齢が上がるほど高くなっている。



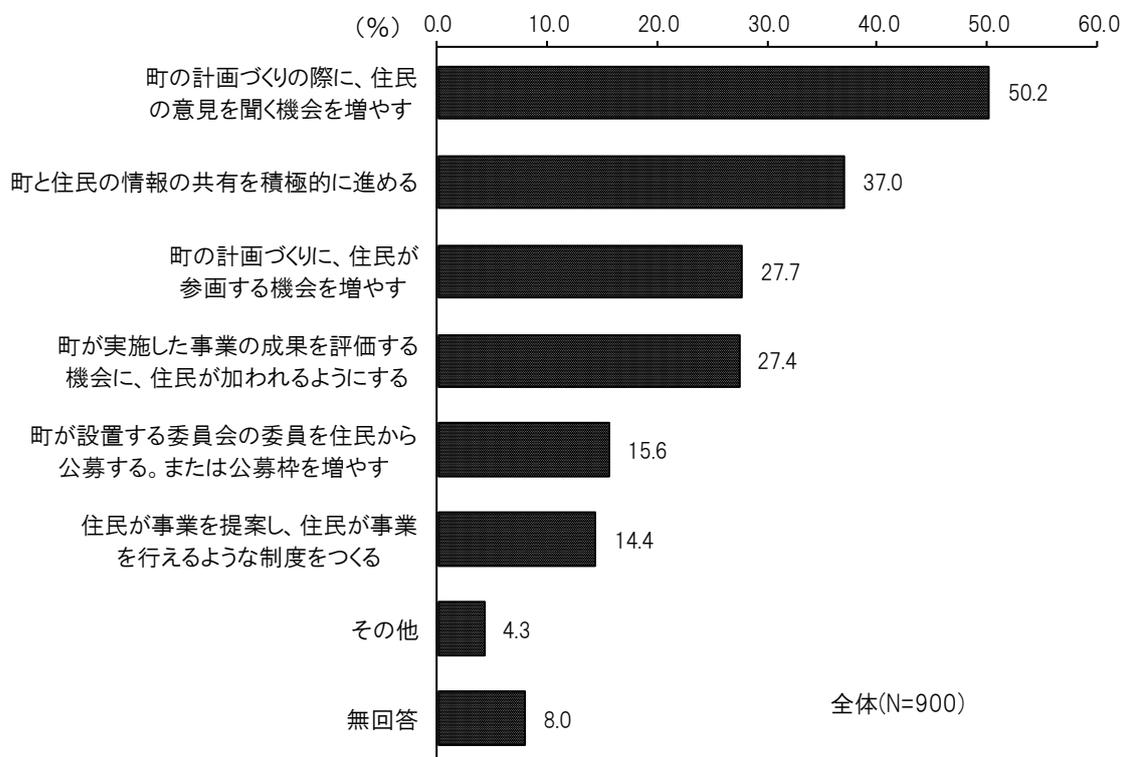
時系列推移をみると、前回調査から大きな変化は目立たない。



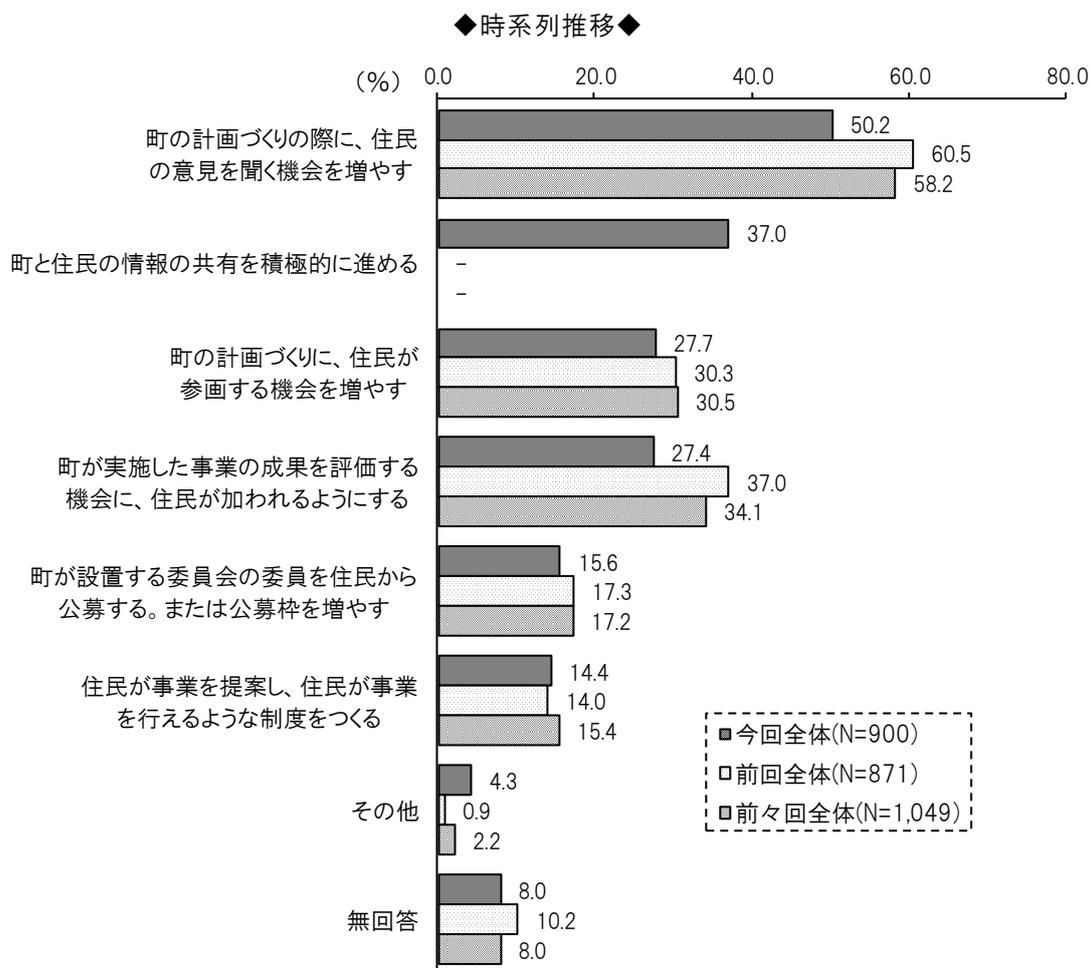
(4) 住民の意見を反映するため力を入れるべきこと（問 21）

問 21 住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（2つまでに○）

住民の意見を反映するため力を入れるべきことについては、「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」の割合が 50.2%と最も高く、次いで「町と住民の情報の共有を積極的に進める」（37.0%）が続いている。以下「町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす」（27.7%）、「町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする」（27.4%）の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」「町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする」などが低下した。また、前回調査では設定の無かった「町と住民の情報の共有を積極的に進める」は、今回は比較的高い割合で回答された。



注:「町と住民の情報の共有を積極的に進める」は前回調査では設定無し。

小学校区別及び性別では大きな差は目立たないが、年齢別では、特に 20 歳代で「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」、30 歳代で「町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす」「町と住民の情報の共有を積極的に進める」などが、それぞれ他の年齢層を上回っている。

	増住町 や民の計 画見づく を聞くの 機会にを	積極的 に住民の 情報の共 有を	が参 画計 する機 会に、 住民	がを町 加評が わ価実 す施 るし よう機 会事 業の 成果	ま員町 たをが は住設 は公置 募から を公委 増募員 やすの 。委	制民住 度が民 をつ事 る業を 行え る案 よう な住	そ 他	
全体(N=900)	50.2	37.0	27.7	27.4	15.6	14.4	4.3	
小 学 校 区 別	芦屋小学校区(n=282)	51.1	35.8	31.6	25.9	14.2	16.0	4.6
	芦屋東小学校区(n=238)	52.1	38.2	29.4	28.2	16.8	10.9	3.8
	山鹿小学校区(n=358)	49.2	37.7	24.3	28.8	15.4	16.2	4.5
性 別	男性(n=427)	48.9	36.1	27.4	29.3	15.2	14.5	4.9
	女性(n=459)	51.6	37.9	28.3	25.7	15.7	14.4	3.7
年 齢 別	20歳代(n=97)	49.5	39.2	35.1	21.6	14.4	16.5	4.1
	30歳代(n=109)	61.5	45.0	26.6	33.0	12.8	13.8	2.8
	40歳代(n=142)	47.9	38.7	31.7	29.6	15.5	14.8	5.6
	50歳代(n=138)	45.7	43.5	25.4	35.5	17.4	15.9	7.2
	60歳代(n=206)	49.5	32.0	25.7	28.2	16.5	15.5	3.4
	70歳以上(n=197)	49.2	31.0	25.9	19.3	14.7	11.7	3.0

注1：表中数値の単位は%(パーセント)。

注2：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

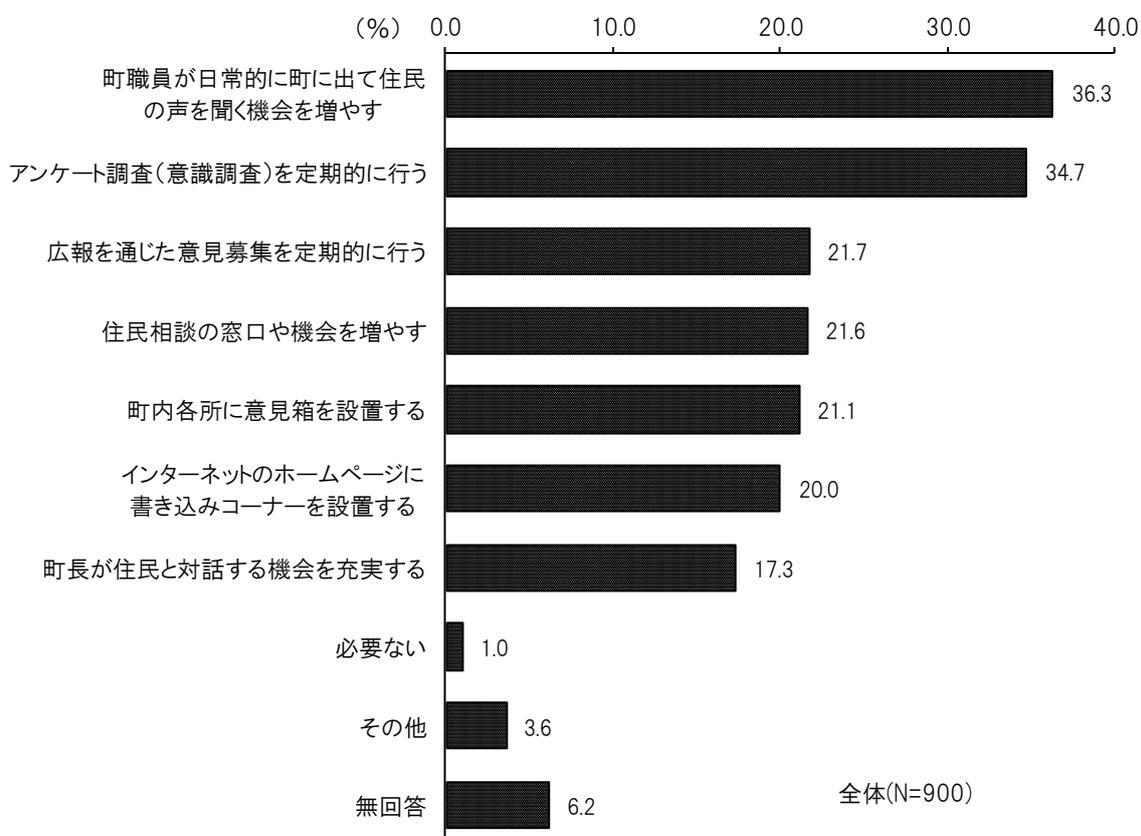
◆「その他」の内訳(抜粋)◆

<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開。 ・インターネットによる情報公開。 ・各区長の参画。 ・行政が町民のことを第一に考える。 ・小・中学生にも意見を求め、まず実行する。 ・このアンケートの結果を町民に知らせる。 ・このアンケートを定期的に行い、情報を共有化する。 ・少人数で物事を決めない。考え方が偏る。 ・知らないうちに事業が進み、結果のみホームページで意見を聞く。これでは何にもなっていないと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町議自ら、住民の生活を知ってほしい。 ・町民(特に事業主)が積極的に活動したくなる仕組みが必要。 ・パソコンがない、できない人には、情報がわかりづらい。 ・町職員が町民の質問に答えられないことが多い。真剣に勉強してほしい。 ・よくわからないので、広報あしやで閲覧できるようなら、その方法で知ることができればよい。
---	---

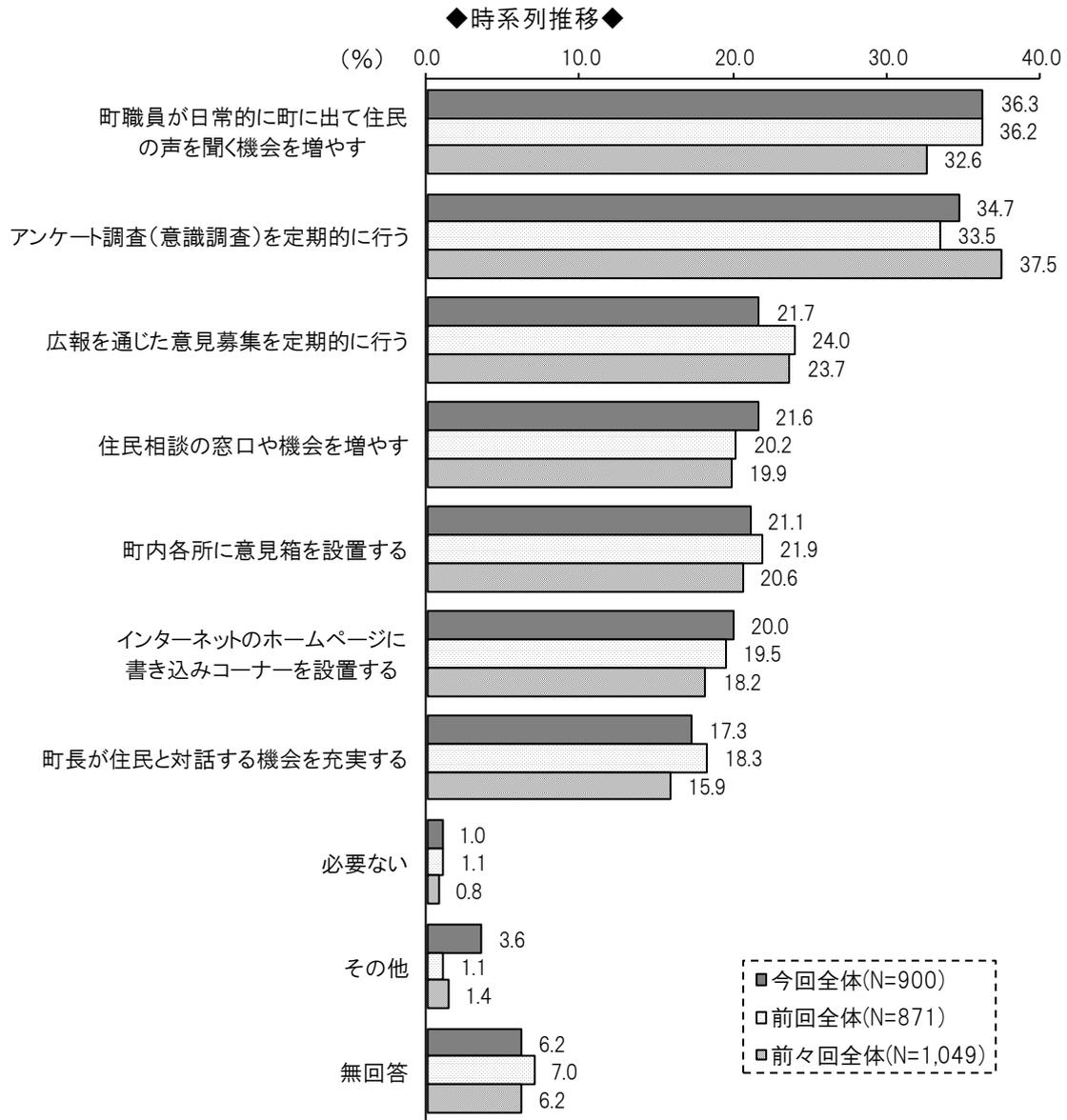
(5) 住民の意見を集めるため力を入れるべきこと（問22）

問22 まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（2つまでに○）

住民の意見を集めるため力を入れるべきことについては、「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」の割合が36.3%と最も高く、ほぼ並んで「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」（34.7%）が続いている。以下「広報を通じた意見募集を定期的に行う」（21.7%）、「住民相談の窓口や機会を増やす」（21.6%）、「町内各所に意見箱を設置する」（21.1%）の順となっている。



時系列推移をみると、前回調査から「広報を通じた意見募集を定期的に行う」がやや低下し、「住民相談の窓口や機会を増やす」などがやや増加したが、大きな変化は目立たない。



小学校区別及び性別では大きな差は目立たないが、年齢別では、特に 30 歳代で「アンケート調査（意識調査）を定期的に行う」、50 歳代で「町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす」などが、それぞれ他の年齢層を上回っている。

	会出町 を増住 や員が す民の 日常 を的 に聞 く町 機に	調アン 査ケー をト 定期 的調 査に 行意 う識	を広 定期 的通 じに 行た う意 見募 集	を住 増相 や談 すの 窓 口 や 機 会	置町 する 内各 所に 意見 箱を 設	コム イン ター ナー ジに をに 書書 きト す込 すの みホ ー	機町 会長 をが 充住 実民 すと 対 話 す	必 要 な い	そ の 他	
全体(N=900)	36.3	34.7	21.7	21.6	21.1	20.0	17.3	1.0	3.6	
小 学 校 区 別	芦屋小学校区(n=282)	39.0	35.5	22.0	24.1	20.2	21.6	18.8	1.1	3.2
	芦屋東小学校区(n=238)	37.8	30.7	20.6	21.4	24.8	21.0	17.6	0.4	4.6
	山鹿小学校区(n=358)	33.2	37.4	22.3	19.0	19.6	19.0	16.8	1.1	3.4
性 別	男性(n=427)	40.7	35.1	20.8	21.1	17.6	19.2	16.4	1.6	4.7
	女性(n=459)	32.0	34.2	22.4	21.8	24.4	21.1	18.5	0.4	2.6
年 齢 別	20歳代(n=97)	29.9	33.0	18.6	24.7	21.6	29.9	20.6	0.0	2.1
	30歳代(n=109)	32.1	43.1	22.0	19.3	25.7	33.0	25.7	0.9	2.8
	40歳代(n=142)	33.8	33.8	16.9	23.9	22.5	28.2	13.4	0.0	7.0
	50歳代(n=138)	45.7	32.6	29.0	27.5	23.2	26.1	13.0	0.0	5.1
	60歳代(n=206)	36.4	32.5	22.8	22.3	19.4	14.1	17.0	1.0	2.9
	70歳以上(n=197)	36.5	35.0	19.8	13.7	17.8	4.6	17.8	3.0	2.0

注1：表中数値の単位は％（パーセント）。

注2：表中の「網掛け」は、各クロス集計（性別・年齢別など）において最も高い割合を示している。（例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、20歳代から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。）

但し、回答割合が10％未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

◆「その他」の内訳（抜粋）◆

<ul style="list-style-type: none"> ・意見の内容が高齢者寄りになってはいないか？若者や子どもたちにも光を当ててほしい。 ・インターネットでのアンケート調査。 ・各区長の活用。 ・学校や病院、成人式・敬老会など、人が集まる所で意見を聞く場をつくる。 ・議員がやればよいこと。 ・記入式アンケートでなく、直接住民の意見を聞いてほしい。 ・行政が住民の意見を公平に聞く。 ・自治区で住民の意見を聞く。 ・住民の意見を聞く。そしてそれを分析する専門の職員が必要ではないか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の声をどのように身近なものとして聞くのか、口を開いてもらえるのか、職員一人ひとりが考えるべき。 ・平日仕事をしているので、町職員の業務時間内では対話等ができない。町職員が時間外に活動することも必要ではないでしょうか。 ・町職員が町内に住み、子どもや家族からの意見を仕事に取り入れる。 ・町職員の行動力と責任感。 ・ワークショップしてますか？芦屋町をどんな町にしたいか考えることが重要。そこから何が必要か考えるべきでは？ ・ワールドカフェ。 ・若者を集め意見をもらえる場をつくる。
--	--

7. 芦屋町のまちづくりについての意見等

問 最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見等ご自由にお書きください。

芦屋町のまちづくりについての意見等について、自由記述（フリーアンサー）形式によって尋ねたところ、主なものとして次のように回答を得た。

20 歳代<43 件>
「はまゆう」は町でたった1つのスーパーなのに、値段が高くないですか？車がある人は外に買物に行けますが、お年寄りには困っているのではないのでしょうか。もともと「しんえい」があったのに、「はまゆう」をつくる必要があったのですか？買物難民はますます増えています。建物をつくる時や大切なことを決める時は、住民の声を聞いてください。住民が傍聴できる議会があれば、広報に日時を掲載してください。
空き地の有効利用を。子どもたちのためのフットサルコートやスケートボードなどができる公園などをつくれれば、近隣の市町村からも人が訪れると思う。 若い人たちに、認知症の人に対する知識を教えるべき。
海の町なのに海周辺が寂しすぎる。福津の海岸のように活気があれば人も集まると思う。 芦屋東小学校と芦屋中学校の先生たちに不満だらけ。他の大きい学校の先生と交換してほしい。
街灯がないので、夜は一人では歩けない。 農家の人の野菜販売所があると嬉しい。 高齢者のために米やトイレットペーパーなど重たい物は移動販売があるとよい。
公共交通機関の充実をお願いします。芦屋町の自然や歴史をもっとPRしてほしいと思います。
タウンバスを花美坂まで乗り入れてほしい。 街灯を増やしてほしい。 花火大会と砂像は毎年やるべきだ。
なみかけ大橋、山鹿小学校前の信号機を反応信号にしてほしい。
農業と漁業がなければ芦屋町は成り立たないと思うので、しっかりと生かしてほしい。 観光のために芦屋町の景観を崩すことはやめてほしいです。
花火大会に来るお客さんのマナーが悪い。 砂像の時期が悪いと思う。
ホームページではなく、SNSなどに掲載した方が、若い人たちは見ると思います。 市営バスの中で、芦屋中学校の制服を着た子たちのマナーがすごく悪くて恥ずかしい思いをしました。中学校の方に伝えてほしいです。
粟屋地域には街灯が少なく、子どもや女性は夜が怖いです。 駅までのバスの本数を増やすなど改善をお願いします。
アンケートについて、町民の声を集めることはよいが、年齢的にわからない質問も多い。例えば学校の教育や高齢者のことを聞かれてもわからない。わからないから不満なんて言えない。その声を集計して満足だと判断されては困る。
イベントや行事等で商店街の活性化を図ってほしい。
街灯が少なく、夜運転するのが危険。増やしてほしい。
企業誘致を積極的に行う。
現在24歳ですが、生涯芦屋町に住みたいと思っています。
公共交通機関が充実していないので、子どもが高校生になった時、通学が大変そうだと心配しています。
交通が不便。いじめが多い。薬局がない。シャッターが多い。警察がやる気がない。役場はやる気がなく、住民の意見を聞いていない。物の値段が高い。就職支援がない。ゴミ捨てが多い。
交通機関へのアクセスが悪いことは、観光地としても若者の流出を避けるためにもよくない。バスの本数や路線を増やして対処してほしい。 夏には海浜を利用した音楽ライブフェスを開催してほしい。

20 歳代<43 件>続き
交通の便が悪くても、人口増加に成功している町や村はあります。それらの地域を見習い、若者が戻ってくる、人が住みたいと思う町にすべきです。高齢者支援も大切ですが、子どもを産み育てたくなるような支援をお願いします。
交通面の強化を希望する。遠賀郡の中で唯一 J R の駅がないので、どこかと結ぶ駅がほしい。
子どもから大人まで、安心して暮らせるまちづくりをお願いします。
子どもやお年寄りが安全に暮らせるような町になってもらいたい。また、他の町に行かなくても、芦屋町内で買物が済むようにしてほしい。
子どもを大切にしてほしい。
この町の人達はこの町にお金を入れていない。この町では何もできない、町外に出たいと思っているからだと思います。
自然を残しつつ住みやすい町にしてほしい。
自分は公務員を目指していますが、芦屋町は福岡の中でも多くの分野で充実していると思います。
住みやすい町にしてください。
住みよい町にするために多くの施策を行っていると思いますが、それが住民側に届いていません。ホームページや広報などに書いてあるのですが、しっかりと見ている住民は少ないと思います。もっと住民に知ってもらえるように、より一層広報活動に力を入れてほしいです。
正門通りのシャッター街に淋しい気持ちになります。昔のような活気あふれる町が戻るといいと願います。
他県の人から、「芦屋はイメージが悪い」とよく言われる。
他の市町村に比べて、お店や図書館など利用する施設が充実していない。高齢者は買物に苦労しています。「はまゆう」は、高齢者が買物しやすいようにもっと値段を下げるべきです。図書館も、若者が利用しやすいように CD や DVD を増やしてほしいです。また、冬に砂像をしていましたが、行ったでしょうか？同じするなら、もっと気候のよい時にすべきだと思います。
町内での祭りを定期的で開催する。また、買物する店を増やして雇用の場を確保する。
町民の意見を聞いて、住みよい町にしてください。住んでいるのは町民ですよ。もっと考えてほしいです。若い人の意見も聞いてください。
伝統を守り、地域力を全国へ発信し、観光や特産物が充実すれば、より豊かな町になると思います。
共働き世帯のために、土・日・祝日にも保育園を開園してほしい。また、2歳から入れる枠を増やしてほしい。
花火大会や砂像展はこのまま残してほしい。特産物などを考えて、芦屋町のよさをもっと町外にアピールできたらと思う。
ポテンシャルの高い町だと思います。頑張ってください。
町全体に活気がほしいと思う。岡垣のサンリーアイのようなものはできないか。町民会館がもったいないような気がする。
町の治安をもっとよくするべき。
もっと多くの人に芦屋のよさを知ってもらうための PR が必要だと思います。ボランティアなど呼びかけて町をきれいにしたり活性化させたりするために、たくさんの人の目に届くような募集を積極的に行ってほしいです。
役場へ手続きに行った際の対応が悪く、仕事を休んで手続きに行きにくいです。まちづくりの前に、住民への対応を改善してください。
若者が働ける企業を誘致してほしい。
若者を呼び込む努力をしてほしい。
気軽にウォーキングやランニングできる環境がほしい。現在は水巻町を利用。街灯を増やしてほしい。水巻町のみどりんパークのような設備がほしい。
城山の崩れている部分を早く何とかしてほしい。病院に有能な医者を入れてほしい。はまゆうの値段は高過ぎる。砂像展を冬にやるのはおかしいと思う。税金はちゃんとした事業に使ってほしい。ただでさえ子どもが少ないのに 35 人学級はおかしいと思う。

30 歳代<43 件>
人口に対し町会議員の数が多過ぎる。もっと削減して意見をまとめやすくした方がよい。空き地や空き家が増えている。町職員が中心になってそれらを活かす方法を考えてほしい。アンケートの回答に対する謝礼（例えばにこにこ商品券1枚同封する等）があってもよいのではないのでしょうか。
他市のように夕方や平日以外の時間でも役場の手続きができるようにしてほしい。スーパーはまゆうは花美坂区の自分にとっては税金の無駄使いとしか思えない。大型スーパーを誘致してほしい。タウンバスが花美坂に来てくれないのも疑問です。税金を有効に使ってほしい。町議員さんは選挙の時以外は全然情報発信してくれません。何をしているのかわかりません。
町職員が芦屋町に住みたいと思えるまちづくりをしてほしい。若い人の定住化促進。
長年住んでいるので住みやすさはわかってはいるが、子どものことを考えると不便すぎる。学校へ行くためのバスの便数が少ない。商店街をもっと活用すべき。シャッターが閉まっていると古臭い感じがする。若者は出ていくに決まっている。芦屋町は老人の町という認識が高い。
花火大会が年々貧相になっている。お金がないのなら、花火大会をやめて砂像に力を入れるべき。アクアシアンのリニューアル。もっとアトラクションを増やすべき。ボート場とセブンイレブンの信号機に右折用信号を作るべき。危険である。
10年前よりはかなり改善されていると思う。その一方で、政令指定都市に比べるとまだまだ遅れていることがあるので、今後も住民と一緒に作っていきましょう。
J Rの駅までの交通機関が充実すれば、人も来るし学生も便利。
空き店舗があれば、鉄道模型ショップをつくらしてほしい。
芦屋町に来れば「これがある」「これが食べられる」といった町にしたいと思う。わざわざ芦屋に来る意味を確立してほしい。
芦屋町には自然が多くあり、よい所だと思います。まちづくりに活かしてほしいです。
アンケートに答えても、町政に反映されていないように思えます。
今までは町内の買物では物が揃わないので、町外まで出かけていました。もうすぐ「コスモス」ができると言うので、町内の方は楽しみにしていると思います。更にJ Rが通ってくれたり、夜間にかかれる病院が出来てくれれば、もっと住みやすくなると思います。
議員の人数が多すぎます。税金の無駄だと思います。
決め事をする時に、成功例を参考にすることは当然ですが、町の人口や風習に合った計画を立て実行することが大事だと思います。
教育の質を高めて学力を向上させてほしい。
現在の芦屋町は、外部の人たちが転居してまで住みたいと思う魅力に欠けています。他の行政が行っている施策をマネするのではなく、今までに類を見ないような画期的な政策で、外部から移住したいと思うようにしてほしいです。
広報あしやはいろいろな情報が載っていて便利です。これからも町を盛り上げるために頑張ってください。
子どもが高校・大学に通学する時に、交通機関が少なくて困るだろうなどの不安がある。
子どもが高校生になった時、通学の不安があります。とても不便です。
子どもたちの健全な育成、老人や病人の住みやすい町づくりに税金を役立ててください。
子どもの医療制度は充実していますが、保健所や学校での感染症予防の指導が教員たちにできていません。同様に防災訓練も周知できていません。自然豊かで高齢者も多い町だからこそ、もっと町の安全を徹底してほしいです。何のために役場に保健師がいるのですか？
子どもを育てやすい町にしなければ、年寄りばかりの町になると思う。
産業もなく交通アクセスも悪い。若者が住む町ではない。海があるので、定住型介護老人ホームを建てて介護事業を基盤としてはどうでしょう。雇用も生まれるし、面会に来る家族が楽しめる娯楽等の提供で、人を呼び込むことも可能です。魅力あるまちづくりを目指すのなら、まず相手の立場に立って考えてください。
施設や公園をつくっても、維持や整備が不十分。他の町など見て勉強した方がよい。
自分の住む町なのに、知らないことだらけだと気付かされました。これをきっかけに、まちづくりというものにもっと関心を持ち、関わっていきたいと思いました。
車道が整備されていないので改善してほしい。

30 歳代<43 件>続き
巡回バス・老人風呂は無料ではなく、利用者は 100 円でも負担すべきだと思います。そうすれば将来若者の税負担が少しでも多くならないと思います。
女性をもっと働けるようにバックアップしてほしい。預かり時間を長くするなど、子育てしながら働けるようにしてほしい。
砂像を見に行きたかったのですが、さすがに寒すぎました。時期をずらしたらどうでしょうか。
タウンバスの本数を増やしてほしい。JRに合わせづらいので、高校生などバス通学がしにくい町です。
近くに産医大新水巻病院があるので、芦屋中央病院はいらない。
中央病院の医師を充実させてほしい。
町営住宅を増やし、住みやすい町にしてほしい。コインランドリーも欲しいです。
町職員にきても「わかりません」「すみません」としか言わない。もっと住民の立場になってほしい。
日常生活に密着した環境づくりと子育て環境。高齢者医療と生涯学習に期待しています。
花火大会は全国でやっているのだから、わざわざ芦屋に見には来ない。経費がもったいない。また、空き店舗を更地にすれば購入する人がいると思う。もっと危機感を持って対処してほしい。自分だけがよいと思わないでほしい。
平和で安全な町づくりをお願いします。
毎年国際交流パーティに参加しているが、とても楽しく協会の方が頑張っている姿が素晴らしい。もっと国際交流協会を広めて支援してほしい。使用している山鹿公民館も館長・スタッフの感じがとてもよい。
町の特産品がない。特に土産となる加工品が少ないので、魅力ある加工品・特産品があればよいと思います。
もっとよい町になるように、自分にできることは積極的に参加していきたいと思います。糸島みたいに話題のお店ができれば、みんなに自慢できると思います。
公共交通機関の充実をお願いします。

40 歳代<49 件>
芦屋はよい所がたくさんあると思うのですが、上手に活かされていないように思います。公園の整備をお願いします。
子どもたちのために、自然環境の保全を継続的に行ってほしい。総合体育館のジムの充実。
城山の整備。海水浴場駐車料金の廃止。街灯の設置。野球場がほしい。
タウンバスは限られた所しか通っていない。市営バスをもっと本数を増やして、学生たちが困らないようにしてほしい。学生たちに、北九州市とレベルを合わせた学力をつけてほしい。ペットも老人ももっと住みやすくしてほしい。
他の役場では時間外に住民票等の書類が取れる曜日がある。芦屋も見習ってほしい。高齢者の独居世帯が増えている分、役場としてもっと柔軟な考え方を取り入れ、発想の転換をはかるべき。民間企業などがしていることを研究して考えつくるのが大切。
乳幼児、子ども医療費の拡大など子どもに関することに力を入れてほしい。学校の先生は、不登校児に対する対応を勉強すべきだと思う。中学生の自転車のマナーが悪すぎる。ちゃんと指導してほしい。
陸の孤島になってしまっている。人口が増える町になってほしい。花火大会や砂像の広報活動が足りないと思う。知らない人が多かった。北九州でも知らないという人が多かった。もったいないと思う。
100 年後の芦屋について、議会・議員にしっかりと計画・見識を持ち行動してもらいたい。町民は案外見ているものですよ。
空き地や空き家を有効活用してほしい。漁民アパートの跡地をコンビニにしてほしい。
芦屋中央病院と役場で働いている方の態度がとても悪い。きちんと対応してほしい。
芦屋町の商売人は気合が入ってないと思います。店舗の少なさにびっくりします。大型書店を作ってもらえるとありがたいです。
芦屋町独自の方針を打ち出し（特に教育）、芦屋町に住んで誇りを持って、他の市町村から移住したいと思わせるまちづくりをしてもらいたい。

40 歳代<49 件>続き
芦屋町のよい所をアピールして、町民を増やしてもらいたい。
芦屋町は議員が多過ぎる。
医療制度や体制が変わりつつある現在、多額の借金をして芦屋中央病院を建て替えるのは、少し考えて方がよいと思います。場所も遠くなります。
いろいろな場所にいろいろな施設を建てるのではなく、一カ所にまとめ多目的に能率のよい運営にしてほしい。自然や歴史がある芦屋町にもっと人が来てくれるような観光設備にしてほしい。
生まれ育った町なので芦屋町の発展に期待しています。できる範囲内で協力できることがあればと思います。
生まれも育ちも芦屋町で、これからも住み続けていきたいと強く感じます。自然に恵まれ豊かな農産物等、自慢できるところがたくさんあるのに、観光地としての知名度も今一つで寂しく思います。もっと住民を巻き込んで新たなチャレンジを行い、たくさんの方に来ていただけるまちづくりを希望します。
海沿いの町には素敵なカフェや雑貨店などが最適な場所だと思うのですが、一つもないのはなぜでしょう。今はどんなに不便な所でも魅力ある店なら人は集まります。能力のある人は、どんな小さな場所でも古い建物でも魅力ある空間にできます。他の所から能力のある人が入って来やすい環境は整っているのでしょうか？魅力ある店が増えて、楽しい観光ルートマップができてほしいです。
買物・公共交通・産業がない芦屋町は不便。ポート場は足かせになっている。人口減少も進む中、税収で赤字を増やさないようにしてほしい。
北九州市から引越ししてきて 10 年以上たつが、騒音問題や役場のサービスの向上が改善されていない。いずれは芦屋町を出て行きたい。子どもも交通の便が悪いので住みたくないと言っている。未来ある子どもが住みたくなるまちづくりを目指してほしい。
小・中・高校生の子どもがいるが、少子化の問題をまざまざと見せつけられている。少子化を逆手にとって、子どもたち一人ひとりへのケアや学力指導を充実させてほしい。幼稚園からの英会話の向上をお願いしたい。
校区でそれぞれバラバラ感があり、悪い所ばかりが目立つ。PTA・区長等の方は、定期的に交流会を開いてお互いの校区のよいところを見習うべきではないか。
高校生の子どもは、バスの時間がなかなか合わず困っています。私の母も車に乗れないので、バスの乗り換えなどが不便で、つつい家に引きこもりがちです。もう少しバスの便が増えると、もっと住みやすい町になると思います。
交通の便は悪いが、食べ物や自然といった魅力的なところもたくさんある。しかしこれらの自然・食べ物・イベントなどをトータル的に広報できていないと思う。この辺りをうまく取りまとめて運営できれば、外部からの観光客を掴めると考えられる。
高齢者が多いので、町政でもっと真剣に取り組むべきである。
高齢者が多く買物が大変です。スーパーしんえいの所で買物できるようにしてほしい。また、バスの本数が少な過ぎて、芦屋には来たくないと言われていました。
子育てしやすい町でとても住みやすいです。もっと広めて移住者が増えればよいと思います。
子育てしやすい町になるとよいと思う。高校が遠く通いにくいので引越するという話をよく聞きます。小学校から塾へ行く子どもが増え、中学になるとほとんどの子どもが通います。塾に行かなくても成績が上がる方法を考えて実現させてほしいです。同時に通学費の家計への負担軽減を考えてほしいです。
子どもの医療や教育においては恵まれた環境だと思います。交通の不便さが少しでもよい方向へ行けばありがたいと思っています。
これからも住民の意見を取り入れたまちづくりを推進してほしいです。
財政的にも厳しい状況なので、無駄なことは止めてほしいと思います。事業を行う際には、もっと住民の意見を幅広く収集し、今それが本当に必要なのかを考えて行ってほしいです。子どもの教育に関しても、子どもたちが芦屋や日本を愛せるような教育をお願いしたいです。英語が上手くなる前に、日本語がまともに話せる人間を育ててほしいです。
自転車通学の子どもたちが細い路地からいきなり飛び出して道路を横断する。大変危ないので何とかならないだろうか。横並びの通行も危ない。
自分の子どもたちも芦屋に生まれてよかったと言ってくれています。この文化を次世代に継承していきたいと思います。

40 歳代<49 件>続き
商店街を整備する必要がある。観光客が来てもシャッター街では印象がよくない。
砂像展は今年も続けてほしい。
タウンバスは高齢者が利用することが多いので、車イス用のスロープを設置できたらよいと思います。
タウンバスを岡垣町や遠賀町のように定額にしてほしい。
地域密着型サービス等、よりよい町にしてほしい。
町外へ出かけると、きれいに整備された歩道が目につきます。小さい子どもをベビーカーに乗せての散歩や犬の散歩をしてくつろげるような遊歩道があるといいですね。
町長や議員が何をしたいか？ではなく、住民が何を望んでいるのか？を客観的に聞いて事業計画に反映させてほしい。
町民が一つになっていない。芦屋町の歴史を認識して、活気あるまちづくりをしていかなければならない。
不法係留船問題解決のためにも、港を整備して多くの人に活用してもらえるようにしてほしい。
まずは、町政上層部や議会でのゴタゴタをスッキリさせてほしい。町民として恥ずかしい。このような状況で、「芦屋は住みよいか？ずっと居たいか？」と質問されてもむずかしい。
町の活性化を積極的に進めてもらいたい。
役場の職員の態度が悪い。笑顔がない。役場は町の顔でもあります。その方たちがそんな態度では、まちづくりと言われても協力する気にならない。
役場の一人ひとりが町を見て回れば、どこがダメかよくわかるはずだ。
よい町だとは思いますが、子どもが高校・大学へ通うとなると、早起きしても公共交通機関では無理。早急に何とかしてください。
利権ばかりにとらわれず、芦屋町の活性化を本当に考えてほしい。若い議員や町職員はもっと頑張ってください。

50 歳代<63 件>
「まちづくり」の前に、役場職員の教育を徹底するのが先だと思う。フルタイムで働き、住民税を払っているのに、行政サービスが利用しにくいのは問題があると思う。
芦屋町以外から来てくれる町づくり。空き家を活用して、クリスマスコンサートなどイベントに使ってほしい。
芦屋町の学習室を朝 6 時 30 分から開けてほしい。各小学校区に学習室を設置してほしい。九州大学中央図書館「きゅうとコモンズ」のようなスペースをつくってほしい。
街灯を増やしてほしい。釣り公園をつくってほしい。道の側溝を清掃してほしい。雨の時に水があふれている。
下水道料を安くしてほしい。空き家対策を早くしてほしい。街灯の増設。（防犯対策）
交通の便が悪く、車がない方にとっては不便です。町立の病院は対応が悪く閉鎖的です。トップが他の病院を意識してスキルアップしないと改善しないと思います。
高齢者専用でなく、誰でも乗れる巡回バスをお願いしたい。ボートの売上が上がっているようですが、町民税や固定資産税を下げるなど、住民にわかるようにしてほしい。
ここまで衰退すると、町内の商工業者だけではどうすることもできない。町外から事業者誘致を促進する施策をとってほしい。町の職員は、町内の商工業の実態から目をそらしているような気がする。もっと現状を把握し、前面に出て活動してほしい。
個人情報以外の積極的な情報公開制度への条例改正。地域コミュニティ活動やボランティア活動に積極的に参加する町民に、地域通貨制度導入などの何らかのインセンティブを与える。
ゴミ分別のルールの徹底。守らない者への警告、指導。町の職員も、少しは町に出て現状を把握する努力が必要。段差の多い道や穴のあいたままの道に困っている。無能な職員には税金を払いたくない。
週末にスポーツイベントを開催する。シャッター商店街を利用して、週末のみお店を開く。
町会議員は毎月何をしているのか。報告書を書かせてはどうか。税金の無駄である。役場の職員は公共の交通機関で通勤しているのか。公共交通機関の充実を考えてほしい。
町民が健康でいられる町に。そのためには、健康診断の充実や健康推進事業に力を入れ、商工業者も休日検診を受けやすいシステムをつくる。役場横の横断歩道に信号機を設置してほしい。
遠賀川沿いの芦屋側堤防に、芦屋橋から降りて行けない。散歩道が途中で途切れるのは、何か理由があるのでしょうか。城山やマリンテラスの遊歩道が、落葉や木の枝で歩きにくい。掃除をお願いしたい。花火大会の時だけでもヨットハーバーの一部開放をして、観る場所を増やせないか？

50 歳代<63 件>続き
人形供養や砂像等実施しても単発的な企画になっており、商店街まで人が流れてこない。高校生の通学が不便。
安いインターネットをつなげてほしい。ガス代を安くしてほしい。
空き家を減らしてほしい。不良が家の庭や空き地にゴミを捨て困っている。ゴミのポイ捨てやタバコのポイ捨てには罰金を取るなどして、厳重に処分してほしい。
朝の登校時、芦屋小学校の生徒は皆、積極的に丁寧な挨拶をしてくれます。
芦屋町が発展する上で、現在何が問題なのかをあぶり出し、限られた財源の中で将来に向かってまちづくりに励んでほしい。
芦屋町にも産直の魚や野菜、特産品を販売する道の駅と作ってはどうか。
芦屋町は自然が多いので、老後に暮らすのはよい町だと思っている。ただ、職場が少ないので生活費を稼ぐのが大変です。
芦屋に生まれ育った人はここに住み続ける人が多く、他所から来た人間にとっては居心地がいいわけありません。
新しいものをつくり出すより、古くからの自然や物を大切に守っていくことの方が、将来のためになると思います。
アンケートに答えていて、いかに芦屋町の取り組みに関わっていないかということに気がつきました。
井の中の蛙ではなく、まず外を知ること。古きもの、心を大切にしつつも、変わっていくことを恐れずに、よい方向に変わっていくことを期待します。
海では魚の養殖や加工品をつくる。畑では農産物や加工品をつくる等、若者が楽しく働ける場をつくり町が補助する。また、高齢者が住みやすいまちづくりをする。マンションを建て、診療所や生活相談できる所をつくる。商工会、町長、町会議員、町職員の方々、真剣に考えてください。芦屋町がさびれていきます。
海岸の整備をしてほしい。また、夜間の路上駐車をなくしてほしい。
海浜公園に飲食店や道の駅を作ってください。
行政と住民が対立しないよう、手と手を取り合ってよりよい町づくりをお願いします。
栗屋大城地区に街灯が少ないので増やしてほしい。
高齢化対策・少子化対策に力を入れてほしい。
このアンケート結果がどこまで反映されるかわかりませんが、コツコツと続けていけば、いつかこの町もよくなると思います。
このアンケートは長すぎて、集中力が途切れます。芦屋町の内情をあまり知らない者にとっては答えにくいです。
今後町民が住みやすいと言えるまちづくりをしてほしい。
最近町に元気がないようです。広報でも人口が減り続けているのを寂しい気持ちで見えています。住みたいと思ってもらえる町になるといいですね。
財政改革を見直して税金の使い方を考え直してほしいです。町民が豊かで幸せだなあと感じる芦屋町になったらと願っています。
自宅がなければ引越したいくらい、発展しそうな業種がない。人口が毎年減少しているのは理由があるのだから、行政側はもっと調査・研究するべきではないだろうか。
祝日にもゴミの回収をしてほしい。北九州市は、祝日でも回収してくれる。よろしくお願いします。
小学校の職場体験は東小学校しか行っていないのでしょうか。学校により、教育内容に違いがあるのはおかしいと思います。
商業施設や企業の誘致が必要。
商店の前の路上駐車が大変迷惑である。スムーズに通行できることは稀である。駐停車禁止の措置はとれないか。
砂像の入場料をなくすべきである。県民は無料、県民以外は有料にすべき。
素晴らしい自然を擁する芦屋町です。自然と共存しつつ、活性化する方向へ進めてほしいです。町の仕事をされている方をはじめ、いろいろな専門家との懇話会等を開催してはどうでしょうか。このままでは限界集落になります。
生活様式が変わり、盆や正月等の意識も変わりつつあります。観光施設は、年中無休にしたらよいと思います。
正門通りのシャッターがほとんど閉まっているのが残念です。何とかできないのでしょうか？

50 歳代<63 件>続き

中学生の通学マナーがとても悪い。特に芦屋橋から学校の坂道の所、自転車が危ないです。事故が起きてからでは遅いです。何とかしてください。
中堅規模のスーパーがないので誘致してほしい。地元雇用にも役立つと思う。観光面では、冬の砂像は反省点が多いのでは？冬の芦屋町をもう一度考えてほしい。魚釣りセンターをつくるのもよいと思う。
町営住宅の保証人年数が短すぎます。家賃の支払いを延滞している家庭だけに確認をすればよいと思います。
町内で働ける環境を整えてほしい。
町内の清掃活動をしている姿を見かけたことがある。なかなかよいことだと思ふ。町民体育祭にも参加したいが、近所付き合いができていないので毎年尻込みしている。何かしら繋いでくれるようなことがあるとよいと思う。
町のホームページをただ見るだけではなく、書き込み欄があった方がよいのではないか。
特産品を生かした観光地を目指してほしい。
野良猫が多過ぎて困っている。野良犬同様捕獲をお願いしたい。
不法投棄の件で、役場に電話を入れたら、いろいろな部署にまわされた。苦情処理の窓口を一カ所にまとめてほしい。環境美化の軽トラックが通るが、ただ走っているだけで全く見ていない。
暴力団犯罪の撲滅を目指す。
町が行う事業等が不透明であると共に、イベントは中途半端、計画・実行が実になっていません。他の町にはない芦屋のよさをアピールしていない。また、大金を使ってつくった施設をきちんと整備して、町に来る人たちが気持ちよく利用できるようにしてほしい。
町職員はもっと地域活動に参加してほしい。
町にまったく活気がない。町外のスーパーやレジャー施設に出かける人を取り戻すような場所が町内にも必要と思う。
町の将来的コンセプトを明確にし、重点的に予算を投入して他町との差別化をはかる。
宗像市の道の駅はなぜ集客が多いのだろう。芦屋町にも特産はあるのに。
もっと町民のことを考えてほしい！！
臨時職の雇用期間を徹底させ、幅広い年代に仕事を与えてください。10年くらい働いている人もいます。
若者の仕事がなく、町内の人口が減ってきている。町内で安心して働ければ人口も増えると思う。

60 歳代<76 件>

「まちづくり」は中長期的な計画が必要と思うが、役場の担当者が替わるたびにその方向性や内容等が大きくぶれているように思う。住民の血税を投入していることを忘れずに、無駄や手戻りのない「住民のための行政」であってほしいと考える。
空き店舗の活用。公園トイレの清掃。地域産業、地元の特産品を町がバックアップしてほしい。イベント時の駐車場確保。
コミュニティ広場の拡張と気軽に参加できる場所がほしい。活気あふれる地場産業や若者が働ける場所がほしい。
これから高齢化が進み、年金生活者が増える。収入もなく生活が大変になってくると思うが、どのように舵取りするつもりか？構想を聞きたい。川に浮いている持ち主不明の舟を何とかしてほしい。町を活性化させるための人材がないように思われる。旧態依然の発想では何も生まれない。長いスパンで物事をしてほしい。
自然がいっぱいあるので宣伝をしてみてもどうか。町内の区に入っていない人が多い。区に入るように指導してほしい。
住民が安心して生活でき、住んでいることを誇りに思える町。若い世代が増え、子どもの声が聞こえる町。地元で働ける場所のある町。
高浜町住を廃止して、一戸建てが可能なようにしてほしい。小中一貫校を考えてほしい。病院建て替えを早く進め、既設敷地の早期活用をしてほしい。
多大な税金を投入する中央病院は町内にない。また、切望の高い小児科を設置することは公共団体の責務と思う。優秀な議員の確保。議員定数削減。

60 歳代<76 件>続き
町職員は、町内に住んでいる人を優先して採用してほしい。魅力あるまちづくりを目指して、はまゆうとなんじゃもんじゃの木を増やす計画を持ってほしい。
町内の活性化が必要。犬のフン、雑草、ゴミなどの大掃除。町の将来的な展望を役場から発信すること。
町民を増やすこと。働く場所を増やすこと。子育てがしやすい町にすること。
浜崎や柏原などで道路のゴミが目につく。バスはいろいろな経由のコースがあってわかりにくい。
はまゆうの駐車場を夜間開放してほしい。食事する時などいっばいで止められない。緊急放送が聞こえづらい。
道の駅をつかってほしい。私は、カレンダーは要りません。
PR誌も必要かなと思います。参加できる機会があればよいと思います。
空き家や空き地を有効活用し、他地域からの若い家族が定住できるような取り組みをし、町の人口を増やすこと。
芦屋釜の里～海岸～はまゆう公園・群生地ルートには、統一的なサインが必要だと思います。
芦屋基地を考え直す。
芦屋町が明るい町、楽しい町になるように期待しております。
芦屋町には工場誘致は無理だと思うので、住みたくなる住環境の整備を期待したい。
アンケートに参加するのは3回目ですが、意見は反映されているのですか？
以前から観光の町を目指すと言われていますが、樹木が道にかかったり雑草が生えている場所が多く見られます。
一部住民の意見が突出しているようだが、20代～40代の意見・考え方を聞く機会を設けて、まちづくりの参考にするのも重要なことだと思う。
一般の人の意見など無理と思うので別にありません。
インターネットで公開だけでは、インターネットをしていない人には不利だと思う。老人に優しい町づくりを！
海が見える見晴らしのよい高台に、バイキングレストランをつくってはいかがですか？地元でとれる野菜を使い、美味しい料理があれば人は寄って来ます。そこには雇用も生まれます。海のトイレは、お金がかかったのに感心しません。
お互いさまという気持ちで、歳を取っても少しでもお役に立てることがあれば参加したいと思います。
買物難民の手助けをしてほしい。
各項目のアンケートに回答したが、どれにも該当しない問いもあった。
各所につくられている花壇の手入れを、ボランティアを募集して行う。
過疎化にならないためにも、行政・商工会・観光等もっと頑張ってください、若い人たちや子どもたちがずっと芦屋に住みたいと思うようにしてほしいです。
観光にもっと力を入れて、魅力ある芦屋町にしてほしい。
漁業・農業をもっと中心に据えて、第一次産業に力を入れるとよいと思う。せっかくの資源を活かしていくことを考えたい。
区離れが多く、区に対しての意識が低い中では、町づくりは困難。まず町が方針を出し、町民に理解を求めることが必要。
クリーニングの乾燥機設置の店や薬局が1軒もなく、日常生活に不便。町長をはじめ何も感じないのか？お年寄りや車のない人は大変不便。
車で近隣の町をドライブしますが、明るくて清潔感があります。芦屋町はなんとなく暗く、古臭い感じがします。これは、店が少ないことや道路の狭さに関係していると思います。見通しのよい環境づくりも必要だと思います。
健康で老後を迎えるには運動習慣が大切です。スロージョギングなどのできる施設があるとありがたいです。
高齢化が進んでいるので、介護施設の充実やスポーツ教室・公民館講座・同好会の広報と活動への支援を充実させてください。
高齢になると、どこのアパートも階段を上がるのに一苦労です。エレベーターをつけてほしいです。

60 歳代<76 件>続き

住居が芦屋町中心から離れており、北九州若松区や水巻の商店が近く、町内ではほとんど買物もしないし、行くこともない。急患も断られたことがあり、病院も行かない。住んではいるが、住人としての意識は少ない。

商店街はさびれ、町の中心部に人が集まらない。このままでは高齢者の町になってしまう。考えないといけない。

将来を見据えた力強い歩みと、住民から広く声や意見を聞くことが重要です。

人口減少が続いている。その対策は？

人口に対して町会議員が多過ぎる。こんなにいない。

他地区の人達がわざわざ足を運んでくれるような観光やグルメがあればよいですね。

近くのコンビニの袋がちらかっているので、町から店に掃除をするよう指導してほしい。

町会議員定数削減。

町会議員の数が多過ぎると思います。人数をカットして、その分他の方に使用してほしいです。

町内に就業先がなく、町民の定住が進まない。企業誘致や雇用対策に力を入れてほしい。

通勤・通学が不便なのを承知で住んでいる方も多いと思う。それを補うよい町をつくっていただきたい。例えば、自然環境の整備、緑化による街並み整備、福祉の充実など。また、冬に開催された砂像展はどのくらいの来場者があったのだろうか？開催に疑問を感じる。

適正な人口に対する政策の取りまとめ。それに対する町の方向性を定め実行する。

動物の散歩時の規則をつくる。

特養のような早急に必要なものは确实かつ迅速にお願いしたい。

隣近所にも老人の一人住まいや老老介護の世帯が増え続けています。引きこもり状態の世帯も多く見られます。そういう人たちが表に出てくるような声かけや対策をしていただきたいです。

日常的な生活が快適なのは大切ですが、独居老人とか障がい者・児童・子育てなど、大変な状況にある人に優しい行政であってほしいと思います。

年金をもらう 65 歳以上の方を対象に、町職員が自宅を訪ねて元気な人にはこれからでも働ける職を提供する。病弱な方には家族と共に話し合い、今後の生活で不便なことを事前に解決する方法を考える。このような取り組みで、住み心地のよいまちづくりをお願いしたい。

花火大会の次の日に、芦屋橋付近から中ノ浜通りにかけてゴミが散らかっています。

母親も町内で働ける雇用対策をしてほしい。

浜口区の住宅防音工事を実施してください。

孫が病気になった時、時間外だと八幡の救急病院まで行かなければなりません。遠賀郡内に救急病院がほしいです。

まずは町議会の粛正。

町職員が住民と接することが少ない。公務員として本来の仕事をせず、事務所にいることが多い。机の上では、住民の欲することはわからない。

町の職員さんは、町に出て町民と話をしてください。役場に行かないと話を聞いてもらえないのはいけません。特に高齢者は辛抱強く、行くに行けない人が多いです。砂像でもそうですが、何でも長く続けることが大切です。身の丈に合ったことを長く続けることが大切です。

町を非難したチラシがよくポストに入っていますが、何が真実で何が真実でないのか理解できません。自分の欲を考えずに、本当に芦屋町のために努力してほしいです。

町をよくする目標と方策について、シンプルなスローガンで具体化し、その方向に全員で取り組む態勢をつくる。

緑ヶ丘のある棟でエレベーターがつくそうですが、全棟につけてください。お願いします。

無駄な町立病院を建てなくてよい。

もっと若い世帯が増えてほしい。空き家のリフォームなどして、安い家賃で町が大家の代わりを行うことも考えてはどうでしょうか。

山鹿は昔の方が情緒があった。芦屋～山鹿の海辺をもっと魅力的にしてほしい。

郵便ポストが少ない。

60 歳代<76 件>続き
若い人が働ける場所・会社をつくる。若い人が定着するようになれば活気づく。
若い人と言えば役場か自衛隊。周囲を見渡せば皆高齢者の芦屋町。その高齢者を対象に福祉（健康・生きがい等）を充実させ、ユニークな施策で福祉の町を目指してもらいたい。ただ、行政・議会の審議・決定したことにクレームをつけて、町民を混乱させる人達が多々いることに怒りを感じます。世の中はSNSで瞬時に誤りの情報が伝わる中で、HPや相談窓口を強化して、行政と住民の信頼を築いてもらいたい。
若い人に町に居住してもらおうのは限界だと思うので、高齢者が住みよい町を目指し、高齢者住宅や福祉に力を入れてほしい。
若松・脇田の釣り桟橋のような場所をつくってもらいたい。人が集まり交流が広がる。
若者や子育て家族が住みやすいまちづくり。例えば、子育て世帯の税金を安くしたり、家賃の支援をする。また、保育園・幼稚園の支援を手厚くする等。
私は休日の好天の日は車で海浜公園に行くのですが、夏休み期間中は駐車場が有料となるので困っています。町内居住者は無料で駐車場が利用できるようお願いいたします。

70 歳以上<77 件>
芦屋町の長所と短所を探し、その原因と対策を考究する。町の将来像を明確かつ具体的に示す。それには、行政が主になり原案をつくる。それを町民代表、町議会、外部専門家と検討を重ね、長期目標と短期目標に分け具体的に実行に移す。
イベントに継続性がない。毎年年末に同和のカレンダーを頂くが必要ない。税金の無駄使いだと思う。
火災の時、サイレンだけでなく簡単な場所を伝えてほしい。病院をもう少し活気のある病院にしてほしいです。
交通機関の便利さに力を入れる。学校教育の充実をはかり、塾に行かないくらいの学力をつける。
個人の家の植木が道路に突き出て、通った車に傷がつくことがあります。広報誌等で各自処理をするように呼びかけてほしいです。町内に数か所放送用スピーカーがあるようですが、これまで1回たりとも聞こえたことがありません。町民を無視していると思えません。
空き家の見直しをお願いします。毎日放火の危険に脅かされて生活しています。住民が安全で安心できる町づくりを重点課題として取り組んでください。
芦屋釜の里・歴史の里は必要ないのでは？見学者はいるのですか？また、夏休みに海浜公園で遊びたいのに、入口で駐車料金を取られるので行かれませぬ。花火大会も必要ないと思います。
芦屋中央病院に耳鼻科を早く実現してほしい。
芦屋町をもっときれいに清掃してほしい。
芦屋にしかないものを大切にしたらよいと思う。
芦屋には駅がないため、環境がよい割には、学生を持つ世代はその利便性の悪さから転出が多い。通勤通学時間帯のバスの増便、乗合タクシー等も含め、利便性を向上させて町のアピールの一つとしてはどうでしょうか。
芦屋町が今後発展することを祈っています。
アンケート回答者は、療育手帳を持つ障がい者で識字能力がなく、代筆しました。
アンケートについてよくわからないことが多くて困りました。アンケート調査の方法など考え直してほしいです。町職員全員に調査を実施してほしいです。
アンケートの内容がよくわからないので判断できない。
アンケートを見ながら、あらためて芦屋のことをもっと考えなければと思いました。自分のことばかりでなく若い人のために。
大君運動場横（焼却場跡）のゴミ処分をしてください。悪臭がすることがあります。
書いても何の進歩もない。
買物難民が出ないように、交通や商店を配慮した便利な町づくりに努めてほしいです。
買物に行くのにはまゆうしかない。値段は高いし品数が少なく商品は古い。個人商店ができてほしい。
金屋公園に公衆便所を設置してほしい。

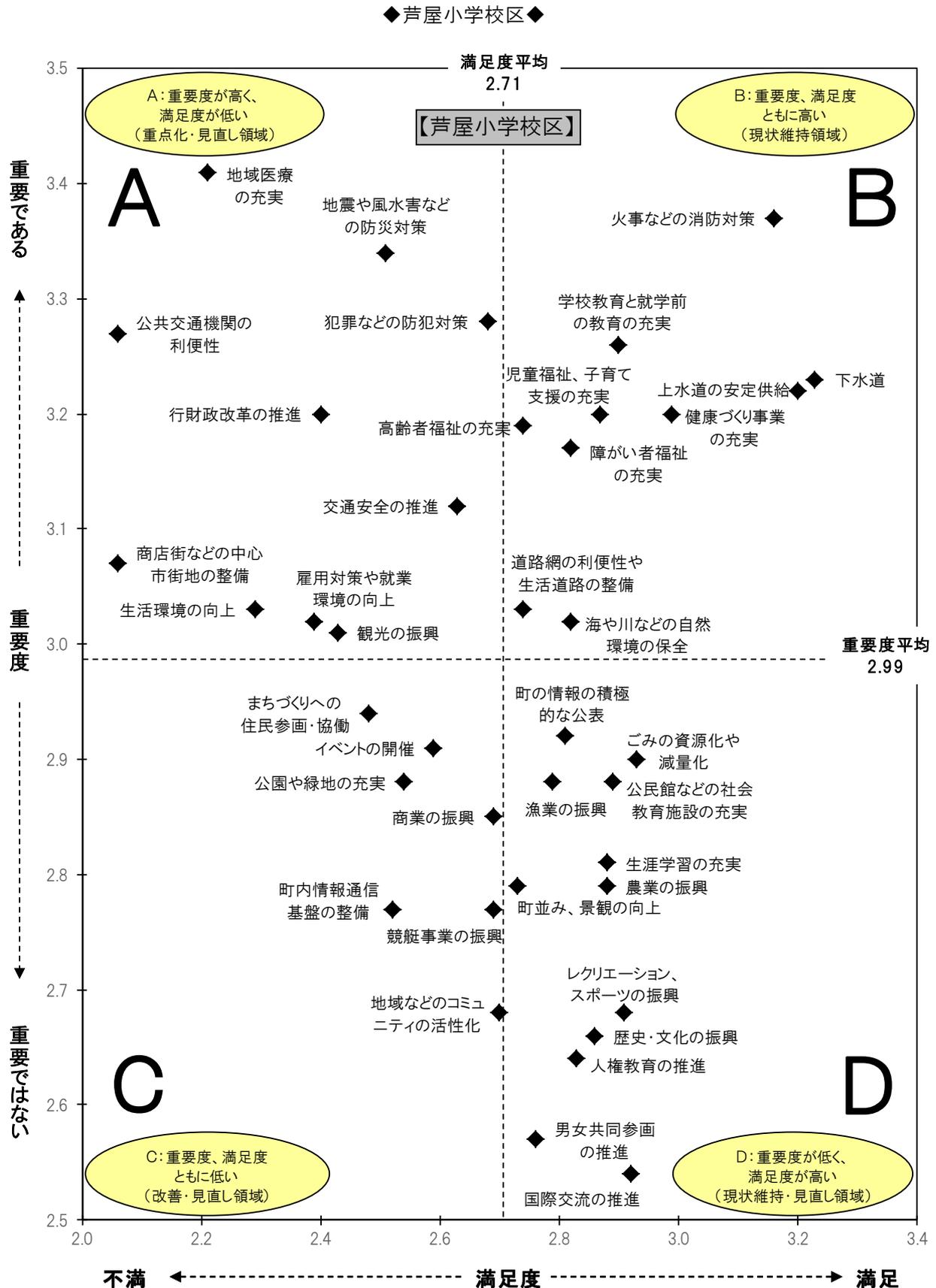
70 歳以上<77 件>続き
議会などで意見が出て、上から潰してしまう空気があると聞いた。怪文書が戸別に配られることもあり、どうなっているのだろうと感ずることもある。建設的で前向きな行政であってほしい。
企業誘致と人口の増加。
北九州市と合併した方がよいと思う。
小・中学校に冷暖房設備を早急に整備するよう熱望します。
このような調査をされる時は、年齢別にしてはどうか。高齢者に学校のことなどを質問されてもわからない。
ゴミ袋を大きくしてほしい。今のは小さすぎる。
今回の調査は自分が関わっていないことが多く全くわかりません。歳を取りすぎていますので今後は若い方をお願いします。
昨年城山の桜の美しさに驚きました。もう少し整備されて宣伝が行き届けば、たくさんの方が来るのではないかと思います。
次世代の若者の育成と家族との絆の大切さが大事ではないかと思います。小さなことからコツコツと始めたらよいと思います。
自然に恵まれ住みやすい町です。ただし、病院は町外へ行っています。早く町内によいお医者様に来ていただきたいです。
住宅周辺の草取り等していると、声かけをしてくれるのは子どもさんや学生さんです。大人は無関心で「隣は何をする人ぞ」です。住民一人ひとりが、将来過疎地にならないように取り組む姿勢が大事だと思います。議員さんも危機感が足りないと思います。
周辺の町に比べて、商業施設の不足が顕著。周辺から人が集まるような状況をつくらないと、町の活性化は望めないと思う。
住民意識調査の結果を広報あしやで発表してほしい。
住民が安心して定住できるまちづくりをしていただきたいです。
住民の意見が反映される計画・事業を行ってください。
住民の意見をもっと聞いて、情報の共有をすることが必要。一つの計画ができたなら、その動向、今どうなっているかなどの経過報告も希望します。町内が一つになって、さびれていく町をもう一度輝かせてほしい。
住民向けレジャー施設など、住民増加に向けてのまちおこし。
樹木の整備がされてよくなってきたと思う。池の汚い箇所があるので何とかしてほしい。
商店街で、地元で生産された農産物や魚介類の土日曜市をやったらどうか。
将来どんな町にしたいのか、その目標を立て、それに向かって何をすればよいのかというところから始める。観光に力を入れるか、企業誘致するか等々、町民が一体となって頑張れる目標をつくる。
女性管理職の登用を積極的に進めるため、人材育成及び採用の段階から配慮してほしい。
進学を見込んで、引っ越しをされる家庭があります。このことを真剣に考えて、流出防止をお願いします。
人口が増えなければ町の繁栄は難しいし財源も増えない。
誰もが芦屋に住んでよかったと思えるような優しいまちづくりをするために、皆で頑張りましょう。
地域創生が日本の大きな課題となっております。芦屋町は美しい海岸線、遠賀川、古い歴史などの特徴があります。これらの資源を有効に活用し、若者が中心となった活気あるまちづくりをお願いします。
中高年になり、いろいろな経験を積み重ねた方が増えてきます。幅広い方に、職業上の視点から見た意見を集約し、ポイントをまとめる方法もよいと思います。
町議会議員がもっと努力・活動すること。
町内を広報車が廻っていますが何を言っているのかわからない。今や高齢者も携帯電話を持っている時代なのでエリアメールを送ってほしい。また、芦屋町民全員の防災訓練をしてほしい。頭ではわかっているけれども実際どのように避難してよいかわからない。
花火大会は継続し、観光資源をもっと整備する。
東小学校から祇園橋の上下は学童道で許可車のみ通行可なのに、スピードを出して通る車が多い。取り締まりを強化してほしい。

70 歳以上<77 件>続き
一人暮らしの人を町や区がどれだけ把握しているか疑問です。声かけ・電話かけが必要では？
福祉タクシーの利用制限を無くしてください。
本気でまちづくりを考えるのであれば、議員や各界の代表者を集めるのではなく、真剣に取り組めるメンバーを集め話し合わせることに。
孫たちに自慢できる芦屋町にしてほしいです。
町が計画し設置した公園を含む公共施設は、つくればそのまま放置され、公園などは荒れ放題です。担当課職員は巡回、手入れを積極的にやるべきです。職員の奮起を促す。
町広報のスピーカーの音が割れて、聞きづらい。
町職員は町内に住み町内で買物をすべきでしょう。
町全体に「これだ」というものがない。希望を持って活動できるものがない。
町に全然活気がないですね。町立病院の先生が落ち着かないので、患者は辛いです。町立病院を建てるとのことですが、建物より人材と医療機器を充実させてください。
町の行政に問題あり。競艇・自衛隊にすぎっているばかりでなく、独自の色を出してほしい。
町の居住者減に歯止めがかからず心配です。全国で芦屋町と同じような環境で人口増に成功した地区はないでしょうか。あれば参考になると思います。
町の計画等に対する住民の意見が、どれだけ取り上げられ計画に反映されているのかわからない。
町の職員は親身に町民のことを気遣ってほしい。一人暮らしで困っている高齢者のことで相談に行ったが、その後のケアを報告せず、町民の協力を求めると言いながら実際は知らんぷり。せめてその後どう処理したかくらいは知らせてほしい。
もっと価格の安いディスカウントスーパーを設置してほしい。
役場職員の勤務の機敏さが欠けている。町内の道路の端にゴミが多い。美化に努めてほしい。
山鹿に大きな施設が集中していて、川の東には何の施設もない。運動公園を作ってはどうかと思う。
豊かな自然を活かし、更にグレードアップした美しい町づくりのため、町民全体でゴミ減量やポイ捨てしないさせない等、環境美化運動を推進させてほしい。
よくインターネット・ホームページでと書いてありますが、老人には無理なことをわかってください。
陸の孤島と言われる芦屋町は、交通の便をもっとよくして若い人が住みやすい町にしなければならない。以前は「太陽とオゾンの町」と言われていたが、その取り組みが少ない。空気の美味しい町として観光に取り入れたらよいと思う。
老人にとっては住みにくい町である。
老人の個人的な意見を聞くのではなく、意見を聞く人の人選もされた方がよいと思います。若い方やいろいろな面で活躍されている方などに聞いてください。私など何のお役にも立ちません。
老若男女の声を取り上げて、町の活性化に努めてください。
若い人が増え、活気づく町になるように願っています。
若者に仕事を。
私の区は高齢者ばかりで自治区に参加する人が少ない。80歳を過ぎても組長になる人がいない。小・中・高校生合わせても5人しかいません。こんな区ではまちづくりなど考えられません。
私の住む団地も高齢化が進んでいる。将来入れる老人ホームがほしい。

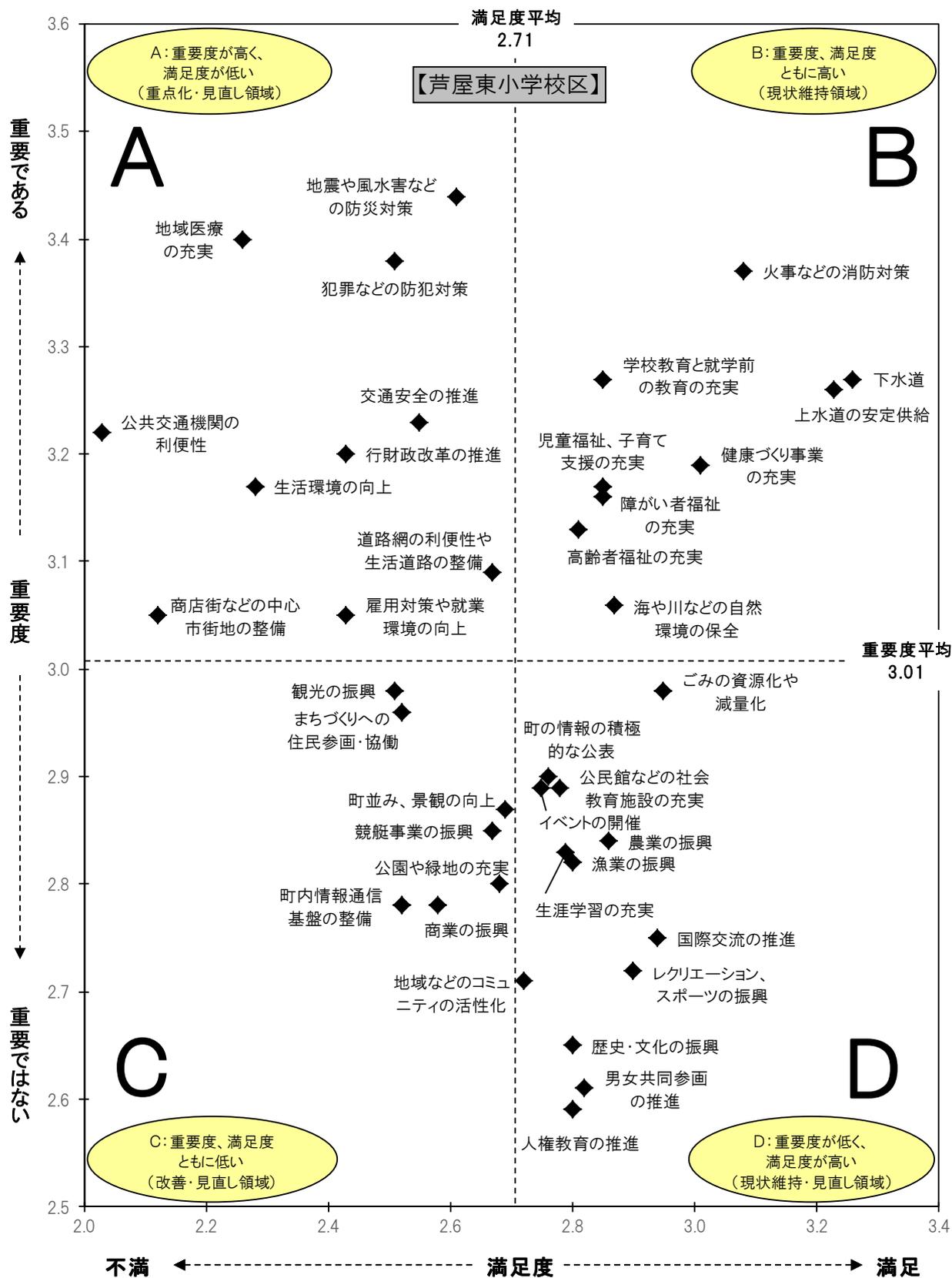
年齢無回答<4 件>
海浜公園、夏井ヶ浜にキャンプ場をつくり、夏季に若者の集まる町づくりをする。65歳以上の方に管理者としての雇用が出て、生きがい生まれる。
高齢者の住みやすいまちづくりをしてほしい。徒歩で行けるスーパーを増やし、医療設備を充実させる。タウンバスの本数を増やす。若い人が働く場所を増やすために、観光や産業を活性化させる。
国民宿舎付近の歩道に、ゴミがたくさん落ちています。また、望海団地の公園は、全く整備ができていません。対処して頂きたいと思います。
財政が厳しい中、議員が多すぎる。

資料編

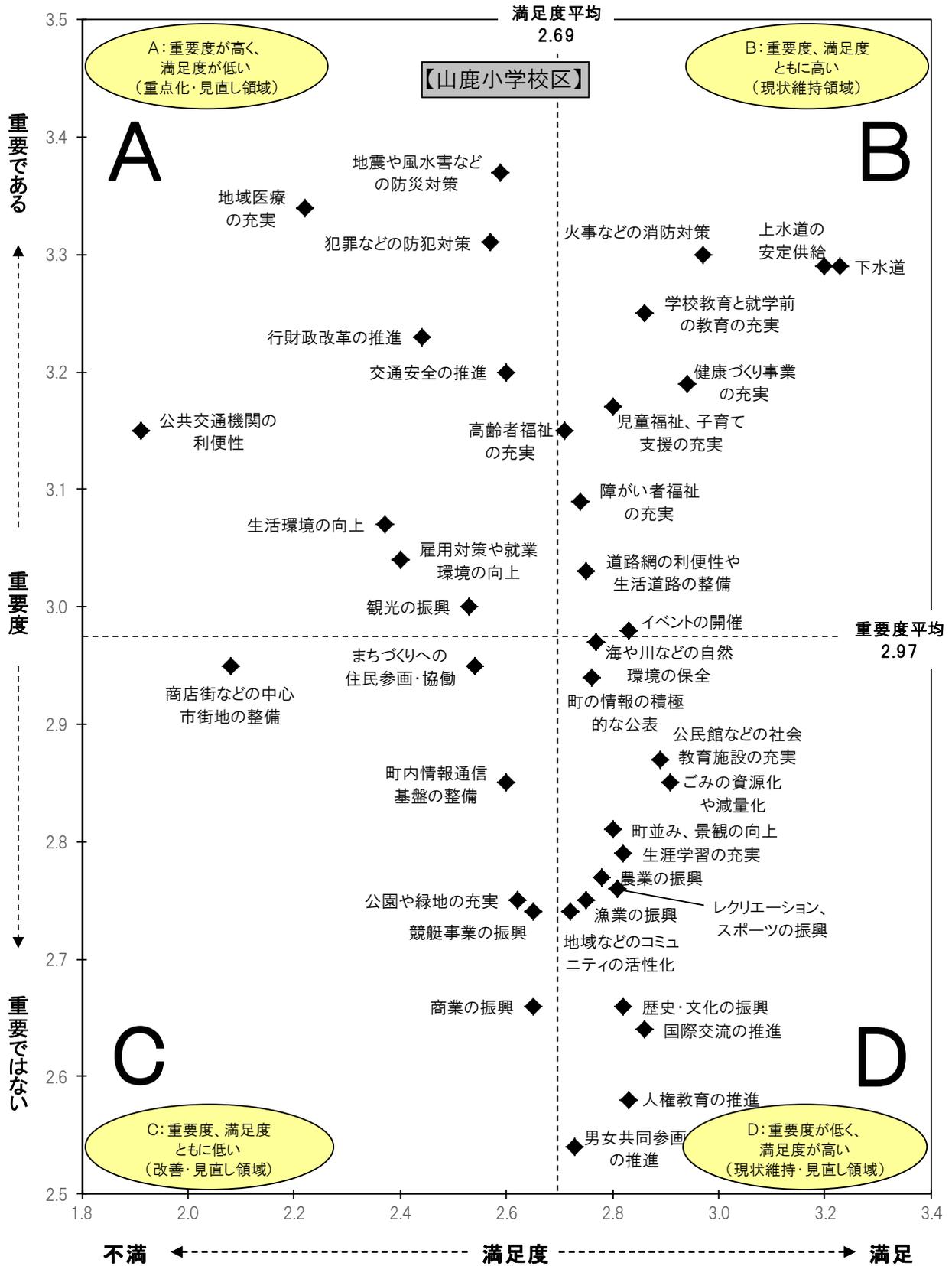
1. 満足度と重要度の相関図による分析（クロス集計：小学校区別・性別・年齢別）



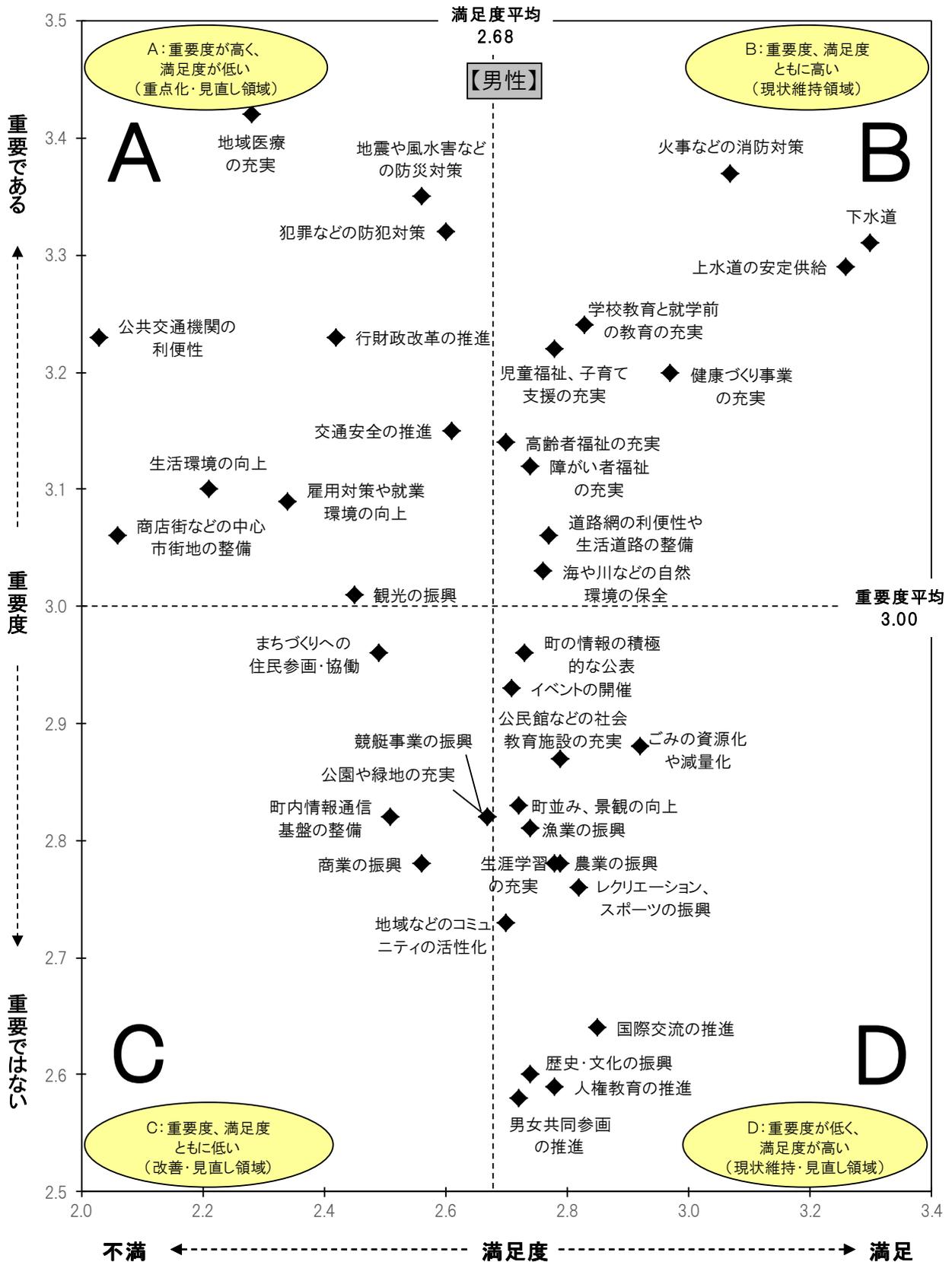
◆芦屋東小学校区◆



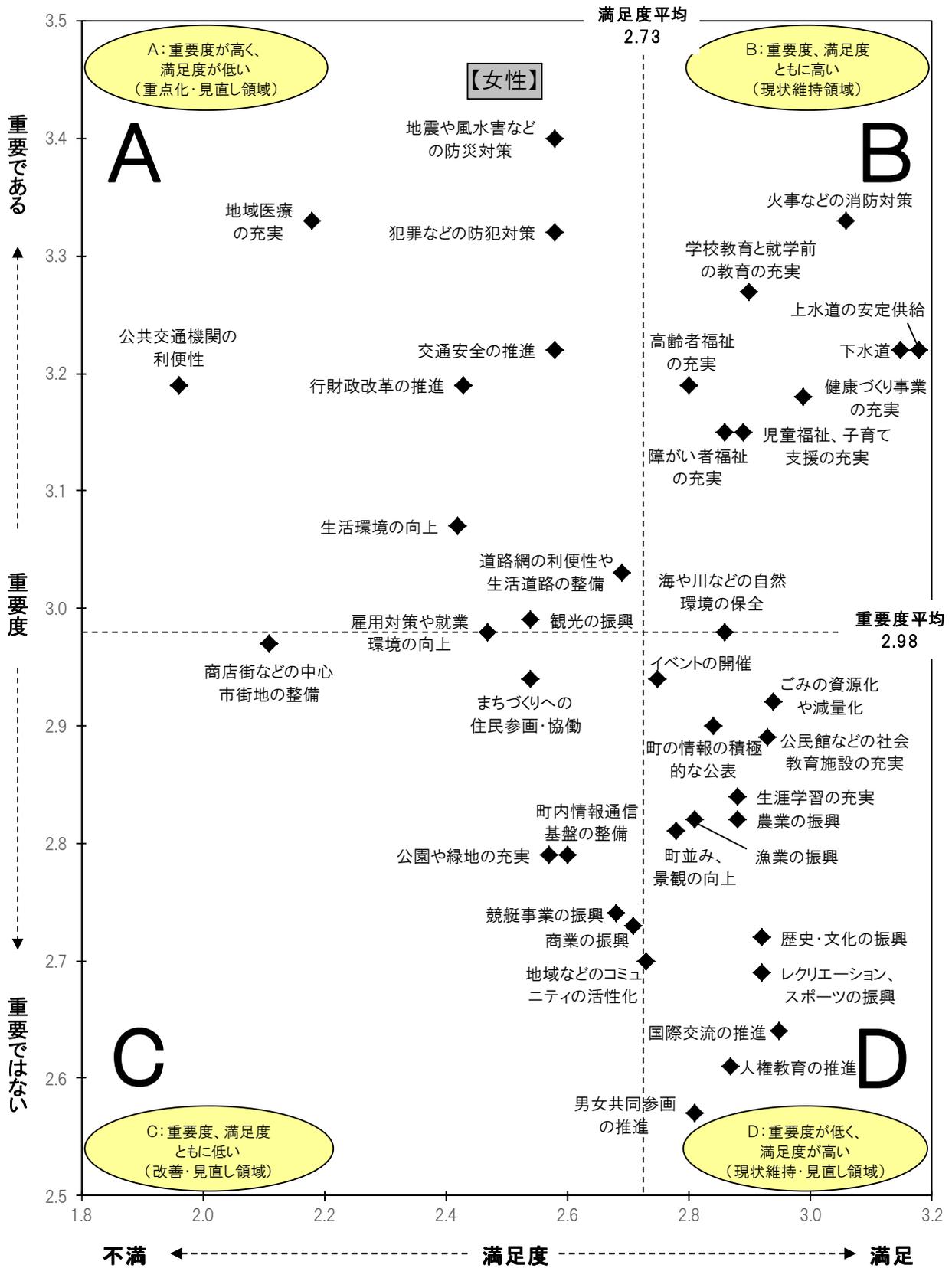
◆山鹿小学校区◆



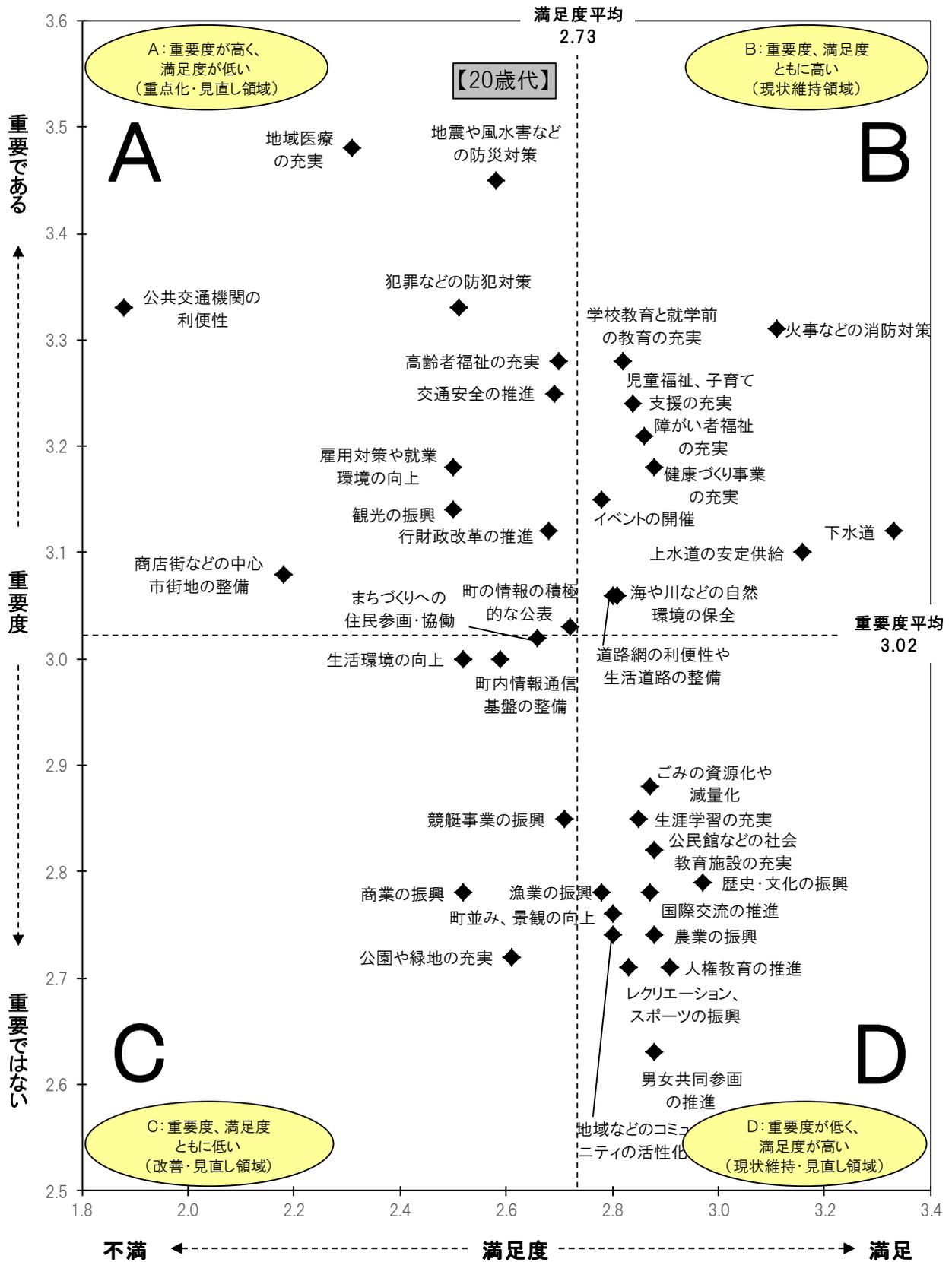
◆男性◆



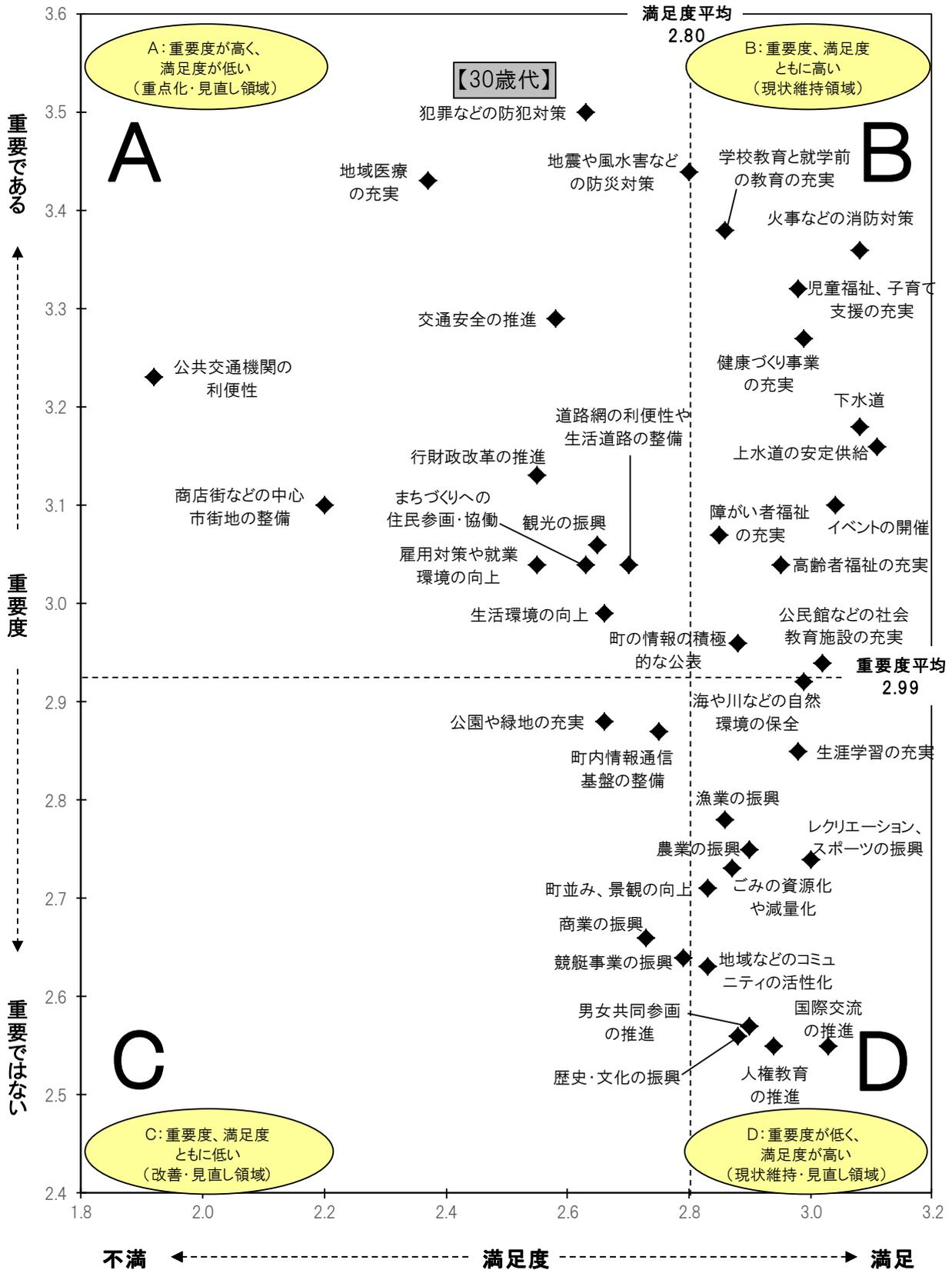
◆女性◆



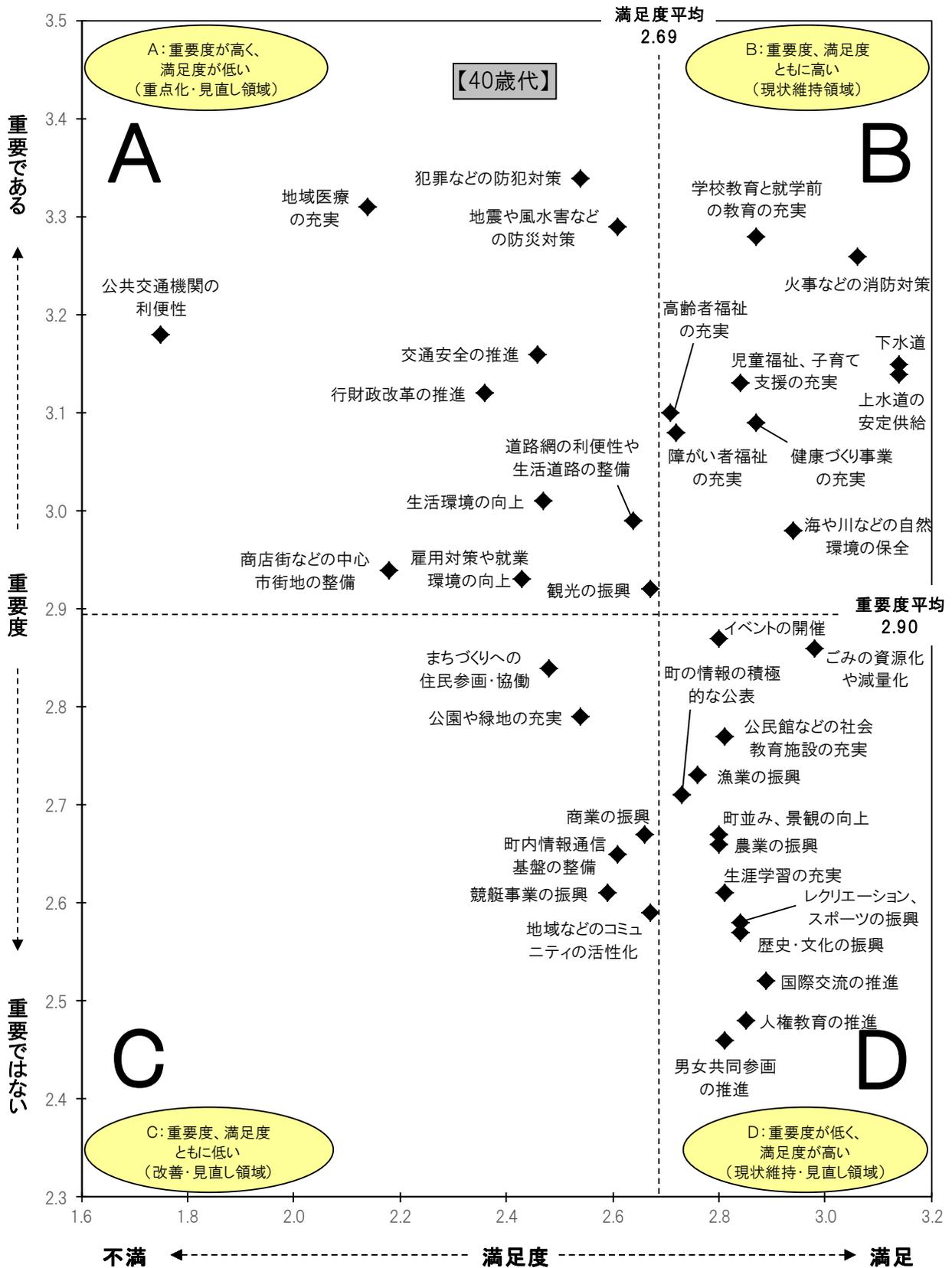
◆20 歳代◆



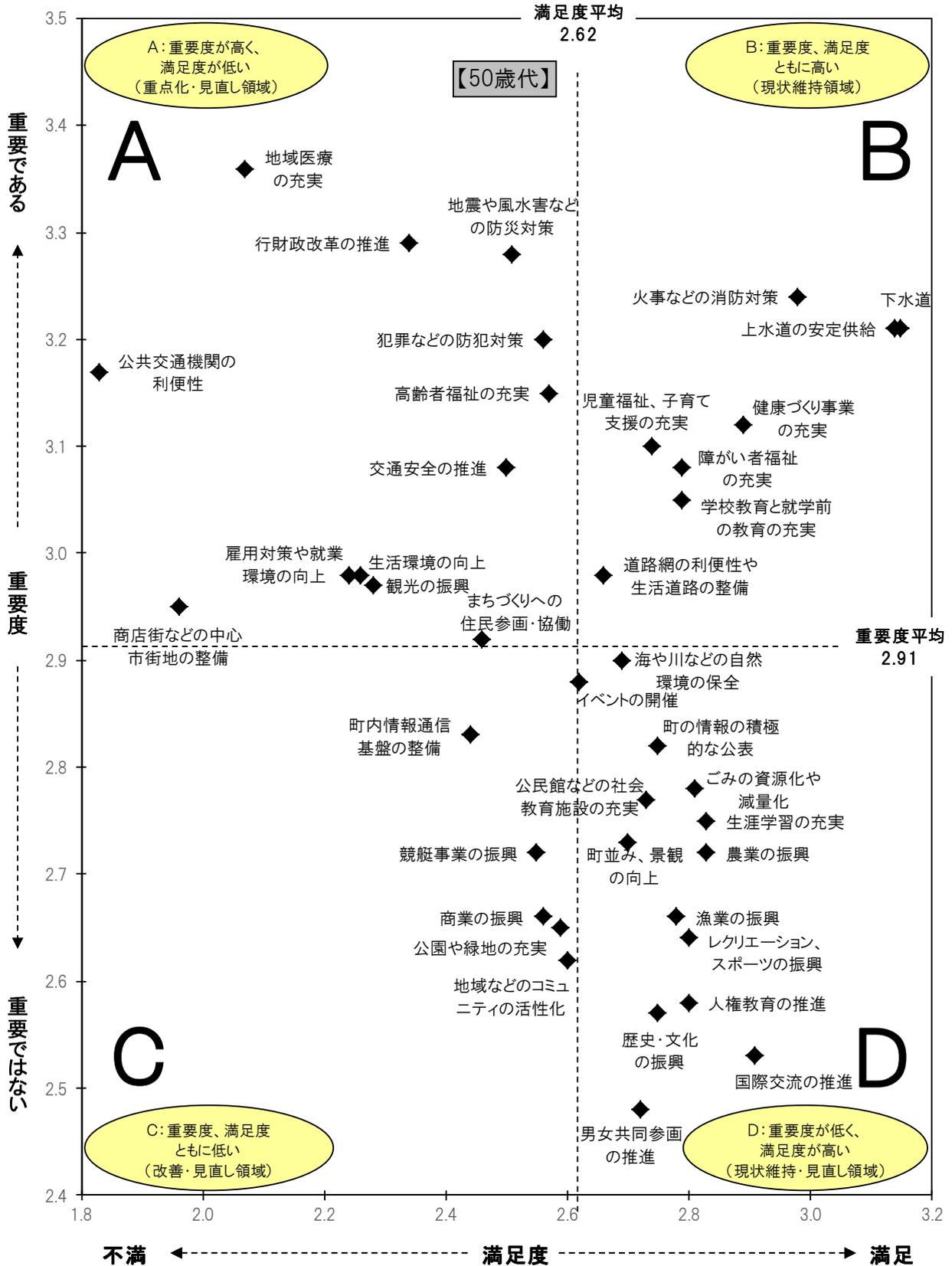
◆30 歳代◆



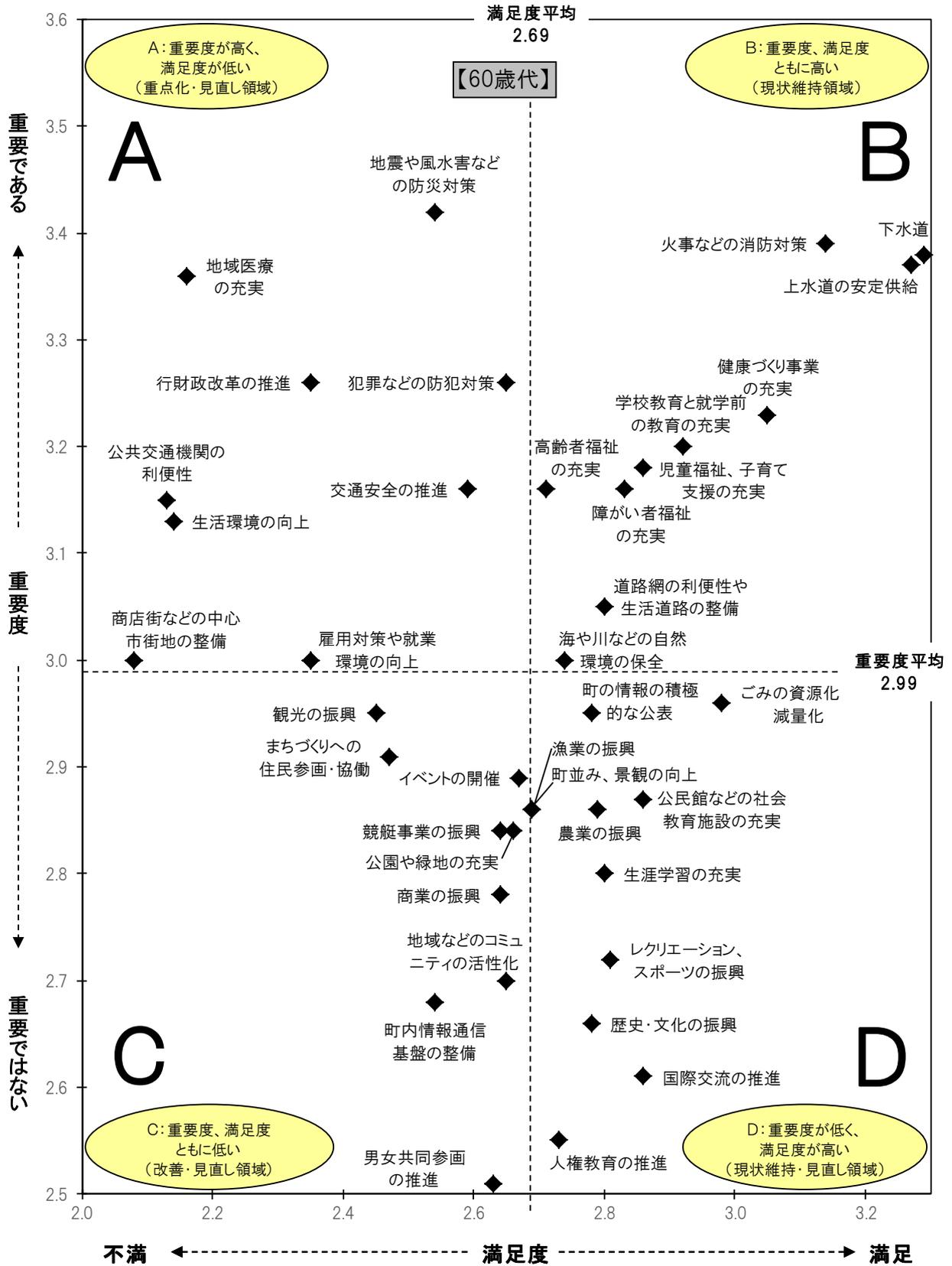
◆40 歳代◆



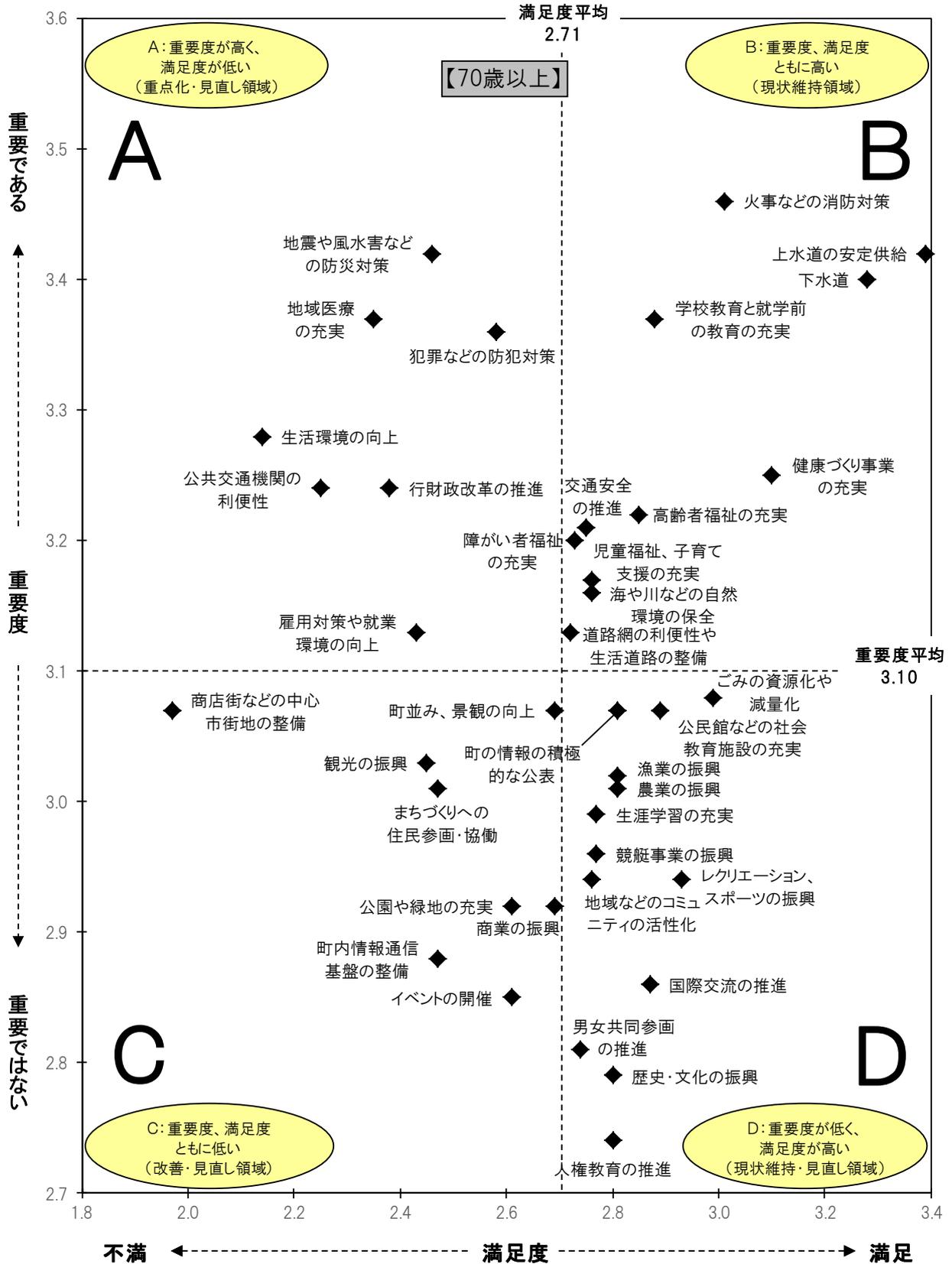
◆50 歳代◆



◆60 歳代◆



◆70歳以上◆



2. 調査票

コミュニティ活動状況調査 (住民意識調査)

調査ご協力をお願い

平素は町政全般にわたり格別のご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、今回送付させていただきました「コミュニティ活動状況調査」は、これまでの町の取り組みに対する住民の皆様の評価や、今後のまちづくりに対する意向などを把握するために実施するものです。また、平成24年度に実施した同様の調査結果との比較・分析を行うことで、町の取り組みなどに関する課題を抽出し、今後の取り組みに活かそうとするものです。

今回の調査は、本町在住の20歳以上の方の中から2,000名の皆様に本調査票をお送りさせていただきました。調査票に記入された内容につきましては、統計的な処理をしたうえで活用させていただくものであり、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しい中誠に恐縮ではございますが、本調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年1月
芦屋町長 波多野 茂丸

ご記入にあたってのお願い

- ・あて名のご本人がお答えください。
- ・氏名や住所は記入しないでください。
- ・個々の調査内容によって、個人が特定されることは一切ございませんので、思いのままにお答えください。
- ・回答の方法は、設問によって「1つに○」、「あてはまるものすべてに○」など指定されていますので、その指示に従ってください。
- ・ご記入いただいた調査票は、**2月5日(木)**までに、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて投函してください。(切手を貼る必要はありません。また、差出人の名前を書く必要もありません)

【調査に関するお問い合わせ先】

芦屋町役場 企画政策課 企画係
電話：(093) 223-3570 (直通) FAX：(093) 223-3927

あなたご自身のことについて

問1 お住まいの小学校区

- | | | |
|-----------|------------|-----------|
| 1. 芦屋小学校区 | 2. 芦屋東小学校区 | 3. 山鹿小学校区 |
|-----------|------------|-----------|

問2 性別

- | | |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|

問3 年齢

- | | | |
|---------|---------|----------|
| 1. 20歳代 | 3. 40歳代 | 5. 60歳代 |
| 2. 30歳代 | 4. 50歳代 | 6. 70歳以上 |

問4 職業（主なもの1つに○）

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 農林漁業 | 7. 金融・保険・不動産業 |
| 2. 製造業、工業 | 8. 公務員 |
| 3. 建設業 | 9. 主婦・主夫（専業） |
| 4. 商業（小売、卸売、飲食） | 10. パート・アルバイト |
| 5. サービス業（公務員を除く） | 11. 学生・無職 |
| 6. 運輸通信業 | 12. その他（ ） |

問5 家族構成（※ご一緒にお住まいのご家族についてお答えください）

- | | |
|--------------------|--------------------------------|
| 1. 単身者（1人住まい） | 4. 三世代家族（夫婦・子ども・孫など） |
| 2. 夫婦のみ | 5. その他（ ） |
| 3. 二世代家族（夫婦と子どもなど） | |

問6 芦屋町での通算居住年数

- | | |
|---------------|----------------|
| 1. 1年未満 | 4. 10年以上 20年未満 |
| 2. 1年以上 5年未満 | 5. 20年以上 30年未満 |
| 3. 5年以上 10年未満 | 6. 30年以上 |

町の暮らしやすさについて

問7 芦屋町は住みよいと感じていますか。(1つに○)

1. 住みよい	3. あまり住みよくない
2. まあまあ住みよい	4. 住みにくい

▶ 選択肢を選んだ理由

()

問8 今後も芦屋町に住み続けたいですか。(1つに○)

1. ずっと住み続けたい	3. いずれ町外に出て行きたい
2. 当分は住み続けたい	4. わからない

▶ 1. ~3. を選んだ理由

()

町の取り組みに対する満足度・重要度について

問9 芦屋町のこれまでの取り組みについて、あなたはどのくらい満足し、また、重要とお考えですか。（各項目について、「満足度」、「重要度」からそれぞれ1つずつに○）

あなたの考え 項目 代表的な事業など		満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	極めて重要	重要	い	あまり重要でない
1	公共交通機関の利便性 ・町内を運行する北九州市営バス、芦屋タウンバスの路線や運行本数、巡回バスの運行など	1	2	3	4	1	2	3	4
2	道路網の利便性や生活道路の整備 ・幹線道路、身近な生活道路の利便性、整備の状態など	1	2	3	4	1	2	3	4
3	交通安全の推進 ・交通安全運動の実施、カーブミラーや道路照明などの交通安全施設の設置状況	1	2	3	4	1	2	3	4
4	上水道の安定供給 ・北九州市による水道事業の経営	1	2	3	4	1	2	3	4
5	下水道 ・浄化センターなどの施設維持、下水道管の維持	1	2	3	4	1	2	3	4
6	地震や風水害などの防災対策 ・自主防災組織への支援、防災地図や防災訓練の実施、防災無線の整備や避難所の設置状況など	1	2	3	4	1	2	3	4
7	火事などの消防対策 ・消防車などの消防機材の整備、消防団活動の支援	1	2	3	4	1	2	3	4
8	犯罪などの防犯対策 ・自治防犯組合の町内巡回活動の支援、見回りの強化、防犯街灯の設置	1	2	3	4	1	2	3	4
9	町並み、景観の向上 ・誘導看板や総合案内板などの整備状況、屋外看板などの許可制度	1	2	3	4	1	2	3	4

問9のつづき

あなたの考え 項目 代表的な事業など		満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	極めて重要	重要	い	あまり重要でない
10	公園や緑地の充実 ・中央公園や各自治区の公園、夏井ヶ浜はまゆう公園や海浜公園、魚見公園などの維持や整備	1	2	3	4	1	2	3	4
11	ごみの資源化や減量化 ・コンポスト助成制度や、ダンボールコンポストの普及、子ども会などによる資源物の集団回収奨励制度	1	2	3	4	1	2	3	4
12	海や川などの自然環境の保全 ・ラブアース活動(海岸線や河川の一斉清掃)など	1	2	3	4	1	2	3	4
13	生活環境の向上 ・不法投棄防止パトロール、放置自転車対策、不法係留船対策など	1	2	3	4	1	2	3	4
14	農業の振興 ・農業用道路や用水路、ため池などの維持や整備	1	2	3	4	1	2	3	4
15	漁業の振興 ・漁港や漁業施設の維持や整備	1	2	3	4	1	2	3	4
16	商業の振興 ・にこにこ商品券・高額商品券発行の補助、商工業者への運営や設備資金の借入支援など	1	2	3	4	1	2	3	4
17	商店街などの中心市街地の整備 ・空き店舗活用の補助制度、商工会事業への支援など	1	2	3	4	1	2	3	4
18	観光の振興 ・国民宿舎・レジャープールアクアシアン・芦屋海水浴場の運営、観光情報の発信	1	2	3	4	1	2	3	4
19	イベントの開催 ・あしや砂像展実施、花火大会や祭りあしやなどの開催支援	1	2	3	4	1	2	3	4
20	地域医療の充実 ・中央病院の医療機器の充実や町内の医院との連携	1	2	3	4	1	2	3	4

問9のつづき

あなたの考え 項目 代表的な事業など		満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	極めて重要	重要	いあまり重要でない	重要でない
21	健康づくり事業の充実 ・特定健診・がん検診の実施、健康・運動教室の実施	1	2	3	4	1	2	3	4
22	高齢者福祉の充実 ・介護予防事業、老人憩いの家の運営、敬老祝金、給食サービスの実施など	1	2	3	4	1	2	3	4
23	障がい者福祉の充実 ・放課後等の障がい児デイサービス、福祉タクシーチケット給付、紙おむつ給付の実施など	1	2	3	4	1	2	3	4
24	児童福祉、子育て支援の充実 ・乳幼児子ども医療費の拡充、学童クラブの運営、子育て支援センターの運営や育児教室の実施など	1	2	3	4	1	2	3	4
25	学校教育と就学前の教育の充実 ・小学校4年生までの35人学級の実施や中学校3年生への放課後特別授業の実施 ・さわやかプロジェクト(確かな学力・豊かな心・特別支援教育・たくましいからだ)の推進 ・保育所・幼稚園・小学校・中学校の連携	1	2	3	4	1	2	3	4
26	生涯学習の充実 ・各公民館講座、祖父母学級、同好会活動などの推進、文化協会への活動支援	1	2	3	4	1	2	3	4
27	公民館などの社会教育施設の充実 ・中央公民館、東公民館、山鹿公民館、図書館、町民会館などの運営	1	2	3	4	1	2	3	4
28	人権教育の推進 ・人権まつり、人権講演会の実施、人権カレンダーの発行や人権啓発の実施など	1	2	3	4	1	2	3	4
29	地域などのコミュニティの活性化 ・自治区活動への支援、自治区担当職員制度(職員が地域活動に参加し、町民による自主的な地域づくりのサポートを行う活動)の推進、町民体育祭の実施	1	2	3	4	1	2	3	4

問9のつづき

あなたの考え 項目 代表的な事業など		満足度				重要度			
		満足	やや満足	やや不満	不満	極めて重要	重要	い あまり重要でない	重要でない
30	レクリエーション、スポーツの振興 ・総合体育館・武道館などの運営、スポーツ教室の開催、スポーツ大会や体育協会への支援	1	2	3	4	1	2	3	4
31	歴史・文化の振興 ・芦屋釜の里の運営やさくらコンサートなどの事業、歴史の里の運営や企画展の実施、ギャラリーあしやの運営	1	2	3	4	1	2	3	4
32	国際交流の推進 ・国際交流協会への支援、中学生のホームステイ事業	1	2	3	4	1	2	3	4
33	男女共同参画の推進 ・男女平等や相互理解についての講演会や啓発などの実施	1	2	3	4	1	2	3	4
34	雇用対策や就業環境の向上 ・企業誘致を促進する条例、創業等促進支援事業補助金制度など	1	2	3	4	1	2	3	4
35	町内情報通信基盤の整備 ・公共施設間の光ファイバー網の整備、インターネットを利用した住民サービスの提供	1	2	3	4	1	2	3	4
36	町の情報の積極的な公表 ・広報あしやの発行、出前町長室、出前講座、町のホームページ運営	1	2	3	4	1	2	3	4
37	まちづくりへの住民参画・協働 ・住民と行政との情報の共有、パブリックコメントの実施、計画などへの住民の意見の反映	1	2	3	4	1	2	3	4
38	競艇事業の振興 ・売上向上に向けた取り組み(発売日数の増、グレードレース誘致、モーニングレース実施など)、ボートピアの設置、施設の整備改善、多目的利用	1	2	3	4	1	2	3	4
39	行財政改革の推進 ・歳出の抑制、自主財源の確保、各種事務事業の見直しなど	1	2	3	4	1	2	3	4

◆環境問題への取り組みについて

問 13 あなたは、日ごろから環境問題について、どのような取り組みをされていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 資源物集団回収への協力	4. 公共交通機関の利用
2. ごみの分別	5. その他 ()
3. 節電・節水	

◆防災について

問 14 あなたは、地震や洪水に備えてどのようなことが必要と考えていますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 地域の防災組織の確立	4. 防災に関する学習
2. 日ごろの近所付き合い	5. 防災用品の準備
3. 避難場所の確認	6. その他 ()

◆観光の活性化について

問 15 あなたは、町の観光をより推進するために、今後どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 花火大会や砂像などのイベントの実施・充実
2. 洞山や海水浴場をはじめとする観光地の新たな整備
3. 観光地(夏井ヶ浜はまゆう公園、海浜公園、レジャープールアクアシアン、芦屋海岸、洞山など)の活用や清掃などの維持管理・自然環境の保持
4. 観光情報やイベントなどの周知・PR
5. 特産品やグルメの開発
6. 観光に携わる人材の育成
7. 観光ルートマップなどの作成
8. その他 ()

問 21 住民の意見をもっと反映するために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。
(2つまでに○)

- 1. 町と住民の情報の共有を積極的に進める
- 2. 町の計画づくりに、住民が参画する機会を増やす
- 3. 町の計画づくりの際に、住民の意見を聞く機会を増やす
- 4. 町が設置する委員会の委員を住民から公募する。または公募枠を増やす
- 5. 町が実施した事業の成果を評価する機会に、住民が加わるようにする
- 6. 住民が事業を提案し、住民が事業を行えるような制度をつくる
- 7. その他 ()

問 22 まちづくりを行う際、住民の意見を集めるために、どのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(2つまでに○)

- 1. アンケート調査(意識調査)を定期的に行う
- 2. 広報を通じた意見募集を定期的に行う
- 3. インターネットのホームページに書き込みコーナーを設置する
- 4. 町内各所に意見箱を設置する
- 5. 住民相談の窓口や機会を増やす
- 6. 町長が住民と対話する機会を充実する
- 7. 町職員が日常的に町に出て住民の声を聞く機会を増やす
- 8. 必要ない
- 9. その他 ()

最後に、芦屋町のまちづくりについて、ご意見等ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

コミュニティ活動状況調査 報告書

発行／平成 27 年 3 月
発行 者／福岡県 芦屋町
編 集／芦屋町 企画政策課
〒807-0198
福岡県遠賀郡芦屋町幸町 2 番 20 号
TEL (093) 223-0881 (代)
FAX (093) 223-3927
